

「弥生時代から古墳時代」

『出雲勢力??』

日本古代史ネットワーク・解明委員会 : 基本レポート

2021年11月13日

丸地三郎

出雲族

- 古事記に記された「神話」の中で、
 - 多くの頁を割かれたのは「出雲神話」
 - 天孫族の神話は少ない。
- 日本書紀・古事記に記される天孫族と出雲族の争い
 - 天孫族の所在地は、九州と理解できる。
 - 出雲族は、島根県東部の「出雲国」に拠点があると思える。
 - その勢力範囲はどこまで広がっていたのか？
 - 畿内は出雲族の勢力範囲？
 - 関東・東北は？
 - その他の地域では、何処まで広がっていたのか？
 - 九州には出雲勢力は居たのか？
 - その範囲は？
 - 天孫降臨や天菩比神の派遣時に示される荒々しい国の現状
- 出雲族の勢力範囲はどこまで広がっていたのか？

天孫族と出雲族

- 古事記・日本書紀には、天孫族と出雲族の抗争の記録が残されている。

その概要を改めて記す。

1. 天照大神(アマテラスオオカミ)と須佐之男命(スサノオノミコト)の対立

- ① 天照大神が**武装して**、須佐之男命(スサノオノミコト)の到来を待つ
 - ・ 天照大神と須佐之男命の誓約 ・ **須佐之男命の狼藉** ・ 天の岩戸事件

2. 須佐之男命の追放

- ① 八岐大蛇退治と出雲の国造り

3. 大国主命の神話

- ① 八上比売への求婚の旅 ・ 因幡(イナバ)の白兔神話
 - ・ 根の国訪問(須勢理毘売命との婚姻) ・ 奴奈川比売へ求婚 ・ 須勢理毘売命の嫉妬

- ① 少名毘古那神と国造り

4. 出雲の国譲り (葦原中国の平定)

- ・ 天菩比神の派遣 ・ 天若日子の派遣

- ① 建御雷神の派遣

- ・ 事代主神の服従 ・ **建御名方神の不服従と服従** ・ 大国主命の国譲り

5. 天孫降臨

- ① 天忍穗耳尊(アマノオシホミミノミコト) 降臨せず ・ 子の瓊瓊杵尊(ニニギノミコト) 降臨

- ② 火遠理命(ホオリノミコト)

- ・ 海幸彦・山幸彦
- ・ 海神の宮訪問
- ・ 火照命(ホデリノミコト)の服従
- ・ 鵜葺草葺不合命(ウガヤフキアエズノミコト)誕生

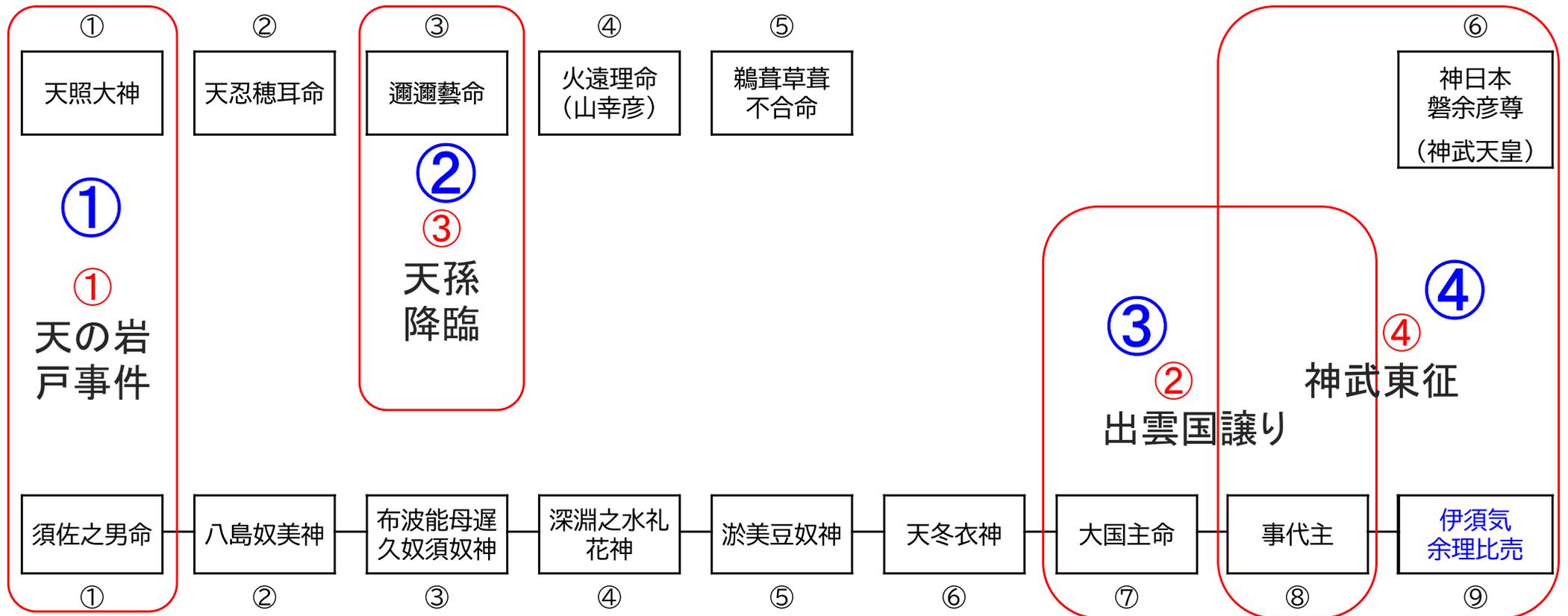
6. 神武東征

- ① 五瀬命と3兄弟で東征の会議
- ② 筑紫の岡田宮・阿岐(アキ)国の多祁理宮(タケリノミヤ)・吉備(キビ)国の高島宮(タカシマノミヤ)
- ③ 浪速(なにわ)国の白肩津(シラカタノツ)
 - ・ 長兄の五瀬命が負傷、退却 ・ 東から攻めることを宣言 ・ 紀国の男之水門(オノミナト) (五瀬命死亡)
- ④ 熊野で暴風雨に遭遇 (残る2兄 海難死亡)
 - ・ 神武とその配下が熊野の荒坂津へ丹敷戸畔を誅す ・ 高倉下(タカクラジ)が剣発見、大和へ進軍
 - ・ 菟田(ウダ)・国見丘・鳥見(トミ)など転戦
- ⑤ 大和入り
 - ・ 天津瑞の提示 ・ 饒速日命)が 恭順 ・ 戦闘終結
 - ・ 大和入りし、畝火の白橿原宮で即位
 - ・ 事代主の娘(伊須気余理比売(イスケヨリヒメ))を皇后に選定

7. 手研耳命(タギシミミ)の乱と後継天皇

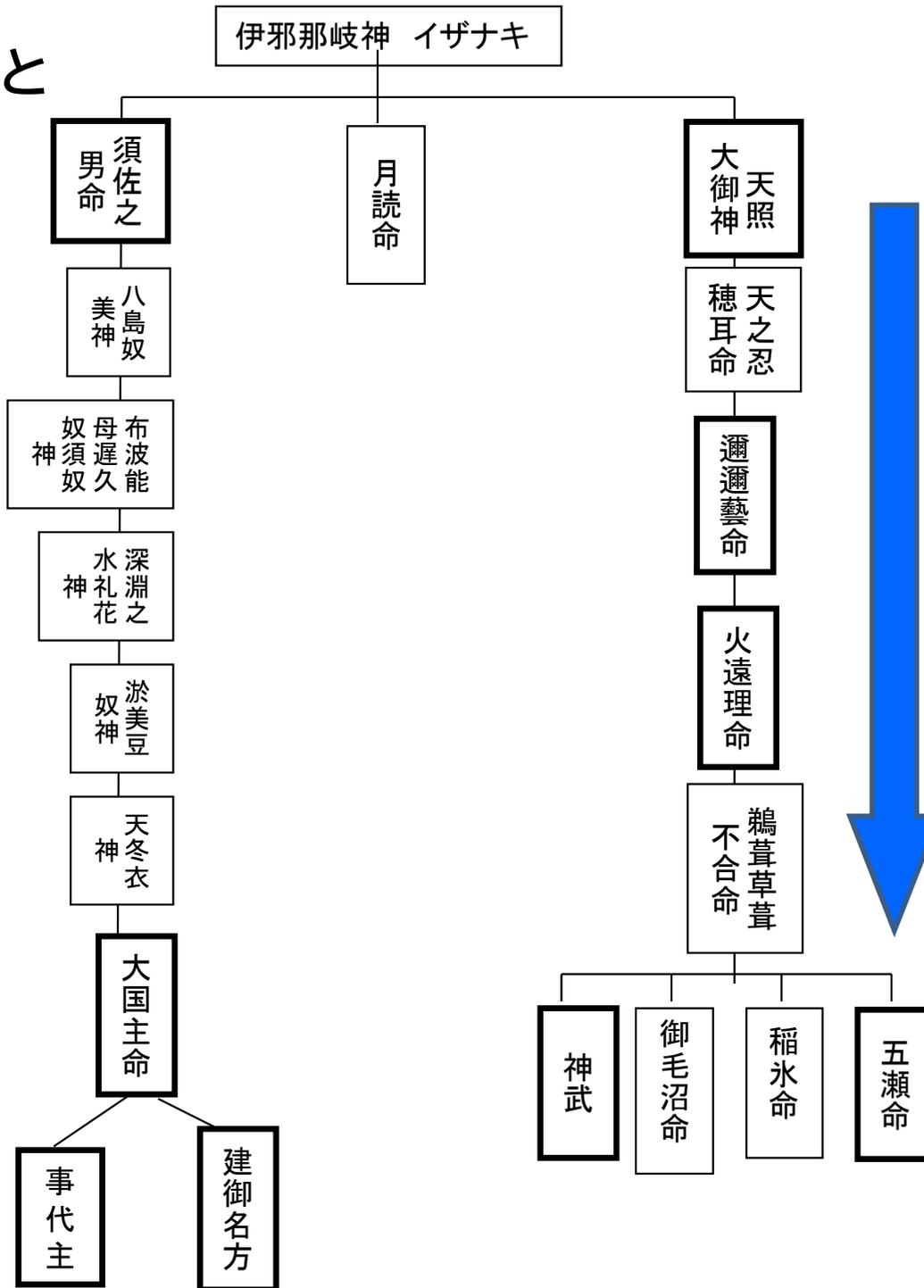
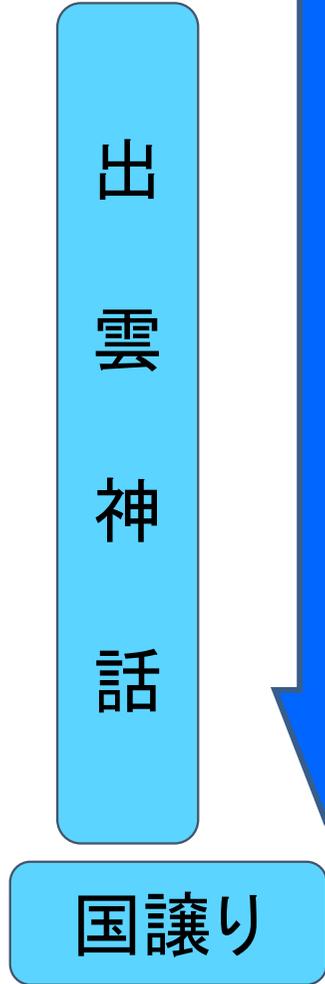
- ① 手研耳命の乱 (神武天皇の崩御後、九州から同行した子が権力奪取)
- ② 皇后(伊須気余理比売)の子:神沼河耳命が、手研耳命を殺害
 - ・ 綏靖天皇として即位
 - ・ 綏靖天皇、事代主の娘(五十鈴依媛命)を皇后とする
 - ・ 子の安寧天皇が即位 ・ 安寧天皇、事代主の孫娘を皇后とする

神話の事件と登場人物



登場人物の系統図と

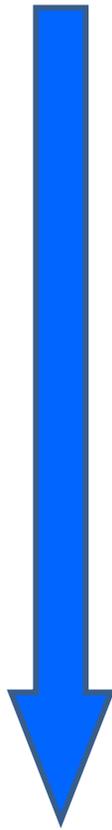
話の展開



天孫降臨

海彦山彦

東征



天孫族と出雲族の争い

- 日本神話は、天孫族と出雲族の争いで始まり、大和朝廷成立後も、出雲族の勢力は朝廷内で大きな力を持つ。
 1. 天照大神と須佐之男命の対立
 - 天須佐之男命の追放
 2. 大国主命の神話
 3. 天孫降臨
 4. 出雲の国譲り（葦原中国の平定）
 - 天菩比神の派遣 ・ 天若日子の派遣
 - 建御雷神の派遣
 - 事代主神の服従 ・ 建御名方神の不服従と服従 ・ 大国主命の国譲り
 5. 神武東征
 6. 手研耳命(タギシミミ)の乱と後継天皇
- 武力衝突の実態やその場所に関しては曖昧な記述が多い
 - 天照大神の武装した場所は、高天原
 - 須佐之男命の狼藉の場所は、高天原
 - 出雲神話に見る繁栄は、何処まで広がっていたのか？
 - 天孫降臨の前の不穏な情勢の記述は、出雲族の侵攻と圧力を示すのでは？
 - 天孫降臨？ 弱体化した天孫族の逃避先 それは何処か？ 遠方か、近くか。
 - 出雲国譲りの前の天菩比神と天若日子の派遣は何の目的？ その結果は？
 - 優勢の出雲が何故、突然、国譲りに応じたのか、疑問。
 - 出雲国の伊那佐之小浜の強談判の前に武力衝突は無かったのか？
 - 建御雷之男神と建御名方神の武力衝突は、実際にあったのか？
- 武力衝突を示唆する記述があるが、証拠は有るのか？ 出雲族の実態を示す証拠は無いのか？ 検討する。

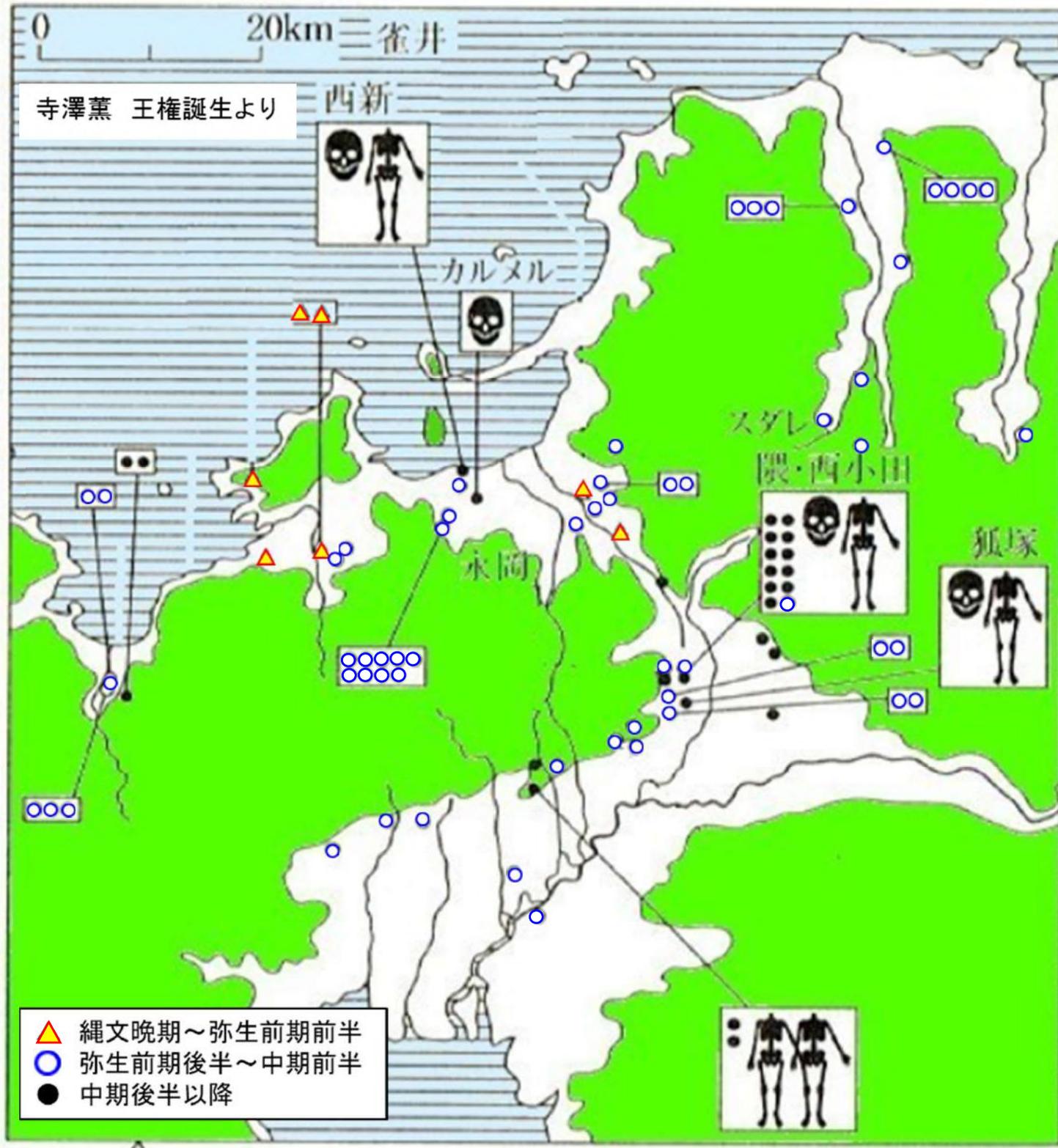
- 武力衝突の証拠
 - 戦傷遺跡
 - 高地性集落

- 出雲族の実態を示す証拠
 - 青銅製武器の分布
 - 銅鐸の分布
 - 鉄器の分布
 - 勾玉・管玉の流通
 - 出雲族を祭神とする神社の分布

- 以上から推論して行く・

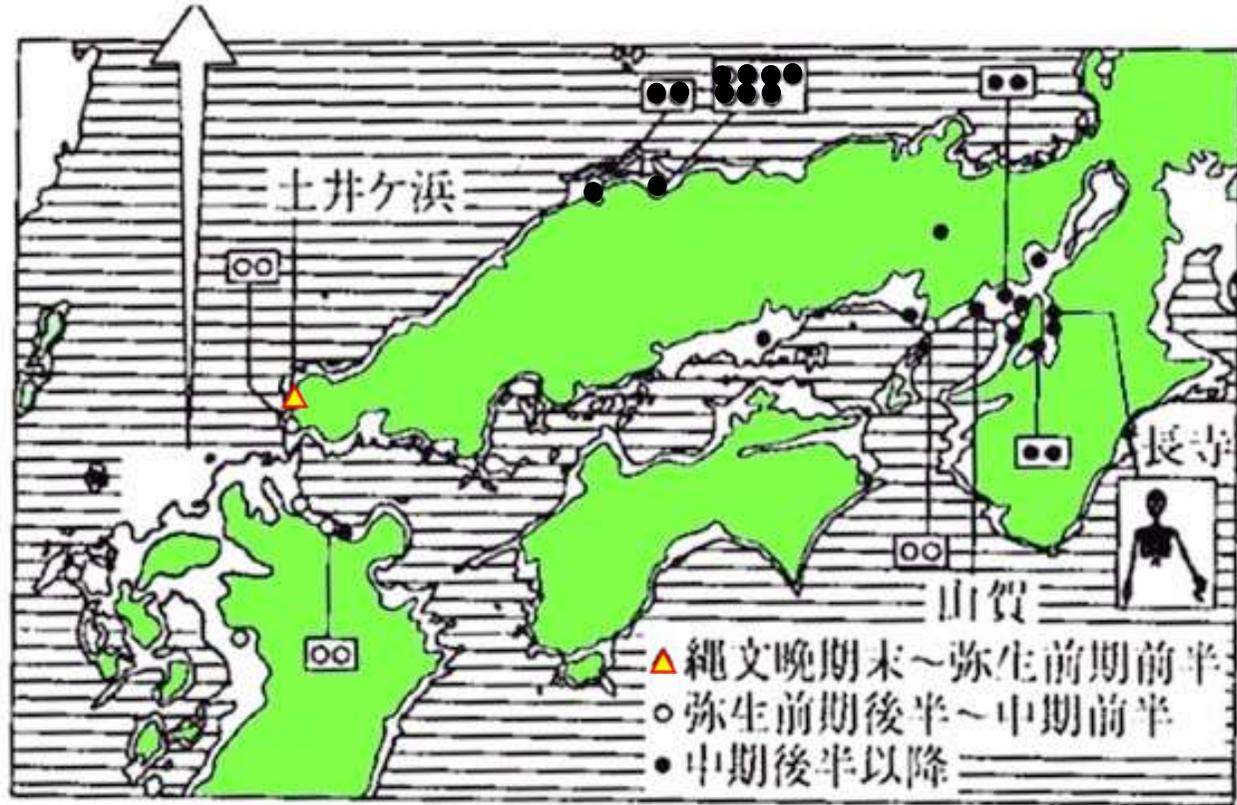
戦争遺跡

寺 沢 案						
実年代	時代	時期	近畿編年	北九州編年		
500	縄文	晩期後半(突帯文土器)	滋賀里IV式	山ノ寺式(曲り田式)		
前5世紀			(口酒井)	1		
400			船橋式	夜白式		
前4世紀				2		
300	弥生	前期	長原式	板付I式		
前3世紀			1	板付II式	1	
			2		2	
			3		3	
			4		3	
前2世紀			1	城ノ越式	1	
			2			
			3			
100			中期	第III様式	1	
					2	須玖式
					3	4
前1世紀			中期	第IV様式	1	2
	2	3				
	3	4				
	4	5				
1世紀	後期	第V様式	0	高三瀧式		
			1	1		
2世紀	後期	第VI様式	2	2		
			3	3		
			4	4		
3世紀	(初頭)前期	庄内式	0	西新式		
			1		5	
300	古墳	布留式	2	(土師器)		
			3		Ia	
			3		Ib	
			4		IIa	
400	古墳	(須恵器)	3	IIb		
			4	IIIa		



戦争遺跡

寺 沢 案							
実年代	時代	時期	近畿編年	北九州編年			
500	縄文	晩期後半(突帯文土器)	滋賀里Ⅳ式	山ノ寺式 (曲り田式)			
前5世紀			(口酒井)	1			
400			船橋式	夜臼式			
前4世紀				2			
300	弥生	前期	長原式	板付Ⅰ式			
前3世紀			1	板付Ⅱ式	1		
			2		2		
			3		3		
			4		3		
前2世紀			1	城ノ越式	1		
			2		須玖式	2	
			3			3	
前1世紀			1	第Ⅲ様式	1		
			2		2		
			3		3		
			4		4		
B. C.	代	中期	1	須玖式			
A. D.			2		4		
			3		5		
			4		1		
			1世紀	0	高三瀨式	1	
100			1	2			
2世紀			2	3			
200			後期	第Ⅴ様式	1	下大隅式	
					2		3
					3		4
					4		4
3世紀			(初頭)	前期	庄内式	西新式	
	0	Ia					
	1	Ib					
	2	IIa					
4世紀	古墳	布留式	1	IIb			
			2	IIIa			
			3				
			4				
400			(須恵器)				



戦争犠牲者の分布 縄文晩期末から弥生中期後半。△、○、●は全身を、絵に示したものはその部分を発掘 (『倭国乱る』国立歴史民俗博物館編〔朝日新聞社、1996年〕を参考)

寺澤薫著「王権誕生」より 土井ガ浜と青谷上寺地などは丸地が時期を変更

高地性集落

寺 沢 案				
実年代	時代	時期	近畿編年	北九州編年
500 — 前5世紀	縄文	晩期後半(突帯文土器)	滋賀里Ⅳ式	山ノ寺式 (曲り田式)
			(口酒井)	1
400 — 前4世紀			船橋式	夜臼式
				2
300 — 前3世紀			長原式	板付Ⅰ式
				1 2
200 — 前2世紀	弥生	前期	第Ⅰ様式	板付Ⅱ式
			1 2 3 4	1 2 3
100 — 前1世紀	生	中期	第Ⅱ様式	城ノ越式
			1 2 3	1
B. C. 前1世紀	時		第Ⅲ様式	須玖式
			1 2	2 3 4 5
A. D. 1世紀	代	後期	第Ⅳ様式	高三瀆式
			1 2 3 4	1 2
100 — 2世紀			第Ⅴ様式	下大隅式
			1 2 3	3 4
200 — 3世紀			第Ⅵ様式	西新式
			1 2	5
300 — 4世紀	古墳	(初頭)前期	庄内式	Ia Ib IIa IIb IIIa
			0 1 2 3 4	(土師器)
400 —			布留式	
			(須恵器)	

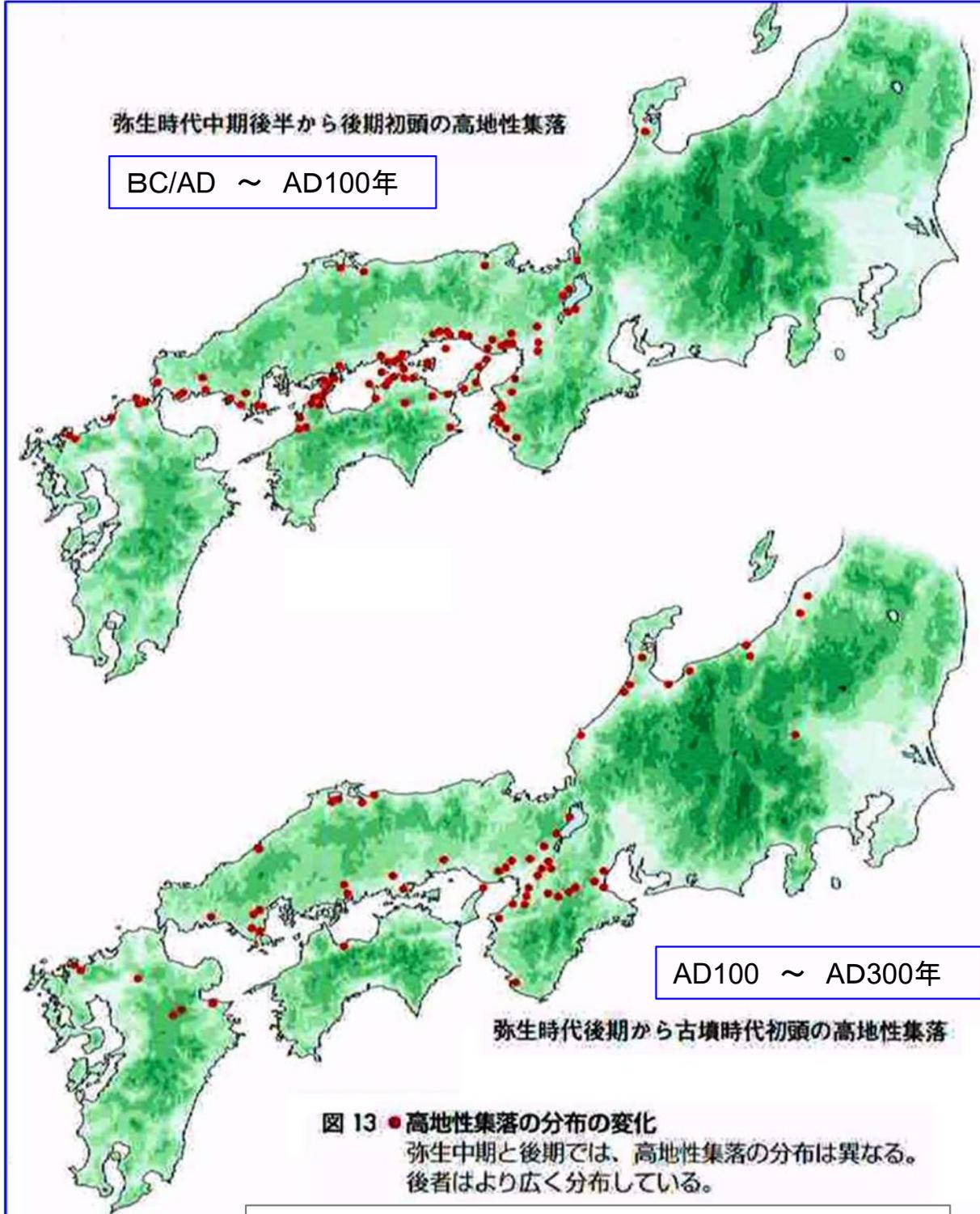


図 13 ● 高地性集落の分布の変化
 弥生中期と後期では、高地性集落の分布は異なる。
 後者はより広く分布している。

若林邦彦著 「倭国乱」と高地性集落論 観音寺山遺跡 より

青銅祭器

寺 沢 案					
実年代	時代	時期	近畿編年	北九州編年	
500	縄文	晩期後半(突帯文土器)	滋賀里IV式	山ノ寺式(曲り田式)	
前5世紀			(口酒井)	1	
400			船橋式	夜白式	
前4世紀			長原式	板付I式	
300	弥生	前期	1	1	
前3世紀			第I様式	2	板付II式
200			3	3	
前2世紀			4	1	城ノ越式
100		中期	1	2	
前1世紀			第II様式	3	須玖式
B.C.			第III様式	4	
A.D.			第IV様式	5	
1世紀		0	1	高三瀧式	
100		後期	1		2
2世紀			2		3
200			3	4	
3世紀	古墳	(初頭)前期	1	3	
300			庄内式	2	下大隅式
4世紀			0	4	5
400			2	5	
		布留式	0	Ia	
			1	Ib	
			2	IIa	
			3	IIb	
			4	IIIa	

(須惠器)

BC300~175

BC175~100

BC100~75

BC75~AD50

AD50 ~ 150

	弥生時代前期 (I期)	(II期)	弥生時代中期 (III期)	(IV期)	弥生時代後期 (V期)		
銅矛	 <p>細形I式(福岡・田端)</p>	 <p>細形II式(佐賀・久里)</p>	 <p>中細形a類(島根・神庭荒神谷)</p>	 <p>中広形b類(島根・神庭荒神谷)</p>	 <p>広形(長崎・クビル)</p>		
銅剣	 <p>細形I式(福岡・田端)</p>	 <p>中細形a類(高知・波介)</p>	 <p>中細形b類(大分・浜)</p>	 <p>平形I式(香川・瓦谷)</p>	 <p>中細形c類(島根・神庭荒神谷)</p>	 <p>平形II式(愛媛・垣添)</p>	 <p>中広形(徳島・源田)</p>
銅鐙	 <p>I式(島根・神庭荒神谷)</p>	 <p>II式(島根・加茂岩倉)</p>	 <p>III式(島根・加茂岩倉)</p>	 <p>IV I式(島根・飯屋)</p>	 <p>IV 3式(和歌山・桑谷)</p>		

銅鐸・武器型青銅の生産地域と副葬地域

生産地

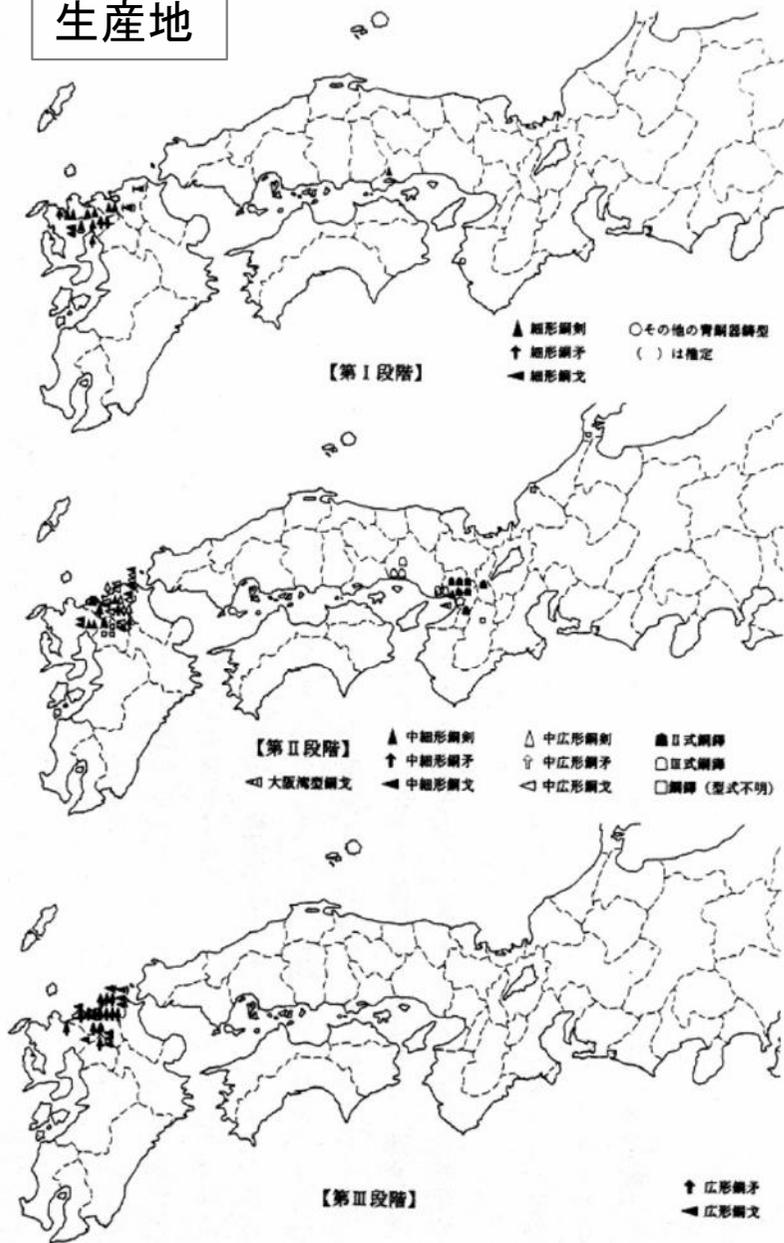


図12 銅型の分布

(松本岩雄「弥生青銅器の生産と流通—出雲地域出土青銅器を中心として—」
『古代文化』第53巻第4号 2001年より)

- 生産地＝
鋳型の出土地
- 副葬と生産地域は重なる。
- 第Ⅱ段階に新たに生産が始まった大阪近辺は、副葬が無い。
- 第Ⅲ段階の生産物(広型の青銅器)は副葬されていない。

副葬

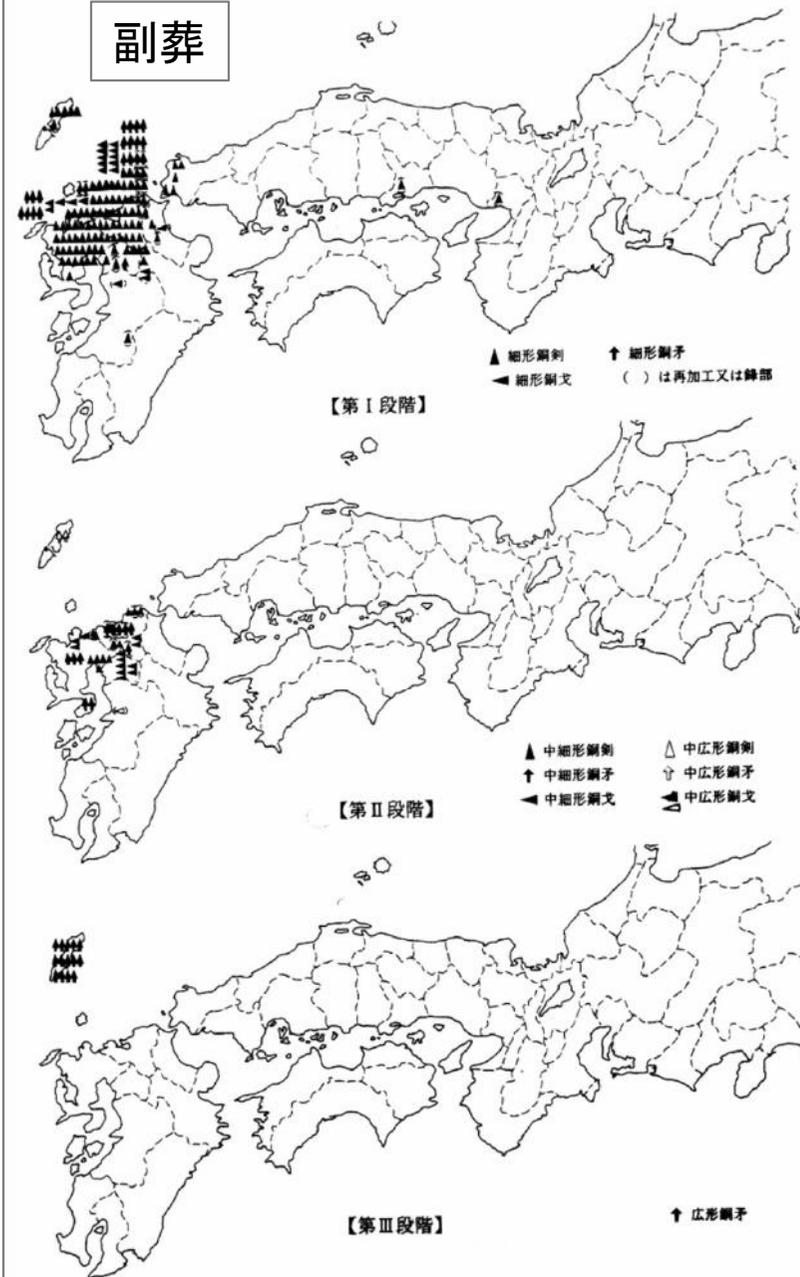


図7 墳墓出土青銅器の分布

(松本岩雄「弥生青銅器の生産と流通—出雲地域出土青銅器を中心として—」
『古代文化』第53巻第4号 2001年より)

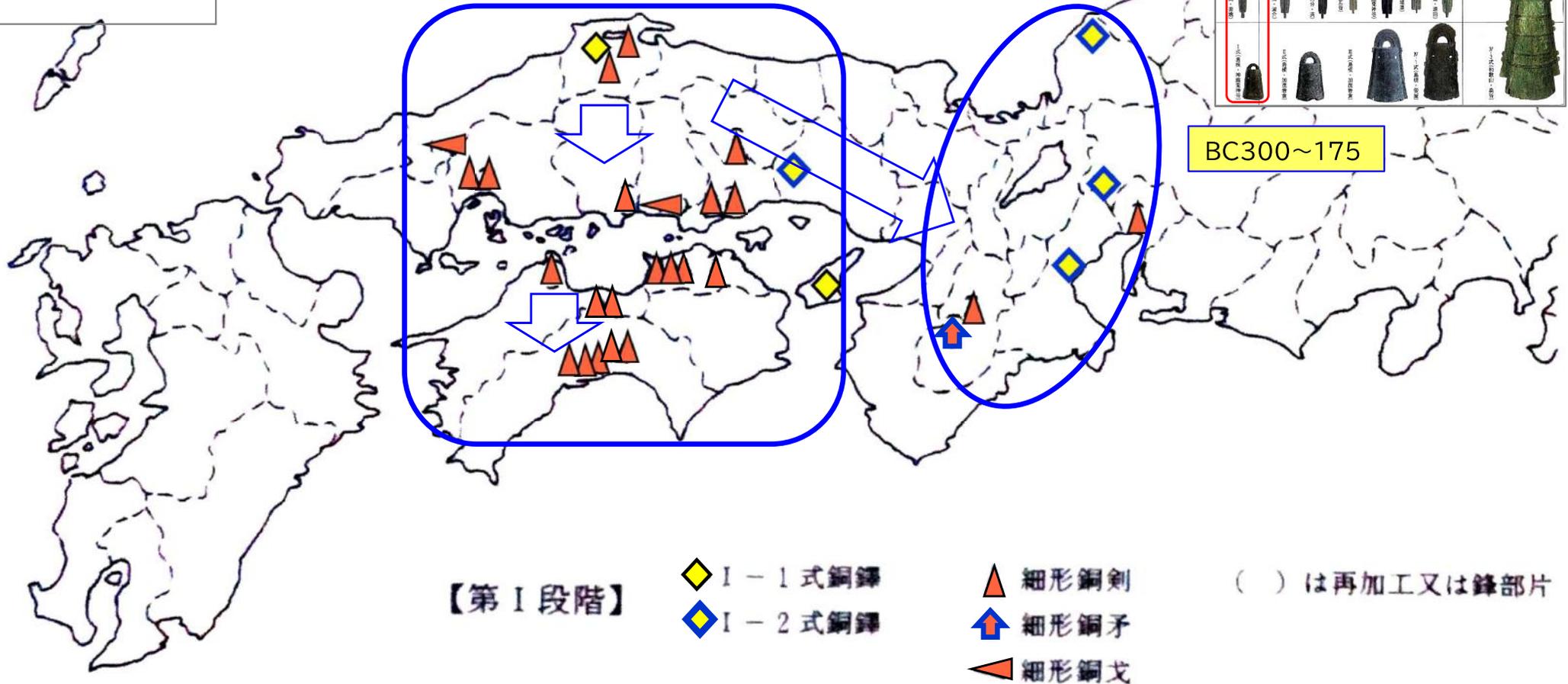
副葬と埋納について

- 副葬品は死者を弔うためのもの
 - 副葬品は、故人の私有したものが収められる
 - 青銅武器も故人が私用したものと推定する。
 - 副葬された地域では、青銅の武器は、部族に共有のものではなく、個人所有。
- 埋納については、色々な考え方が示されたが、納得の行く説は無い。
 - 武力抗争の結果、負けた側の祭器を、二度と使われないように土中に埋めたものとする。
 - 詳細は別頁に記す。

埋納された
青銅器の分布

出雲の考古学と『出雲の風土記』に収録
松本岩雄著 3章「出雲の青銅器」より

原典は著者の下記の論文
松本岩雄「弥生青銅器の生産と流通—出雲地域出土青銅器を中心として—」古代文化 第53巻第4号
2001年 より



- 第一段階：出雲族を代表する青銅製武器型祭器と銅鐸は出雲地方で始まる。
- 武器型祭器は、中国山地を越えて瀬戸内海沿岸、高知まで広がる。
 - 中国山地は、人の交流を妨げるほど険しい山地では無く、川沿いに河岸段丘を持った谷があり、通行可能。
- 瀬戸内海を制圧することで、近畿地方に拠点を確保し、津と愛知にも広げた。
- 一方日本海側では、出雲から一足飛びに福井県で出土し、北陸への拠点としたと想定。

第2段階① 武器型祭器・銅鐸の分布

出雲国拡大経過

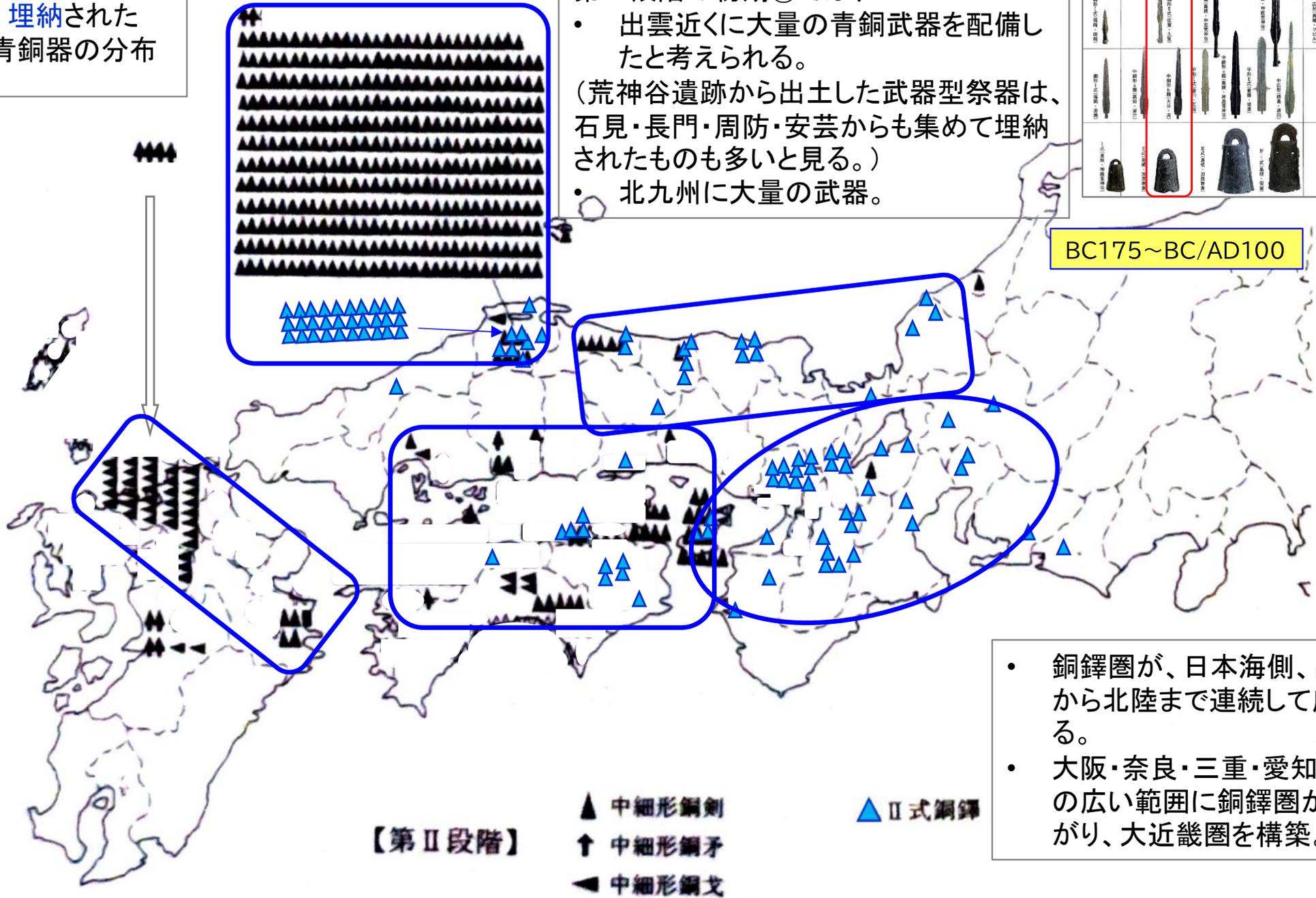
埋納された青銅器の分布

第二段階の初期①では、

- 出雲近くに大量の青銅武器を配備したと考えられる。
(荒神谷遺跡から出土した武器型祭器は、石見・長門・周防・安芸からも集めて埋納されたものも多いと見る。)
- 北九州に大量の武器。



BC175~BC/AD100



【第Ⅱ段階】

- ▲ 中細形銅剣
- ▲ Ⅱ式銅鐸
- ↑ 中細形銅矛
- ◄ 中細形銅戈

- 銅鐸圏が、日本海側、出雲から北陸まで連続して広がる。
- 大阪・奈良・三重・愛知までの広い範囲に銅鐸圏が広がり、大近畿圏を構築。

第2段階② 武器型祭器・銅鐸の分布

出雲国拡大経過

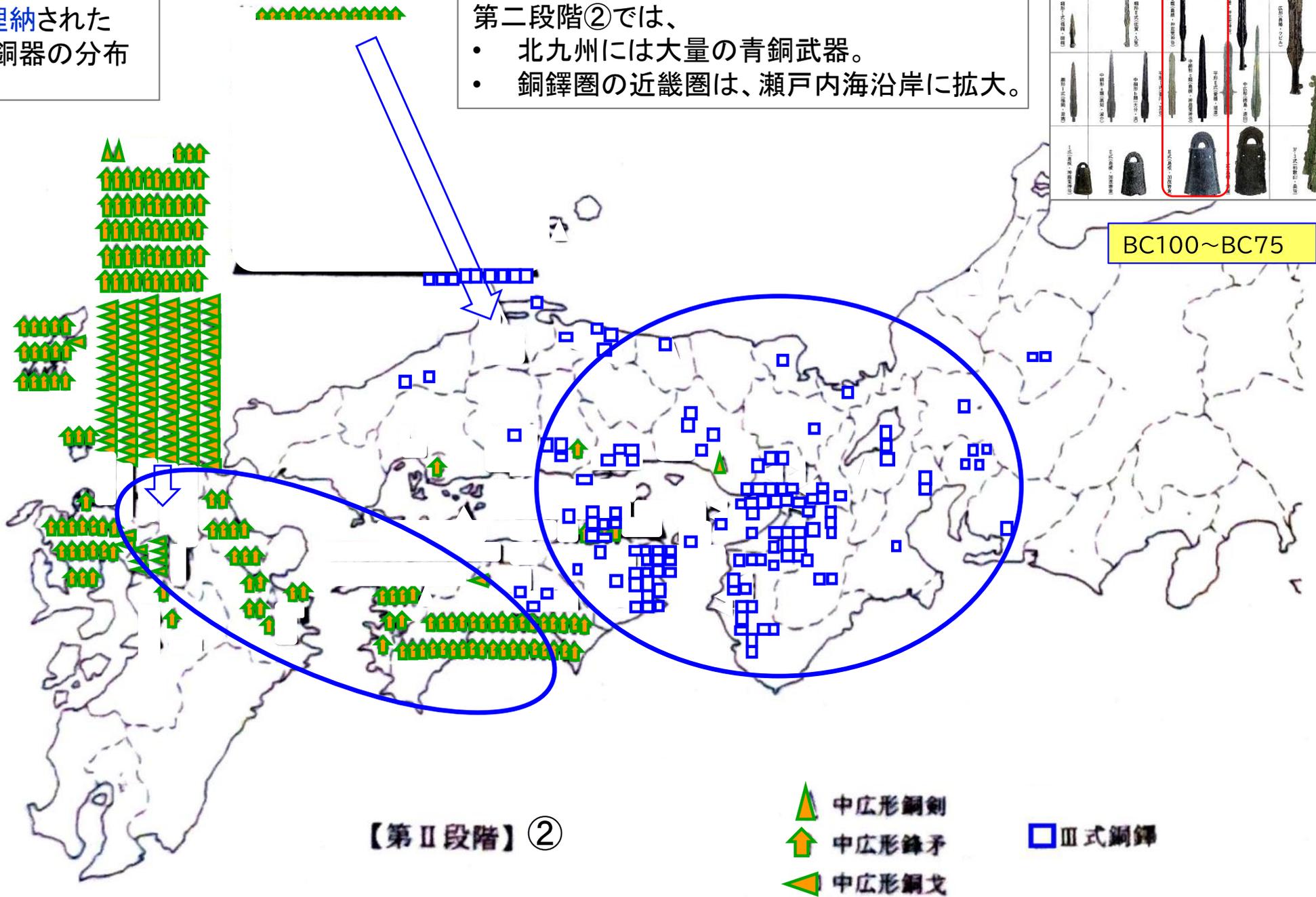
埋納された
青銅器の分布

第2段階②では、

- 北九州には大量の青銅武器。
- 銅鐸圏の近畿圏は、瀬戸内海沿岸に拡大。



BC100~BC75



【第Ⅱ段階】②

- ▲ 中広形銅剣
- ▲ 中広形鋒矛
- ▲ 中広形銅戈

□ Ⅲ式銅鐸

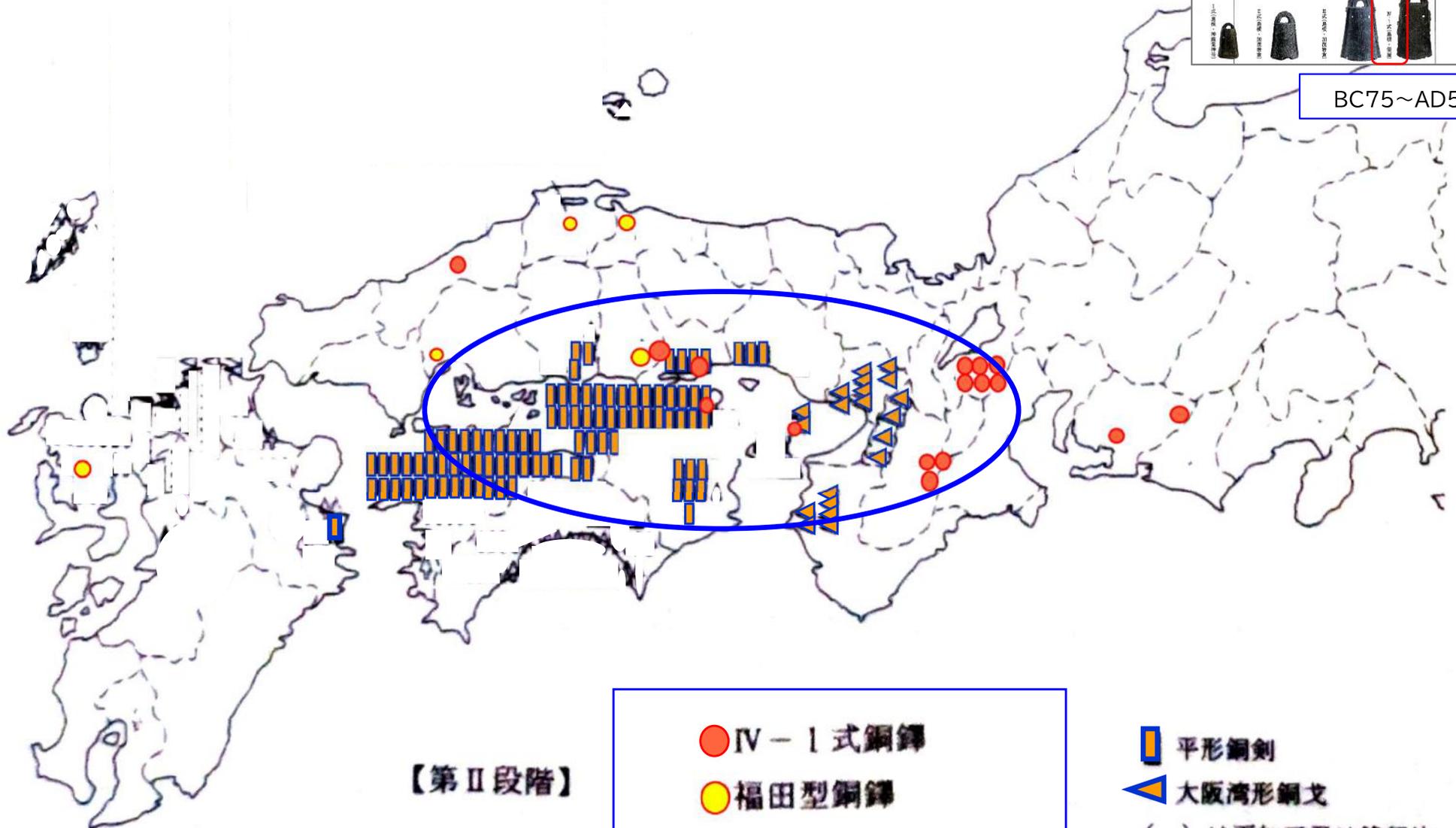
埋納された
青銅器の分布

第2段階③では、

- 大量の青銅製武器が、瀬戸内海と大阪湾沿いに集中して広がる。

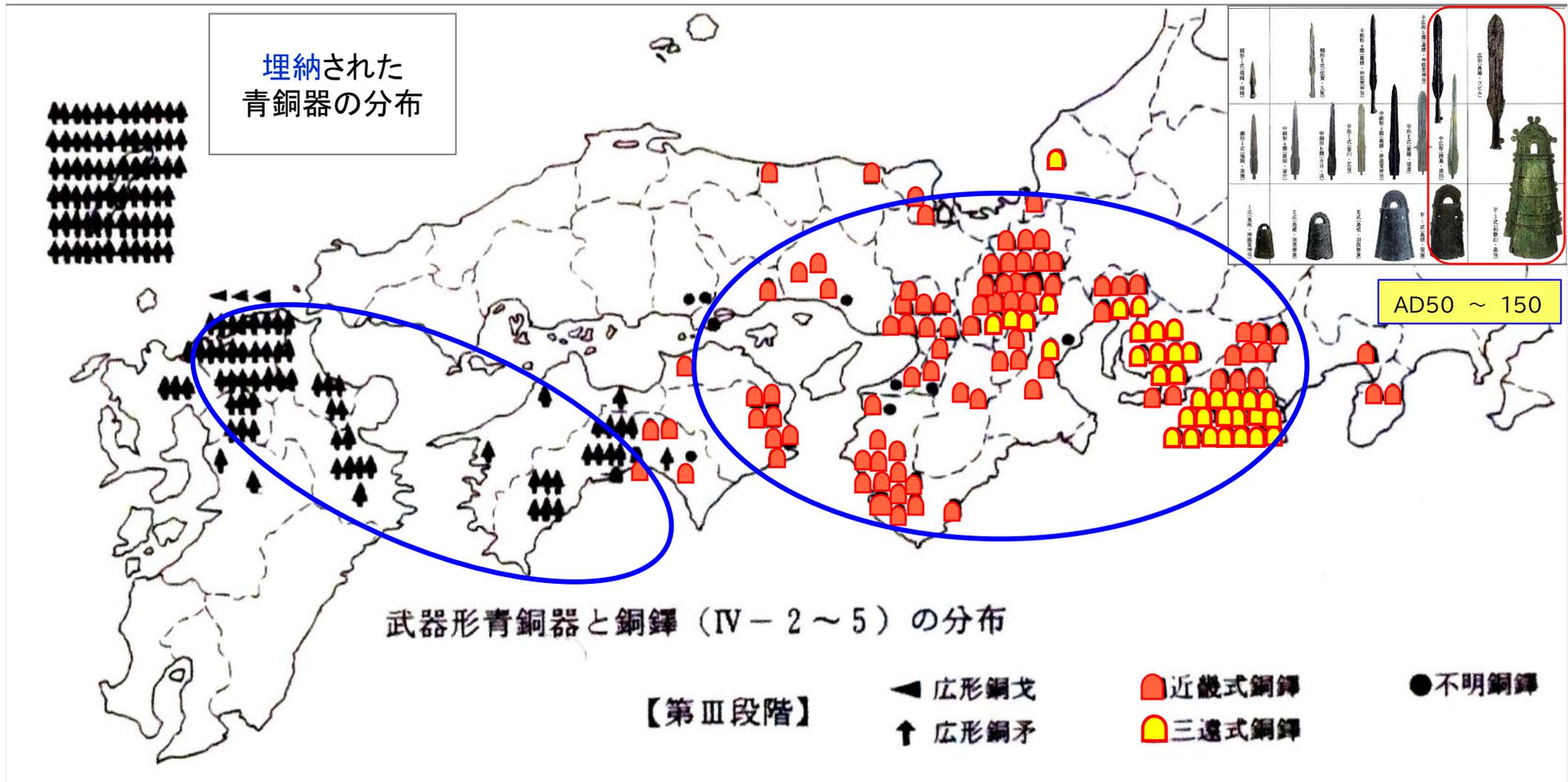


BC75~AD50



第3段階 武器型祭器・銅鐸の分布

出雲国拡大経過



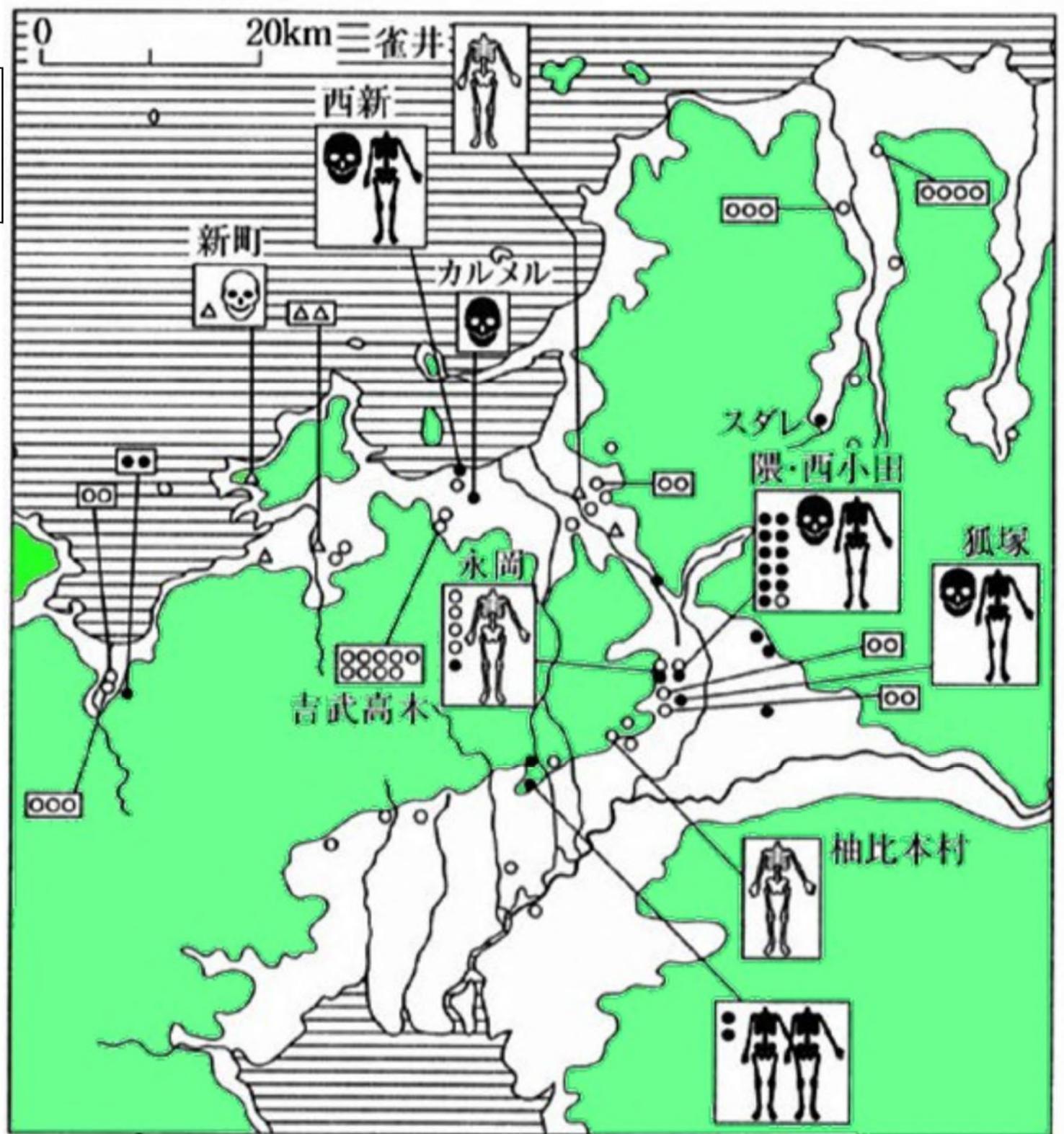
- 第3段階では、
 - 北九州・大分・高知に青銅製武器が広がる。
 - 一方、銅鐸は、近畿型・三遠型と大きく煌びやかになり、大和の周辺地域に大量に存在した。
 - この時期が、出雲族の領地・支配地が最も広がった時期
 - 畿内から滋賀・愛知・東海に広がる銅鐸を祭る地域の増大に注目する。

北九州の戦争遺跡

寺澤薫著「王権誕生」中の戦争犠牲者の分布の北九州の図を参考に検討。

- △ : 縄文晩期末～弥生前期前半
- : 弥生前期後半～中期前半
- : 中期後半以降

寺澤薫氏は、戦争犠牲者を、戦争に負けた側としているが、ここでは、勝利者側の負傷・死者で、勝利者が戦場から運び、戻して、埋葬したものとする。



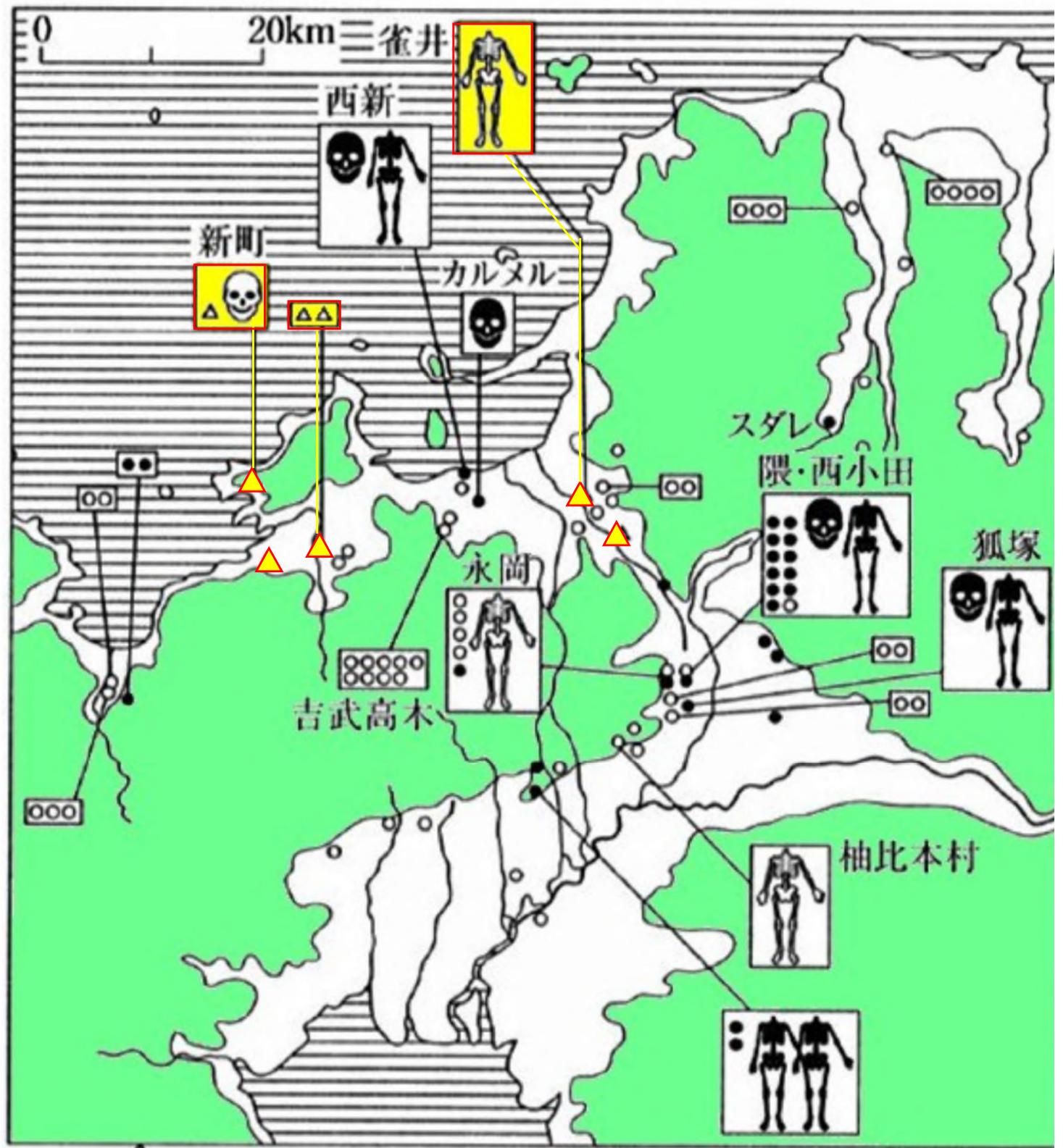
戦争は弥生時代
から始まった。

初期の戦争遺跡

△ : 縄文晩期末～

弥生前期前半

- 縄文時代には、戦争と云える大規模な戦いは無かった。
- 初期の水田稲作が始まり弥生時代になり、遠賀川式土器を持つ次世代の渡来民が日本全国に拡散した頃に、戦争が始まった。(弥生前期)
- 遺骨の出土は
 - 支石墓
 - 初期型の甕棺



中期の戦争遺跡

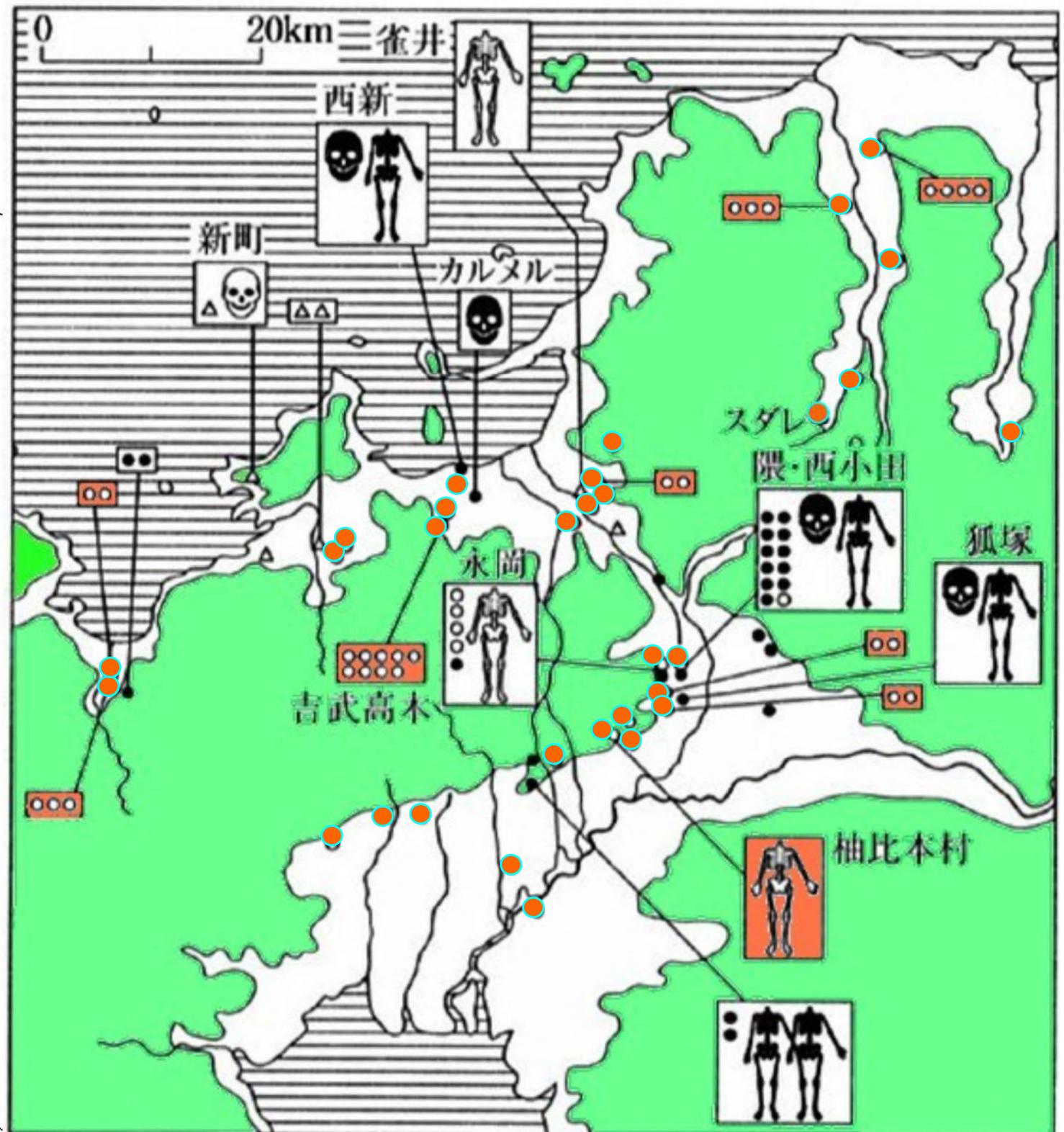
● : 弥生 前期後半～
中期前半

- ・ 遠賀川流域も勝組
- ・ 福岡平野も勝組
- ・ 早良平野も激戦の勝組
- ・ 糸島・前原も勝組
- ・ 唐津平野も勝組
- ・ 筑紫平野も勝組

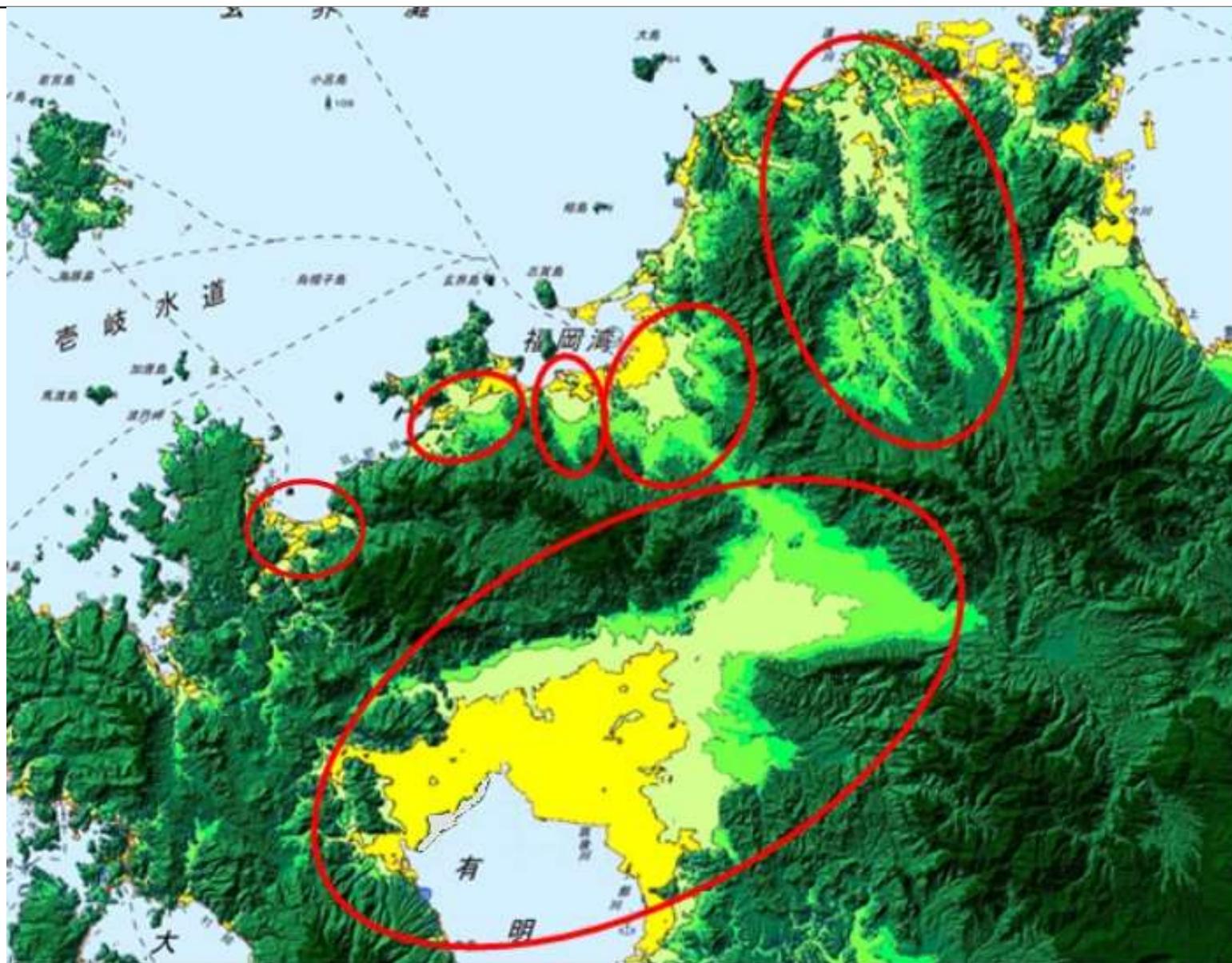
全部が勝った??

- ✓ 中期には、1回の戦争ではなく、複数回の戦争が行われ、勝った側が次の回には敗者になった可能性がある。
- ✓ 各地域毎の状況を調べないと、判らない。

(調べ直した処、スダレ遺跡は、中期中葉までの遺跡で、後期の戦争遺跡としたことは、寺沢原本の記述間違い。訂正。)

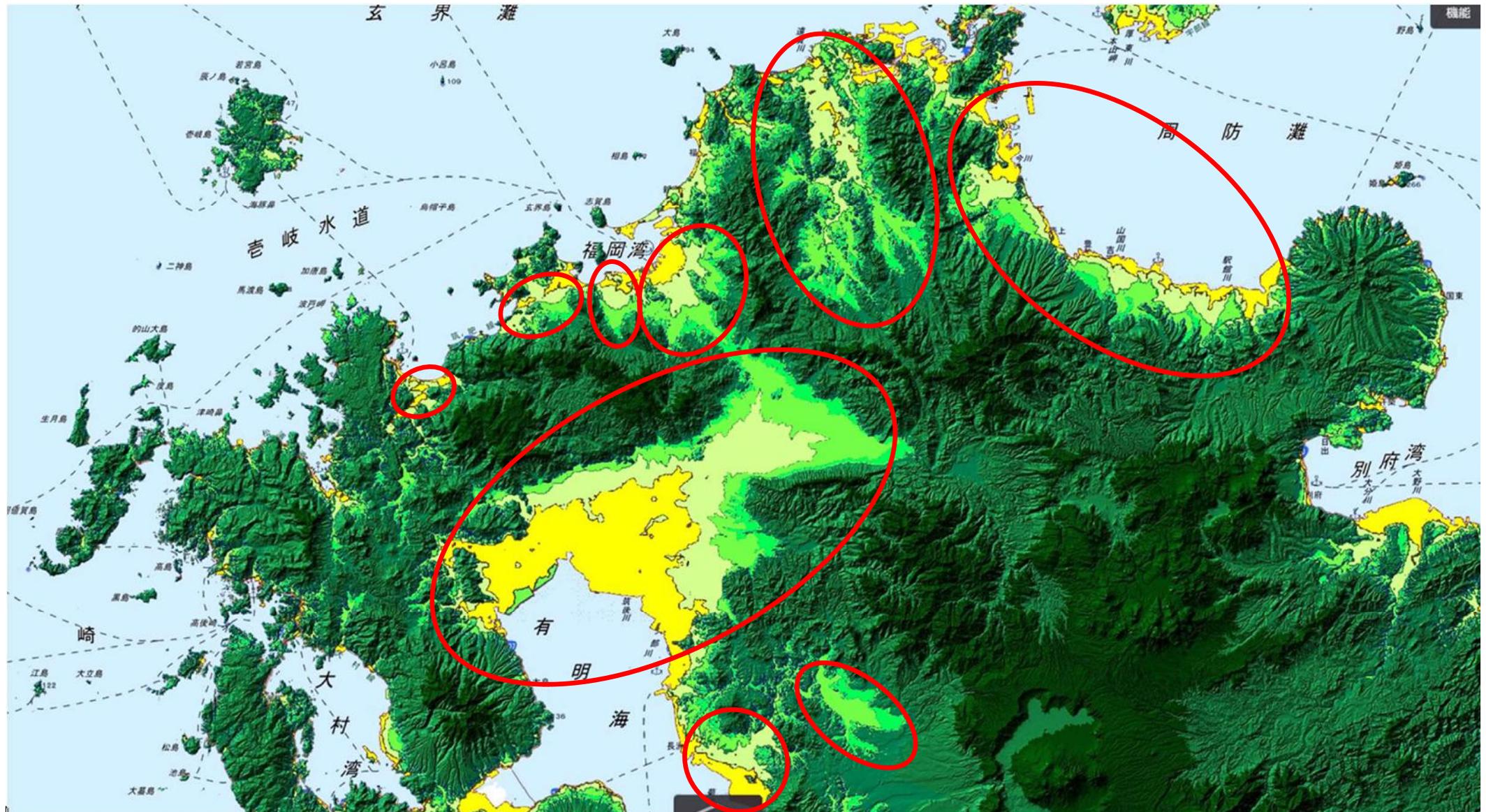


北九州の主な地区－区分け図



- : 海拔0～5m
 : 5～15m
 : 15～35m
 : 35～50m
 : 50～100m
- : 100～500m
 国土地理院地図：自分で作る色別標高図を利用した地図
- 海拔0～5m地帯は、弥生時代には、半分ほどでは、海面下で、生活不可能であった可能性あり。

北九州の古代の地勢を地図から考える



- : 海拔0~5m
 - : 5~15m
 - : 15~35m
 - : 35~50m
 - : 50~100m
 - : 100~500m
- 国土地理院地図：自分で作る色別標高図を利用した地図

北九州の主要地区の戦争と王墓

副葬品として、剣・勾玉・鏡が出土する地域

時代		唐津	糸島前原	早良	福岡平野	筑紫平野	遠賀川立岩
弥生早期		水田稲作支石墓	水田稲作支石墓	水田稲作支石墓	水田稲作	水田無し	水田無し
		夜臼式	夜臼式	夜臼式	夜臼式		
弥生	前期	初期に棺専用のカメを開発	遺跡数の増加無し 甕棺墓に副葬品皆無	板付I式土器 環濠集落	遺跡数 急激な増加 甕棺墓	甕棺出土 有柄式磨製石剣 出土	下流域 水田 立屋敷 木屋瀬田遺跡
		支石墓に複数の甕棺		集落の拡大 拠点集落発生			
	中期	宇木汲田青銅器を副葬有力者墓		木棺墓王墓	甕棺墓から銅剣・銅戈	鉄器出土	スダレ戦争遺跡
		後期には、有力者の墓が消滅	榎渡遺跡(王墓ではない)支配層の墳墓	須玖岡本王墓	鉄器普及	夫婦岩甕棺墓	
	後期	桜馬場に王墓	三雲南小路王墓	甕棺墓急速に減少		住宅跡の覆土中から多量の鉄器 墳墓から鏡・青銅器・鉄器	立岩・堀田王墓
			井原鍵溝王墓		墓の数激減 激動の時代		
王墓は出ないがその後も桜馬場が有力集団		甕棺墓存続 平原王墓その後王墓無し	中期集落は継承するが遺構・遺物は減少	後漢鏡副葬の墓多数 王墓無し			

北九州の主要地区の戦争と王墓 と戦争遺跡の分布図 から 読む

- 遠賀川流域は、弥生早期の水田は無く、弥生前期から開拓
 - 平坦な土地が多く、弥生前期から中期に水田耕作地が増加
 - 早良・福岡の王墓の後の時代に、王墓相当が生まれる。
 - 何故か、王墓は無くなるが、遺跡は相変わらずあり、栄える。
- 筑紫平野は、前期初めの戦争にも参加、勝組。
 - 武器や鉄器の出土が続き、中期の戦争も後期の戦争でも勝ち組。王墓無。
- 福岡平野は、早期から栄え、中期には、王墓が生まれた。
 - しかし、その後、甕棺・その他の墓も急激に減少。敗者となったと思われる。
- 早良平野は、早期から栄え、前期に急激に遺跡数を拡大し、王墓が生まれた
 - 王は福岡へ移動か？
 - 中期には、激しい戦争に参加し、勝組、後期にも戦争に参加し、勝組。
- 糸島・前原は、早期に水田があったが、前期には遺跡数が増加せず、発展に取り残された地区
 - 中期に突如、王墓が出現。王墓が、後期まで継続する。中期の戦争も後期の戦いにも勝組。
 - 早良・福岡・糸島・前原の3地域の王墓は、勾玉、銅鏡、剣の三種の神器が出土し、同族と見える。
- 唐津は、初期・中期・後期の戦争に参加。
 - 中期には、宇木汲田に有力者の墓が生まれたが、
 - 何故か、中期後半にその地域は衰え、別の地域に王墓出現。
 - 有力者の置き換わりは、中央の地域の戦争の結末を受けたものか？
 - 宇木汲田では、同一甕棺からではないが、勾玉、銅鏡、剣が出土。
- 福岡平野の王墓・須玖岡本の後、地域が荒廃したことが、中期の戦争の解釈のポイントになると思われる。

地域の発展と盛衰を各々についてみてゆく。

時代	唐津	糸島前原	早良	福岡平野	筑紫平野	遠賀川立岩
弥生早期	水田稲作 支石墓	水田稲作 支石墓	水田稲作 支石墓	水田稲作	水田無し	水田無し
弥生	夜日式	夜日式	夜日式	夜日式		
	初期に稲専用のカマを開発	遺跡数の増加無し 甕棺墓に副葬品皆無	板付式土器 環濠集落	遺跡数 急激な増加 甕棺墓	甕棺出土 有柄式磨製石剣 出土	下流域 水田 立岩動 木原湖田遺跡
	支石墓に 複数の甕棺		集落の拡大 拠点集落 発生			石包丁生産
	宇木汲田 青銅器を副葬 有力者墓		木棺墓王墓	須玖岡本 王墓	鉄器出土	スダレ 戦争遺跡
中期	後期には、 有力者の墓 が消失	三雲市小路 王墓	種源遺跡 (王墓ではない) 支配層の墳墓		鉄器普及	夫婦岩甕棺墓
	榎馬塚に王墓	井原窪溝 王墓		甕棺墓 急速に減少		立岩・船田 王墓
後期	王墓は出ないが その後も榎馬塚が 有力集団	甕棺墓 存続 平原王墓 その後 王墓無し	中期集落は 継承するが 遺構・遺物は 減少	墓の激 激減 激動の 時代	住宅跡の 覆土中から 多量の鉄器 墳墓から銀・青銅 器・鉄器	後漢朝副葬の墓 多数 王墓無し

早良平野・吉武高木遺跡

早良平野は、東西を山で囲まれ、更に南は高い背振山地で囲まれた土地。

現在は博多平野の延長との観があるが、その境はやや低い丘陵地帯と森林で隔てられていた地帯。

この西の山に迫る傾斜地が墓域だった。

甕棺ロードがあり、弥生前期中期の吉武大石遺跡・吉武樋渡遺跡等が広がる。弥生時代の大型建物の跡も見つかる王のいた場所。



1 「最古の王墓」発見!!

Discovery of the "Oldest Chief's Grave"
发现“最古老的王墓”!! '가장 오래된 왕묘' 발견!!

ほかに例のない豪華な副葬品
昭和59～60(1984～1985)年の発掘調査で、豊饒とならんだ弥生前中期の木棺墓・甕棺墓が発見され、青銅鏡やアクセサリー(鍔身具)がたくさん出土しました。それらは有力者たちの墓と考えられ、特定集団墓と呼ばれています。とくに3号木棺墓の鏡・武器・玉類は、質・量ともにほかに例のない副葬品であり、「最古の王墓」として国内外の注目を集めました。

The wooden coffin grave (3) revealed especially prestigious grave these included a bronze mirror, weapons and a jade plectrum, unprecedented in quality and quantity, thus calling domestic and international attention to this "Oldest chief's Grave" discovery.

光沢感) 有力集団墓としての様子。武器・玉類、青銅鏡類など、通常発掘集団墓とは異なり、第一級の副葬品、竹片「最古の王墓」、遺物発掘した集団墓内での発見。

資料 3号 弥生前中期 木棺墓 7号、9号、10号、11号、12号、13号、14号、15号、16号、17号、18号、19号、20号、21号、22号、23号、24号、25号、26号、27号、28号、29号、30号、31号、32号、33号、34号、35号、36号、37号、38号、39号、40号、41号、42号、43号、44号、45号、46号、47号、48号、49号、50号、51号、52号、53号、54号、55号、56号、57号、58号、59号、60号、61号、62号、63号、64号、65号、66号、67号、68号、69号、70号、71号、72号、73号、74号、75号、76号、77号、78号、79号、80号、81号、82号、83号、84号、85号、86号、87号、88号、89号、90号、91号、92号、93号、94号、95号、96号、97号、98号、99号、100号、101号、102号、103号、104号、105号、106号、107号、108号、109号、110号、111号、112号、113号、114号、115号、116号、117号、118号、119号、120号、121号、122号、123号、124号、125号、126号、127号、128号、129号、130号、131号、132号、133号、134号、135号、136号、137号、138号、139号、140号、141号、142号、143号、144号、145号、146号、147号、148号、149号、150号、151号、152号、153号、154号、155号、156号、157号、158号、159号、160号、161号、162号、163号、164号、165号、166号、167号、168号、169号、170号、171号、172号、173号、174号、175号、176号、177号、178号、179号、180号、181号、182号、183号、184号、185号、186号、187号、188号、189号、190号、191号、192号、193号、194号、195号、196号、197号、198号、199号、200号、201号、202号、203号、204号、205号、206号、207号、208号、209号、210号、211号、212号、213号、214号、215号、216号、217号、218号、219号、220号、221号、222号、223号、224号、225号、226号、227号、228号、229号、230号、231号、232号、233号、234号、235号、236号、237号、238号、239号、240号、241号、242号、243号、244号、245号、246号、247号、248号、249号、250号、251号、252号、253号、254号、255号、256号、257号、258号、259号、260号、261号、262号、263号、264号、265号、266号、267号、268号、269号、270号、271号、272号、273号、274号、275号、276号、277号、278号、279号、280号、281号、282号、283号、284号、285号、286号、287号、288号、289号、290号、291号、292号、293号、294号、295号、296号、297号、298号、299号、300号、301号、302号、303号、304号、305号、306号、307号、308号、309号、310号、311号、312号、313号、314号、315号、316号、317号、318号、319号、320号、321号、322号、323号、324号、325号、326号、327号、328号、329号、330号、331号、332号、333号、334号、335号、336号、337号、338号、339号、340号、341号、342号、343号、344号、345号、346号、347号、348号、349号、350号、351号、352号、353号、354号、355号、356号、357号、358号、359号、360号、361号、362号、363号、364号、365号、366号、367号、368号、369号、370号、371号、372号、373号、374号、375号、376号、377号、378号、379号、380号、381号、382号、383号、384号、385号、386号、387号、388号、389号、390号、391号、392号、393号、394号、395号、396号、397号、398号、399号、400号、401号、402号、403号、404号、405号、406号、407号、408号、409号、410号、411号、412号、413号、414号、415号、416号、417号、418号、419号、420号、421号、422号、423号、424号、425号、426号、427号、428号、429号、430号、431号、432号、433号、434号、435号、436号、437号、438号、439号、440号、441号、442号、443号、444号、445号、446号、447号、448号、449号、450号、451号、452号、453号、454号、455号、456号、457号、458号、459号、460号、461号、462号、463号、464号、465号、466号、467号、468号、469号、470号、471号、472号、473号、474号、475号、476号、477号、478号、479号、480号、481号、482号、483号、484号、485号、486号、487号、488号、489号、490号、491号、492号、493号、494号、495号、496号、497号、498号、499号、500号、501号、502号、503号、504号、505号、506号、507号、508号、509号、510号、511号、512号、513号、514号、515号、516号、517号、518号、519号、520号、521号、522号、523号、524号、525号、526号、527号、528号、529号、530号、531号、532号、533号、534号、535号、536号、537号、538号、539号、540号、541号、542号、543号、544号、545号、546号、547号、548号、549号、550号、551号、552号、553号、554号、555号、556号、557号、558号、559号、560号、561号、562号、563号、564号、565号、566号、567号、568号、569号、570号、571号、572号、573号、574号、575号、576号、577号、578号、579号、580号、581号、582号、583号、584号、585号、586号、587号、588号、589号、590号、591号、592号、593号、594号、595号、596号、597号、598号、599号、600号、601号、602号、603号、604号、605号、606号、607号、608号、609号、610号、611号、612号、613号、614号、615号、616号、617号、618号、619号、620号、621号、622号、623号、624号、625号、626号、627号、628号、629号、630号、631号、632号、633号、634号、635号、636号、637号、638号、639号、640号、641号、642号、643号、644号、645号、646号、647号、648号、649号、650号、651号、652号、653号、654号、655号、656号、657号、658号、659号、660号、661号、662号、663号、664号、665号、666号、667号、668号、669号、670号、671号、672号、673号、674号、675号、676号、677号、678号、679号、680号、681号、682号、683号、684号、685号、686号、687号、688号、689号、690号、691号、692号、693号、694号、695号、696号、697号、698号、699号、700号、701号、702号、703号、704号、705号、706号、707号、708号、709号、710号、711号、712号、713号、714号、715号、716号、717号、718号、719号、720号、721号、722号、723号、724号、725号、726号、727号、728号、729号、730号、731号、732号、733号、734号、735号、736号、737号、738号、739号、740号、741号、742号、743号、744号、745号、746号、747号、748号、749号、750号、751号、752号、753号、754号、755号、756号、757号、758号、759号、760号、761号、762号、763号、764号、765号、766号、767号、768号、769号、770号、771号、772号、773号、774号、775号、776号、777号、778号、779号、780号、781号、782号、783号、784号、785号、786号、787号、788号、789号、790号、791号、792号、793号、794号、795号、796号、797号、798号、799号、800号、801号、802号、803号、804号、805号、806号、807号、808号、809号、810号、811号、812号、813号、814号、815号、816号、817号、818号、819号、820号、821号、822号、823号、824号、825号、826号、827号、828号、829号、830号、831号、832号、833号、834号、835号、836号、837号、838号、839号、840号、841号、842号、843号、844号、845号、846号、847号、848号、849号、850号、851号、852号、853号、854号、855号、856号、857号、858号、859号、860号、861号、862号、863号、864号、865号、866号、867号、868号、869号、870号、871号、872号、873号、874号、875号、876号、877号、878号、879号、880号、881号、882号、883号、884号、885号、886号、887号、888号、889号、890号、891号、892号、893号、894号、895号、896号、897号、898号、899号、900号、901号、902号、903号、904号、905号、906号、907号、908号、909号、910号、911号、912号、913号、914号、915号、916号、917号、918号、919号、920号、921号、922号、923号、924号、925号、926号、927号、928号、929号、930号、931号、932号、933号、934号、935号、936号、937号、938号、939号、940号、941号、942号、943号、944号、945号、946号、947号、948号、949号、950号、951号、952号、953号、954号、955号、956号、957号、958号、959号、960号、961号、962号、963号、964号、965号、966号、967号、968号、969号、970号、971号、972号、973号、974号、975号、976号、977号、978号、979号、980号、981号、982号、983号、984号、985号、986号、987号、988号、989号、990号、991号、992号、993号、994号、995号、996号、997号、998号、999号、1000号、1001号、1002号、1003号、1004号、1005号、1006号、1007号、1008号、1009号、1010号、1011号、1012号、1013号、1014号、1015号、1016号、1017号、1018号、1019号、1020号、1021号、1022号、1023号、1024号、1025号、1026号、1027号、1028号、1029号、1030号、1031号、1032号、1033号、1034号、1035号、1036号、1037号、1038号、1039号、1040号、1041号、1042号、1043号、1044号、1045号、1046号、1047号、1048号、1049号、1050号、1051号、1052号、1053号、1054号、1055号、1056号、1057号、1058号、1059号、1060号、1061号、1062号、1063号、1064号、1065号、1066号、1067号、1068号、1069号、1070号、1071号、1072号、1073号、1074号、1075号、1076号、1077号、1078号、1079号、1080号、1081号、1082号、1083号、1084号、1085号、1086号、1087号、1088号、1089号、1090号、1091号、1092号、1093号、1094号、1095号、1096号、1097号、1098号、1099号、1100号、1101号、1102号、1103号、1104号、1105号、1106号、1107号、1108号、1109号、1110号、1111号、1112号、1113号、1114号、1115号、1116号、1117号、1118号、1119号、1120号、1121号、1122号、1123号、1124号、1125号、1126号、1127号、1128号、1129号、1130号、1131号、1132号、1133号、1134号、1135号、1136号、1137号、1138号、1139号、1140号、1141号、1142号、1143号、1144号、1145号、1146号、1147号、1148号、1149号、1150号、1151号、1152号、1153号、1154号、1155号、1156号、1157号、1158号、1159号、1160号、1161号、1162号、1163号、1164号、1165号、1166号、1167号、1168号、1169号、1170号、1171号、1172号、1173号、1174号、1175号、1176号、1177号、1178号、1179号、1180号、1181号、1182号、1183号、1184号、1185号、1186号、1187号、1188号、1189号、1190号、1191号、1192号、1193号、1194号、1195号、1196号、1197号、1198号、1199号、1200号、1201号、1202号、1203号、1204号、1205号、1206号、1207号、1208号、1209号、1210号、1211号、1212号、1213号、1214号、1215号、1216号、1217号、1218号、1219号、1220号、1221号、1222号、1223号、1224号、1225号、1226号、1227号、1228号、1229号、1230号、1231号、1232号、1233号、1234号、1235号、1236号、1237号、1238号、1239号、1240号、1241号、1242号、1243号、1244号、1245号、1246号、1247号、1248号、1249号、1250号、1251号、1252号、1253号、1254号、1255号、1256号、1257号、1258号、1259号、1260号、1261号、1262号、1263号、1264号、1265号、1266号、1267号、1268号、1269号、1270号、1271号、1272号、1273号、1274号、1275号、1276号、1277号、1278号、1279号、1280号、1281号、1282号、1283号、1284号、1285号、1286号、1287号、1288号、1289号、1290号、1291号、1292号、1293号、1294号、1295号、1296号、1297号、1298号、1299号、1300号、1301号、1302号、1303号、1304号、1305号、1306号、1307号、1308号、1309号、1310号、1311号、1312号、1313号、1314号、1315号、1316号、1317号、1318号、1319号、1320号、1321号、1322号、1323号、1324号、1325号、1326号、1327号、1328号、1329号、1330号、1331号、1332号、1333号、1334号、1335号、1336号、1337号、1338号、1339号、1340号、1341号、1342号、1343号、1344号、1345号、1346号、1347号、1348号、1349号、1350号、1351号、1352号、1353号、1354号、1355号、1356号、1357号、1358号、1359号、1360号、1361号、1362号、1363号、1364号、1365号、1366号、1367号、1368号、1369号、1370号、1371号、1372号、1373号、1374号、1375号、1376号、1377号、1378号、1379号、1380号、1381号、1382号、1383号、1384号、1385号、1386号、1387号、1388号、1389号、1390号、1391号、1392号、1393号、1394号、1395号、1396号、1397号、1398号、1399号、1400号、1401号、1402号、1403号、1404号、1405号、1406号、1407号、1408号、1409号、1410号、1411号、1412号、1413号、1414号、1415号、1416号、1417号、1418号、1419号、1420号、1421号、1422号、1423号、1424号、1425号、1426号、1427号、1428号、1429号、1430号、1431号、1432号、1433号、1434号、1435号、1436号、1437号、1438号、1439号、1440号、1441号、1442号、1443号、1444号、1445号、1446号、1447号、1448号、1449号、1450号、1451号、1452号、1453号、1454号、1455号、1456号、1457号、1458号、1459号、1460号、1461号、1462号、1463号、1464号、1465号、1466号、1467号、1468号、1469号、1470号、1471号、1472号、1473号、1474号、1475号、1476号、1477号、1478号、1479号、1480号、1481号、1482号、1483号、1484号、1485号、1486号、1487号、1488号、1489号、1490号、1491号、1492号、1493号、1494号、1495号、1496号、1497号、1498号、1499号、1500号、1501号、1502号、1503号、1504号、1505号、1506号、1507号、1508号、1509号、1510号、1511号、1512号、1513号、1514号、1515号、1516号、1517号、1518号、1519号、1520号、1521号、1522号、1523号、1524号、1525号、1526号、1527号、1528号、1529号、1530号、1531号、1532号、1533号、1534号、1535号、1536号、1537号、1538号、1539号、1540号、1541号、1542号、1543号、1544号、1545号、1546号、1547号、1548号、1549号、1550号、1551号、1552号、1553号、1554号、1555号、1556号、1557号、1558号、1559号、1560号、1561号、1562号、1563号、1564号、1565号、1566号、1567号、1568号、1569号、1570号、1571号、1572号、1573号、1574号、1575号、1576号、1577号、1578号、1579号、1580号、1581号、1582号、1583号、1584号、1585号、1586号、1587号、1588号、1589号、1590号、1591号、1592号、1593号、1594号、1595号、1596号、1597号、1598号、1599号、1600号、1601号、1602号、1603号、1604号、1605号、1606号、1607号、1608号、1609号、1610号、1611号、1612号、1613号、1614号、1615号、1616号、1617号、1618号、1619号、1620号、1621号、1622号、1623号、1624号、1625号、1626号、1627号、1628号、1629号、1630号、1631号、1632号、1633号、1634号、1635号、1636号、1637号、1638号、1639号、1640号、1641号、1642号、1643号、1644号、1645号、1646号、1647号、1648号、1649号、1650号、1651号、1652号、1653号、1654号、1655号、1656号、1657号、1658号、1659号、1660号、1661号、1662号、1663号、1664号、1665号、1666号、1667号、1668号、1669号、1670号、1671号、1672号、1673号、1674号、1675号、1676号、1677号、1678号、1679号、1680号、1681号、1682号、1683号、1684号、1685号、1686号、1687号、1688号、1689号、1690号、1691号、1692号、1693号、1694号、1695号、1696号、1697号、1698号、1699号、1700号、1701号、1702号、1703号、1704号、1705号、1706号、1707号、1708号、1709号、1710号、1711号、1712号、1713号、1714号、1715号、1716号、1717号、1718号、1719号、1720号、1721号、1722号、1723号、1724号、1725号、1726号、1727号、1728号、1729号、1730号、1731号、1732号、1733号、1734号、1735号、1736号、1737号、1738号、1739号、1740号、1741号、1742号、1743号、1744号、1745号、1746号、1747号、1748号、1749号、1750号、1751号、1752号、1753号、1754号、1755号、1756号、1757号、1758号、1759号、1760号、1761号、1762号、1763号、1764号、1765号、1766号、1767号、1768号、1769号、1770号、1771号、1772号、1773号、1774号、1775号、1776号、1777号、1778号、1779号、1780号、1781号、1782号、1783号、1784号、1785号、1786号、1787号、1788号、1789号、1790号、1791号、1792号、1793号、1794号、1795号、1796号、1797号、1798号、1799号、1800号、1801号、1802号、1803号、1804号、1805号、1806号、1807号、1808号、1809号、1810号、1811号、1812号、1813号、1814号、1815号、1816号、1817号、1818号、1819号、1820号、1821号、1822号、1823号、1824号、1825号、1826号、1827号、1828号、1829号、1830号、1831号、1832号、1833号、1834号、1835号、1836号、1837号、1838号、1839号、1840号、1841号、1842号、1843号、1844号、1845号、1846号、1847号、1848号、1849号、1850号、1851号、1852号、1853号、1854号、1855号、1856号、1857号、1858号、1859号、1860号、1861号、1862号、1863号、1864号、1865号、1866号、1867号、1868号、1869号、1870号、1871号、1872号、1873号、1874号、1875号、1876号、1877号、1878号、1879号、1880号、1881号、1882号、1883号、1884号、1885号、1886号、1887号、1888号、1889号、1890号、1891号、1892号、1893号、1894号、1895号、1896号、1897号、1898号、1899号、1900号、1901号、1902号、1903号、1904号、1905号、1906号、1907号、1908号、1909号、1910号、1911号、1912号、1913号、1914号、1915号、1916号、1917号、1918号、1919号、1920号、1921号、1922号、1923号、1924号、1925号、1926号、1927号、1928号、1929号、1930号、1931号、1932号、1933号、1934号、1935号、1936号、1937号、1938号、1939号、1940号、1941号、1942号、1943号、1944号、1945号、1946号、1947号、1948号、1949号、1950号、1951号、1952号、1953号、1954号、1955号、1956号、1957号、1958号、1959号、1960号、1961号、1962号、1963号、1964号、1965号、1966号、1967号、1968号、1969号、1970号、1971号、1972号、1973号、1974号、1975号、1976号、1977号、1978号、1979号、1980号、1981号、1982号、1983号、1984号、1985号、1986号、1987号、1988号、1989号、1990号、1991号、1992号、1993号、1994号、1995号、1996号、1997号、1998号、1999号、2000号、2001号、2002号、2003号、2004号、2005号、2006号、2007号、2008号、2009号、2010号、2011号、2012号、2013号、2014号、2015号、2016号、2017号、2018号、2019号、2020号、2021号、2022号、2023号、2024号、2025号、2026号、2027号、2028号、2029号、2030号、2031号、2032号、2033号、2034号、2035号、2036号、2037号、2038号、2039号、2040号、2041号、2042号、2043号、2044号、2045号、2046号、2047号、2048号、2049号、2050号、2051号、2052号、2053号、2054号、2055号、2056号、2057号、2058号、2059号、2060号、2061号、2062号、2063号、2064号、2065号、2066号、2067号、2068号、2069号、2070号、2071号、2072号、2073号、2074号、2075号、2076号、2077号、2078号、2079号、2080号、2081号、2082号、2083号、2084号、2085号、2086号、2087号、2088号、2089号、2090号、2091号、2092号、2093号、2094号、2095号

早良王墓とその時代

特設展図録 福岡市立歴史資料館 より

弥生時代の早良平野関係年表

西暦	中国	早良平野の遺跡
400	春秋	縄文時代
300	戦国	前
200	秦	中期
100	前漢	弥生
紀元前	新	中期
紀元後	後漢	後
300	西晋	古墳時代

西暦	中国	早良平野の遺跡
400	春秋	縄文時代
300	戦国	前
200	秦	中期
100	前漢	弥生
紀元前	新	中期
紀元後	後漢	後

早良地区

- 縄文晩期・弥生早期に海岸沿いに遺跡がある。
- 弥生前期から、灌漑設備と水田が広がり、弥生中期には、早良地区の平らな土地は水田化。
- この枠内は70年ほど年代が早過ぎると丸地は思う。(前期はBC219年以降)
- 南西部の山に近い傾斜地には墓地が広がる。甕棺ロード・高木吉武遺跡・高木大石遺跡・吉武樋渡遺跡
- 王墓と見られる高木吉武遺跡には、三種の神器を副葬した木棺墓。
 - 時期は前期末から中期初め
 - BC100年～150年頃か
- この王墓がピークで、その後も出土するが、これ以上の副葬品を持った遺跡は、出土しない。
- 墓地の拡大発展は見られないが、その後も、早良平野の水田耕作は拡大し、平野全域が耕作地となった。

須玖岡本の王墓



連弧文「清白」鏡

王墓に副葬されていた前漢鏡の中には中型品、小型品も含まれていた。径18.5cm。



ガラス勾玉

頭部に細かい溝をもつ丁子頭定形勾玉で、表面が風化するが、本来は鮮緑色。弥生時代の勾玉は、ガラス製のものが最も価値が高く、さらに5cmを超える本品は最大級である。長さ5.2cm。九州大学。



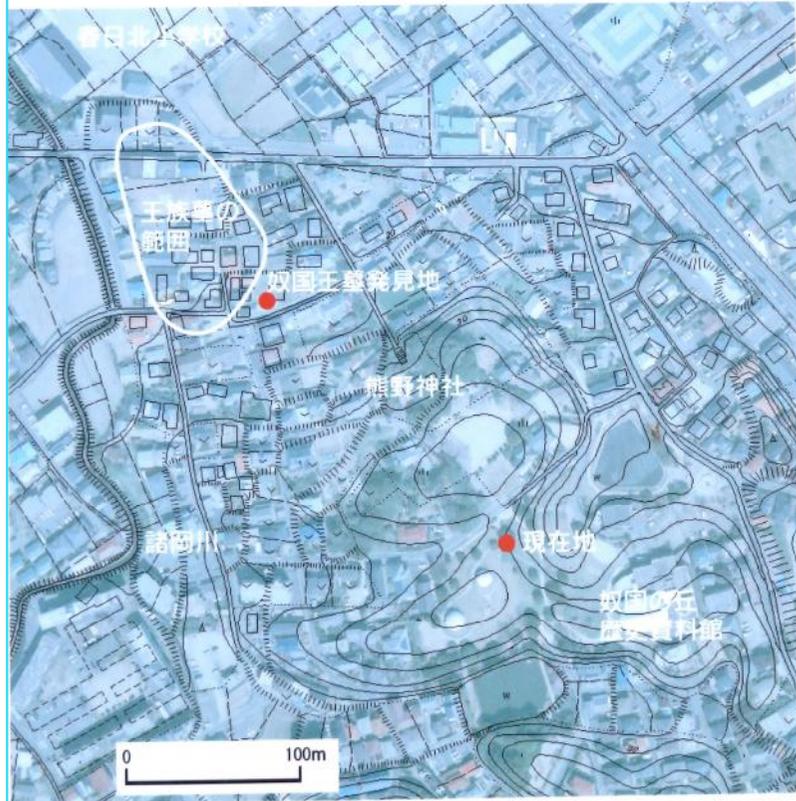
多樋式銅剣

通常の銅剣に比べ異形を呈しており、剣身の片面に「樋」と呼ばれる溝が4条通るため、この名称がつけられている。国内では本例のみで、朝鮮半島でも2例しか確認されておらず、生産地についても諸説がある。長さ35.1cm。東京国立博物館。(春日市1995から転載)



昭和4年当時の上石の状況

『筑前須玖史前遺跡の研究』から



王墓の原位置

現在の航空写真に昭和初期の地形図を重ねています

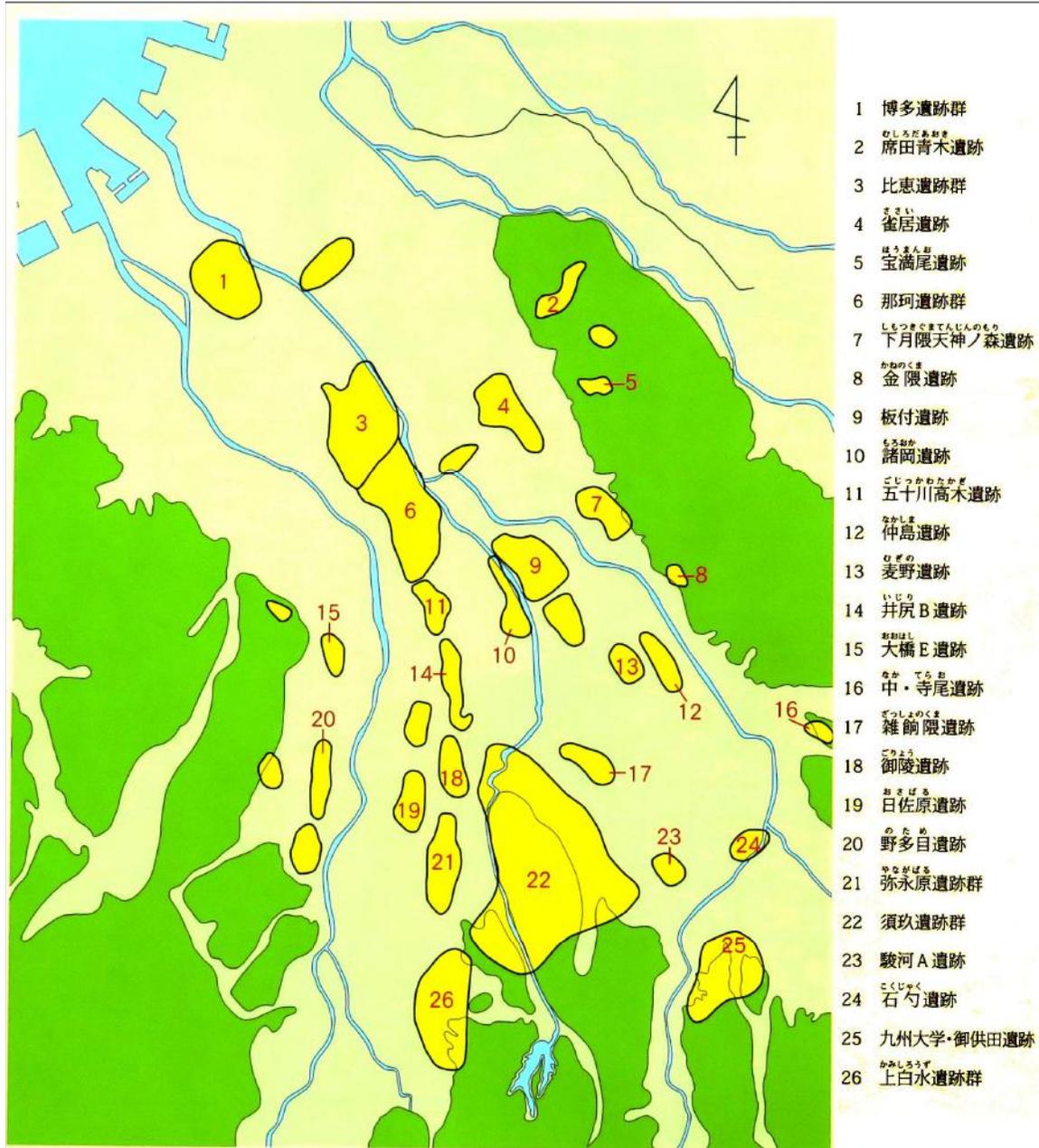


王墓の復元模型

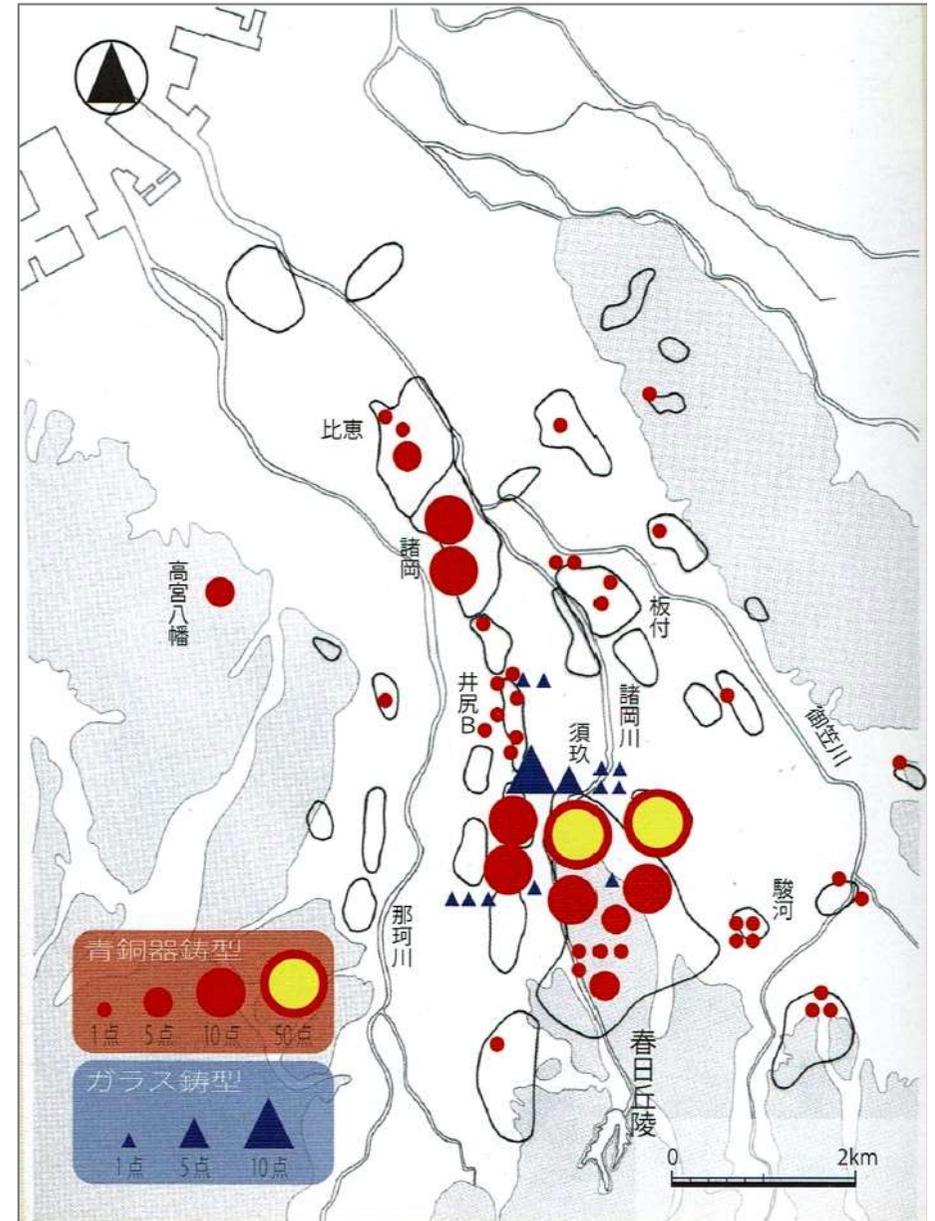


王墓出土鏡の復元品

須玖岡本遺跡の周辺は、青銅器鑄造工場の集積地



福岡平野における集落の分布



福岡平野の青銅器鑄型出土分布図

須玖岡本の青銅器鑄造工場の跡



須玖遺跡群北部の青銅器工房跡

- ① 須玖唐梨遺跡 (鉄器工房跡)
- ③ 須玖永田 A 遺跡 (青銅器工房跡)
- ⑤ 須玖タカウタ遺跡 (青銅器工房跡)
- ⑦ 須玖岡本遺跡坂本地区 (青銅器工房跡)
- ② 須玖五反田遺跡 (ガラス工房跡)
- ④ 須玖黒田遺跡 (青銅器工房跡)
- ⑥ 須玖坂本 B 遺跡 (青銅器工房跡)
- ⑧ 須玖尾花町遺跡 (青銅器工房跡)

須玖岡本王墓出土地

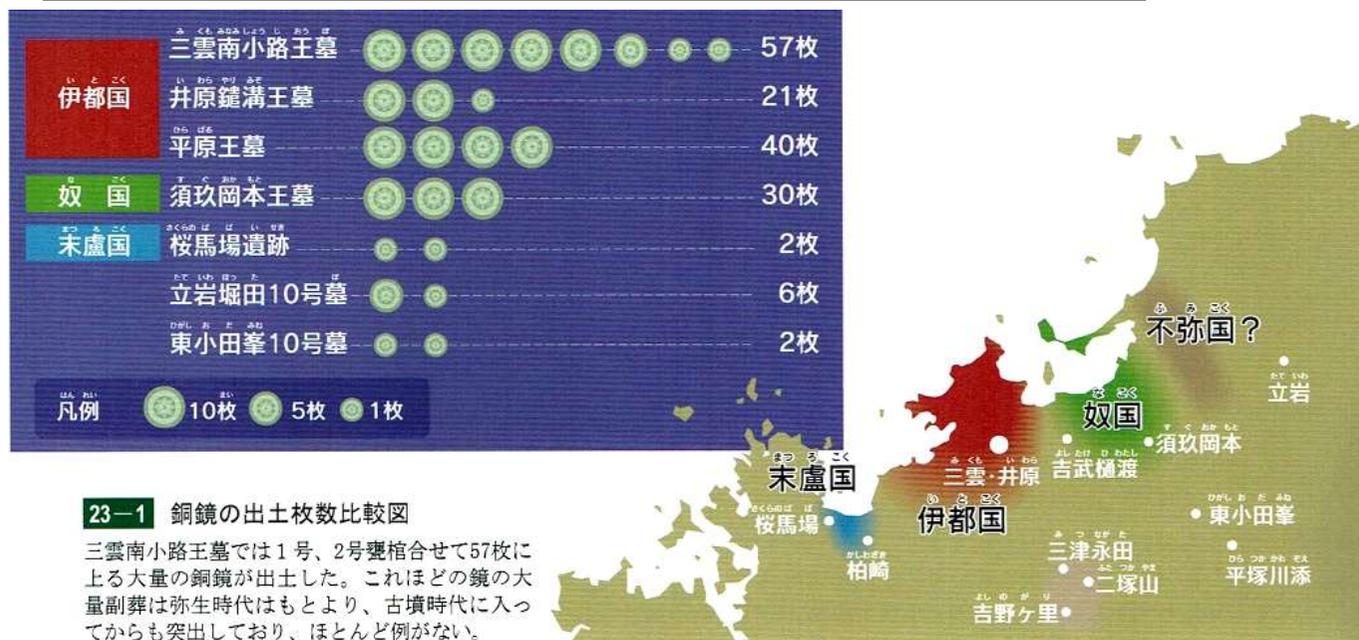
丘陵地帯: 王の居住地

糸島・前原の王墓

- 三雲南小路王墓
 - 三種の神器や充実した副葬品
 - 王墓と王妃の墓か 高さ1.5mの弥生墳墓
- 井原鎚溝王墓
 - 江戸時代に発掘された王墓
 - 記録が残る
- 平原王墓
 - 弥生時代後期・古墳時代直前の時代に
 - 三種の神器が揃い
 - 飛びぬけて、充実した副葬品が出土。
 - 日本最大の大型銅鏡 5枚は、圧巻。



三雲南小路王墓の
三種の神器



23-1 銅鏡の出土枚数比較図

三雲南小路王墓では1号、2号甕棺合せて57枚に上る大量の銅鏡が出土した。これほどの鏡の大量副葬は弥生時代はもとより、古墳時代に入ってから突出しており、ほとんど例がない。

平原王墓の出土品

糸島新聞社
2006年5月
記事より

- 古墳時代以前の墳墓で、大和朝廷の三種の神器と同じに太刀・鏡・勾玉が出土。鏡は、46.5cmの巨大なもの、
 - 八咫鏡(やたのかがみ)のサイズに該当。



26-1 姿を現した平原遺跡
中央の方形周溝墓が王墓である平原1号墓。昭和40年の発掘調査当時の写真。

伊都国歴史博物館常設展示図録より4点



⑦素環頭大刀
全長 80.2 cm。ほとんど反りを持たず、直線状をなす。

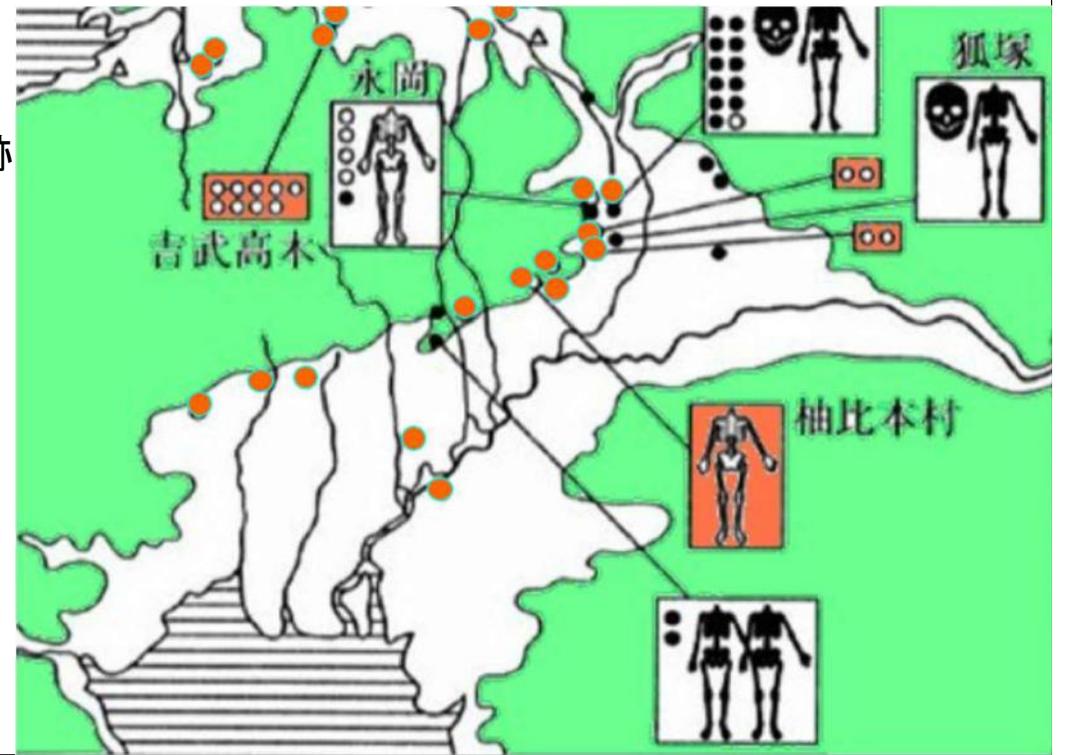
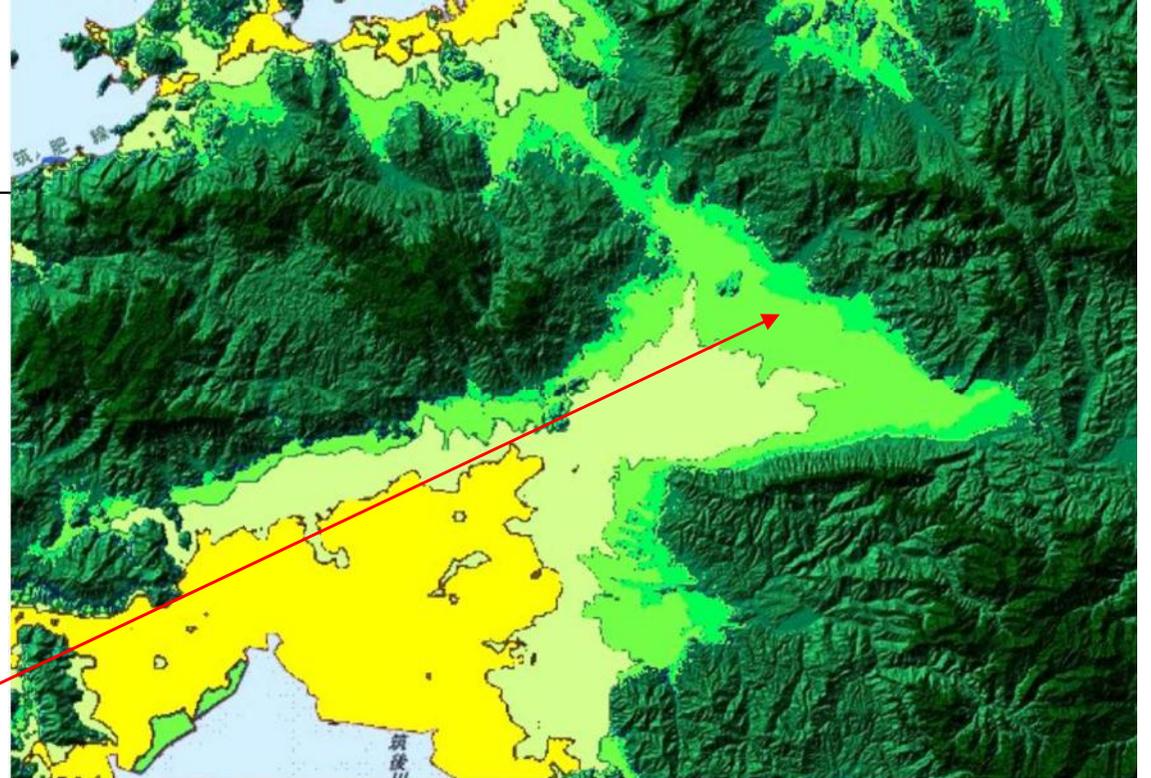
国宝 平原王墓出土銅鏡一覽

<p>● 方格規矩四神鏡 <6号鏡> 約18.5cm[南方作真…]鏡</p>	<p>● 方格規矩四神鏡 <7号鏡> 約16.1cm[南方作真…]鏡</p>	<p>● 方格規矩四神鏡 <8号鏡> 約16.1cm[南方作真…]鏡</p>	<p>方格規矩四神鏡 <9号鏡> 約16.1cm[南方作真…]鏡</p>
<p>超大型 内行花文鏡 <13号鏡> 約46.5cm</p>		<p>超大型 内行花文鏡 <14号鏡> 約46.5cm</p>	
		<p>● 大型 内行花文鏡 <15号鏡> 約27.1cm[大室子孫…]鏡</p>	
<p>方格規矩四神鏡 <21号鏡> 約20.5cm[南方作真…]鏡</p>	<p>方格規矩四神鏡 <22号鏡> 約18.7cm[南方作真…]鏡</p>	<p>● 方格規矩四神鏡 <23号鏡> 約19.1cm[南方作真…]鏡</p>	<p>方格規矩四神鏡 <24号鏡> 約18.8cm[南方作真…]鏡</p>
		<p>● 方格規矩四神鏡 <25号鏡> 約18.8cm[南方作真…]鏡</p>	

● 銅鏡の中心部には、
「伊都王墓」の文字が刻まれている

筑紫平野

- 外の平野等に比べ、圧倒的に広い平地がある。縄文時代の遺跡も多く、豊かな地域。
- 弥生早期 - 早期の支石墓も有る。
- 弥生前期～
 - 早い時期から水田稲作が開始し、全国普及した品種の稲が栽培された。
 - 初期戦争へも太宰府の地溝地帯を經由し
 - 前期後半から中期に、遺跡数が急激に増加。地溝地帯から三津永田・東小田峰・横隈山・安永田・吉野ヶ里遺跡が背振山地に沿って続く。
 - 右図のように、戦争遺跡がその地域に続く。
 - 平塚川添遺跡(吉野ヶ里遺跡以上の規模を持つ)
 - 多重の環濠に400棟の家屋、巨大な農業遺跡
 - 銅矛・銅鏃・鏡片・貨泉など青銅製品出土
- 中期以降
 - 青銅器・鉄剣などを副葬した甕棺が多く出土
 - 王墓は無し
- 後期
 - 複数の住居跡から多数の鉄器が出土
 - 鏡・玉・土器が出土する遺跡が多出



遠賀川流域



図-5 遠賀川流域の弥生時代の遺跡の分布
(「遺跡位置図/遺跡略年表²²⁾」を元に作成)

- 弥生前期 - 下流域で水田稲作開始
 - 食料の安定供給が可能な干潟の沿岸
 - 木製鋤で耕作可能な低湿な沖積地
 - 灌漑水源として利用可能な小河川存在
- 弥生中期 - 中流域・上流域
 - 石包丁の生産拠点
 - 水田耕作が中流域から上流域に展開
 - 木製の鋤で開墾可能なマサ沖積地
 - 立岩遺跡: 前漢鏡10面出土
- 弥生後期
 - 後漢鏡を出土する墓が多数
 - 王墓なし
- 古墳時代
 - 4世紀 鉄製工具の痕跡(沖出古墳)
 - 鉄製刃先装着の鋤・鋤使用
 - 古墳: 前期から後期まで、多数有り

土木学会論文集D2(土木史)「遠賀川流域における古代の土木施工技術と土地開発の関係」松木洋忠氏外より

弥生：初期・中期の戦争遺跡と遺物から

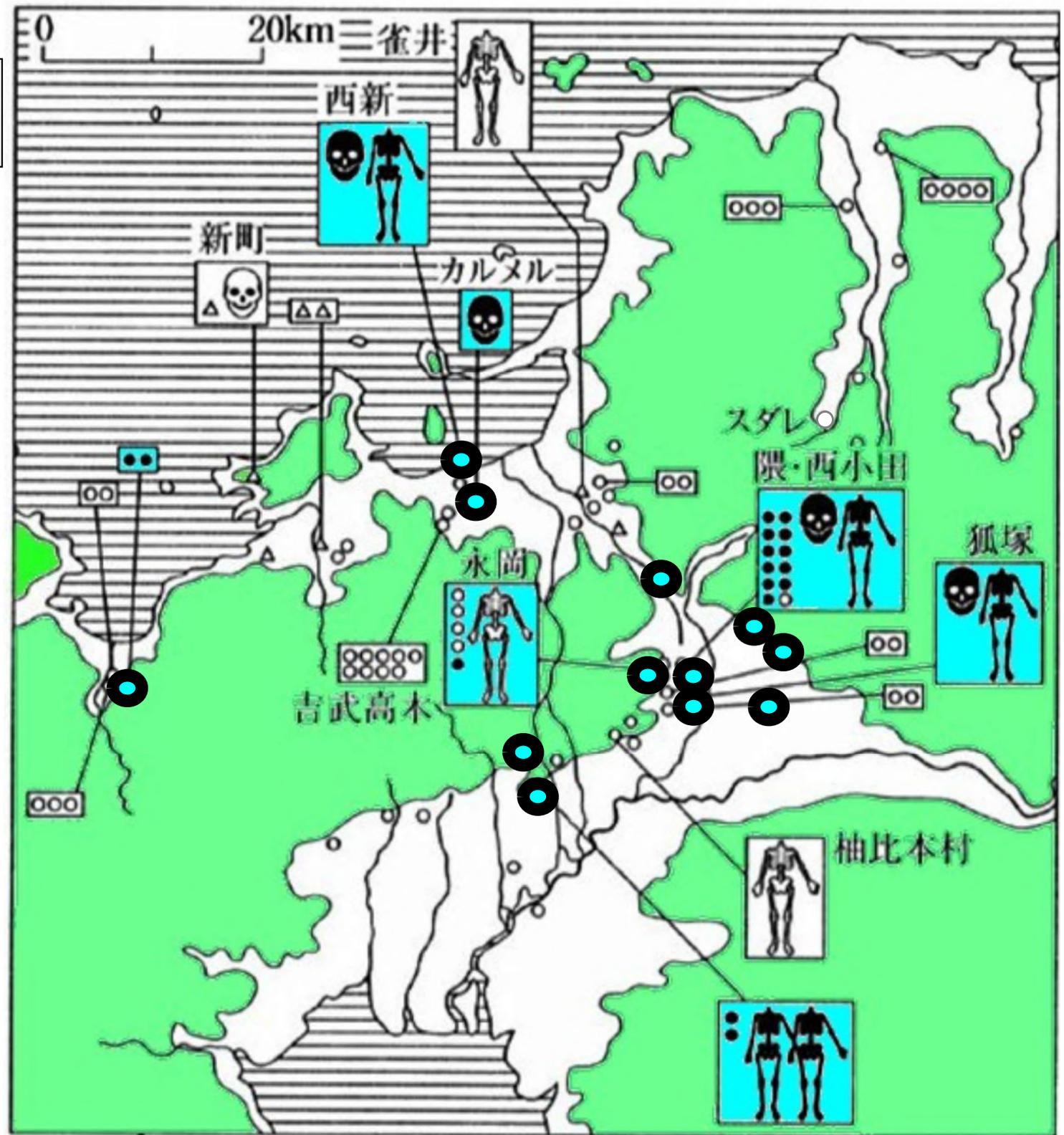
- 遺跡・遺物だけから推測できること
- 縄文晩期/弥生早期に水田稲作を開拓した最初の渡来民と縄文人の連合の集落は、2次渡来民の逆襲に会い、全ての集落が負け、2次渡来民の集落に置き換わった。
- 2次渡来民の集落は北九州全体に広がったが、各地域ごとに違いが出た。
 - 糸島・前原は、発展が少なく、弥生渡来民には広い平坦地が広い遠賀川は急激に発展。
 - 早良が最も早く発展し、次いで発展した福岡平野では、青銅器工業が発展。
 - 早良で王墓を築いた一族が福岡に移転し、須玖岡本の北九州一帯の王と見なす王の王となった。
 - 中期の戦乱が発生したが、その王の王が勝者となり、制圧した。
 - 引き続き中期の戦乱に敗退し、平野はかつての繁栄や栄光を失い、集落・人口が減少。
 - 須玖岡本の王一族は、突如糸島・平原に移り、栄華を継承した。
 - 一方、遠賀川流域では、王の王とも思われる繁栄があり、
 - 中期の後半の戦争で勝利したのが遠賀川系であったことが判る。
 - 筑紫平野は、終始繁栄し、勝者の側にいた。
 - 前期・中期・後期を通じて武力を持ち、先端の鉄製武器を多く所有していたが、王の王となるような王墓は残していない。
 - 唐津(宇木汲田)は中期の戦争に参加し、早良・福岡側に属していたようだが、
 - 須玖岡本の陥落後は、遠賀川系に与する勢力(桜馬場)の勢力下に置き換わった??

時代	唐津	糸島前原	早良	福岡平野	筑紫平野	遠賀川立岩
弥生早期	水田稲作 支石墓	水田稲作 支石墓	水田稲作 支石墓	水田稲作	水田無し	水田無し
弥生	夜日式	夜日式	夜日式	夜日式		
	初期に稲専用のカマを開発	遺跡数の増加無し 副葬品皆無	板付式土器 環濠集落	遺跡数 急激な増加 環濠墓	環濠出土 有柄式磨製石剣 出土	下流域 水田 立岩動 木原湖田遺跡
	支石墓に 複数の環濠		集落の拡大 拠点集落 発生			
	宇木汲田 青銅器を剥離 有力者墓		木棺墓王墓	環濠墓から 銅剣・銅戈	鉄器出土	スダレ 戦争遺跡
後期には、 有力者の墓 が消滅	三雲南小路 王墓	環濠遺跡 (王墓ではない) 支配層の墳墓	須玖岡本 王墓	鉄器普及	夫婦岩環濠墓	
桜馬場に王墓	環濠墓 存続	井原窪溝 王墓		環濠墓 急速に減少		立岩・船田 王墓
王墓は出ないが その後も桜馬場が 有力集団	平原王墓 その後 王墓無し		中期集落は 継承するが 遺構・遺物は 減少	墓の激 激減	住宅跡の 覆土中から 多量の鉄器	後漢鏡副葬の墓 多敷
				激勳の 時代	墳墓から銀・青銅 器・鉄器	王墓無し

後期の戦争遺跡

● : 中期後半以降

- 早良・筑紫平野・唐津・(糸島・前原)の一族が多大な犠牲を払いながら勝利したものと見える。
- 糸島・前原の一族もその戦いに参加し、勝利したものと見える。
- 決戦の場所は糸島・前原ではない。(早良は勝者)福岡平野が決戦の地と見る。
 - 次の大量埋納の箇所を参照。
- 発掘された戦傷者の遺骨は、甕棺・墳墓に埋葬。→勝者の側の負傷者・死者であったと理解する。



青銅器埋納の意味を考える

「青銅器埋納」：埋納の解釈

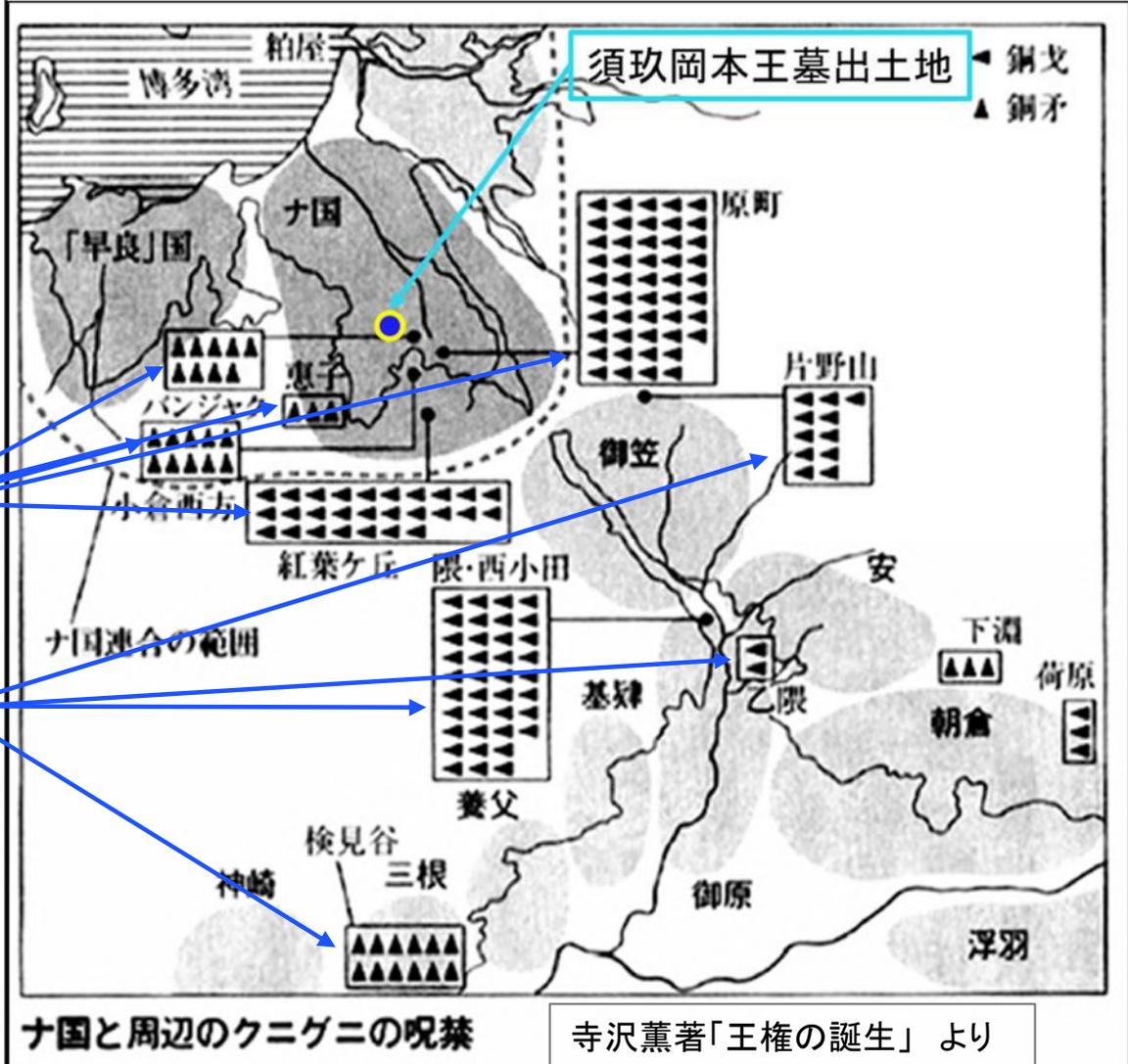
- 戦争に勝利した側が、敗者の政治支配のシンボル(祭器)であった青銅器を供出させ、二度と使えないように、地面に埋めた。
- 遠隔地の敗者には、祭器の保持を禁じ、埋めることを強要した。

埋める場所は、

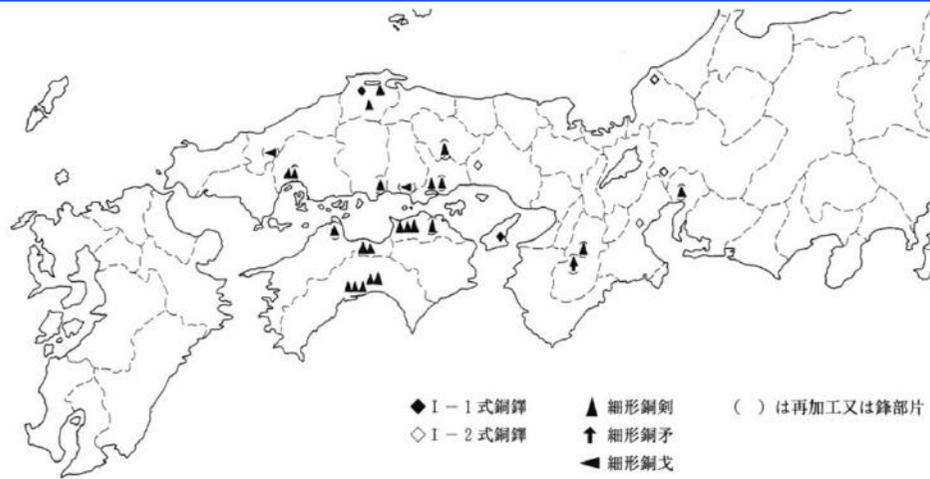
- 人が入らない山中・山麓など。
- 須玖岡本の場合は、味方の祖先の大王の墓に報告した後に、山中に埋めたものとみる。
 - 青銅器の生産された地域に戻したともみられる。
- 戦利品として持ち帰り、報告のためお披露目をした後に、埋納。

- 寺沢氏は、埋納は、呪禁・呪詛など、敵を呪うために行った儀式としている。戦争を前にして、自分たちの貴重な政治支配のシンボルを大量に埋めることは、あり得ない。従って上記の説明となる。

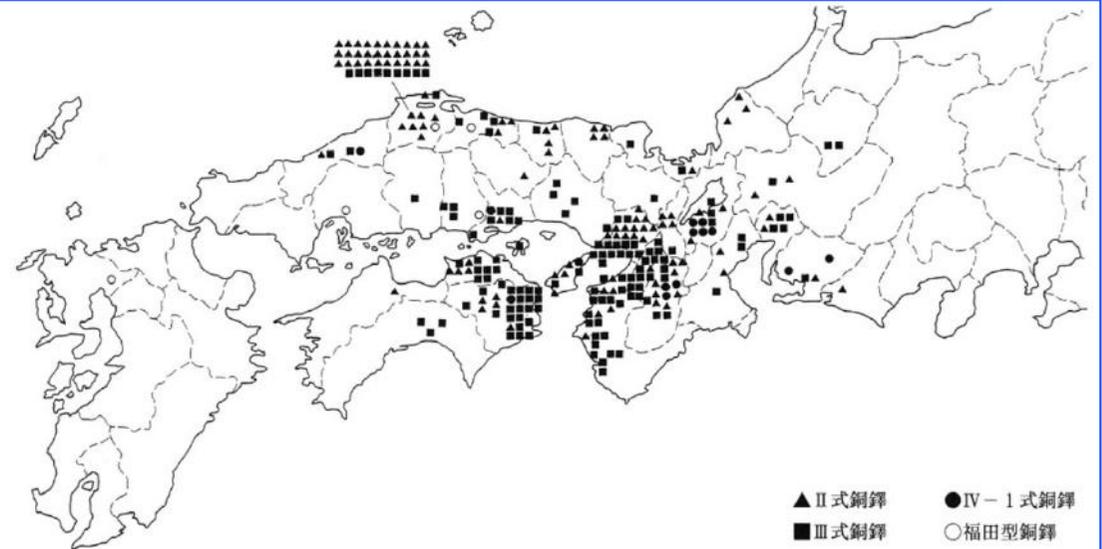
- 埋納は、丁重に行われた。敗者のものとは言え、神事に使われたもので、勝者(他者)が雑に扱えば、敗者の側の恨みがのこり禍根となるため。



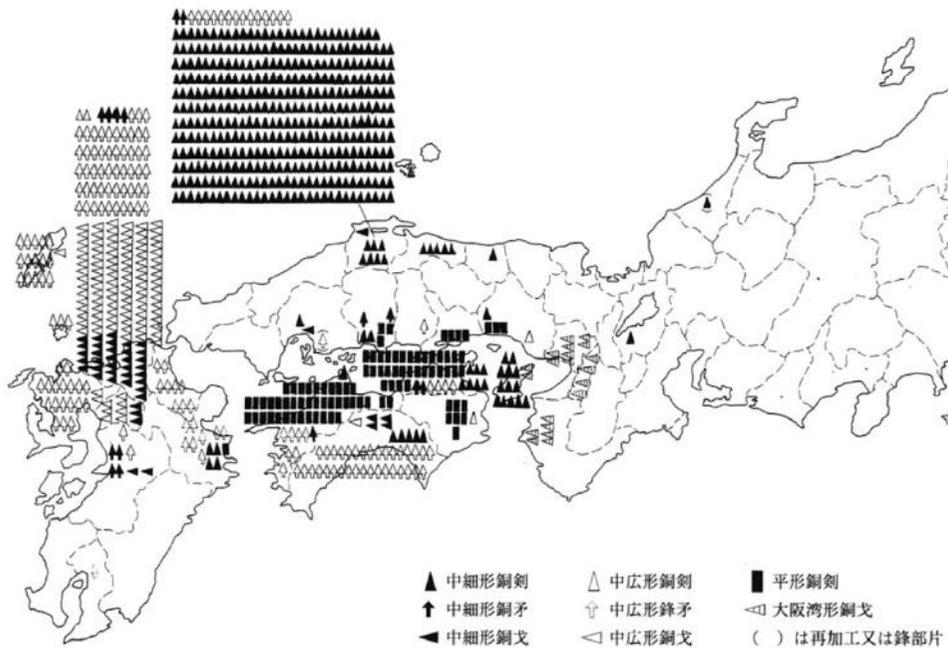
この埋納された青銅の祭器は出雲族のもの！



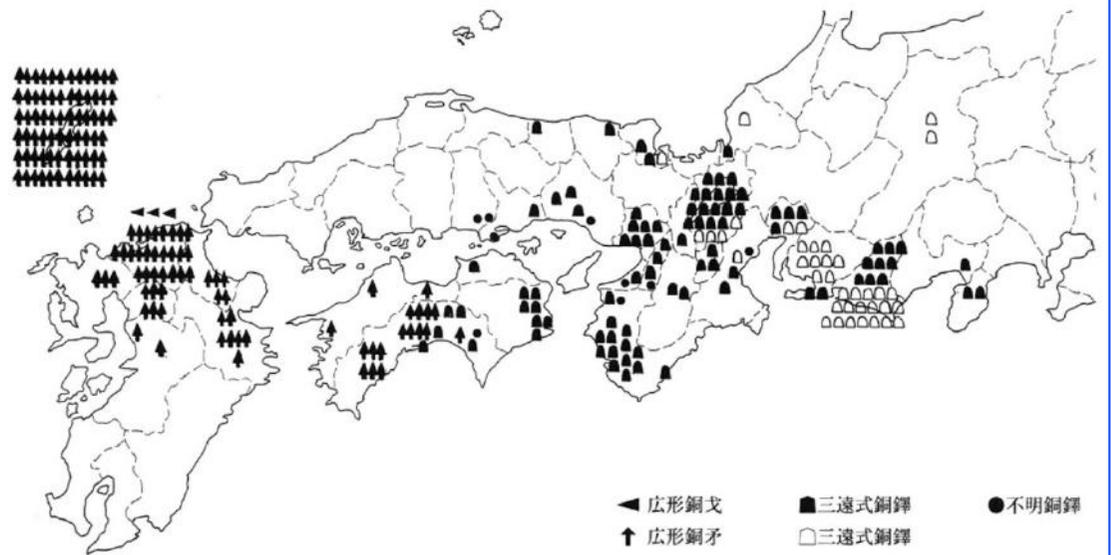
第2図 埋納された武器形青銅器と銅鐸の分布【第1段階】



第4図 銅鐸（II式～IV-1式）の分布【第2段階】



第3図 埋納された武器形青銅器の分布【第2段階】



第5図 埋納された武器形青銅器と銅鐸（IV-2～5）の分布【第3段階】

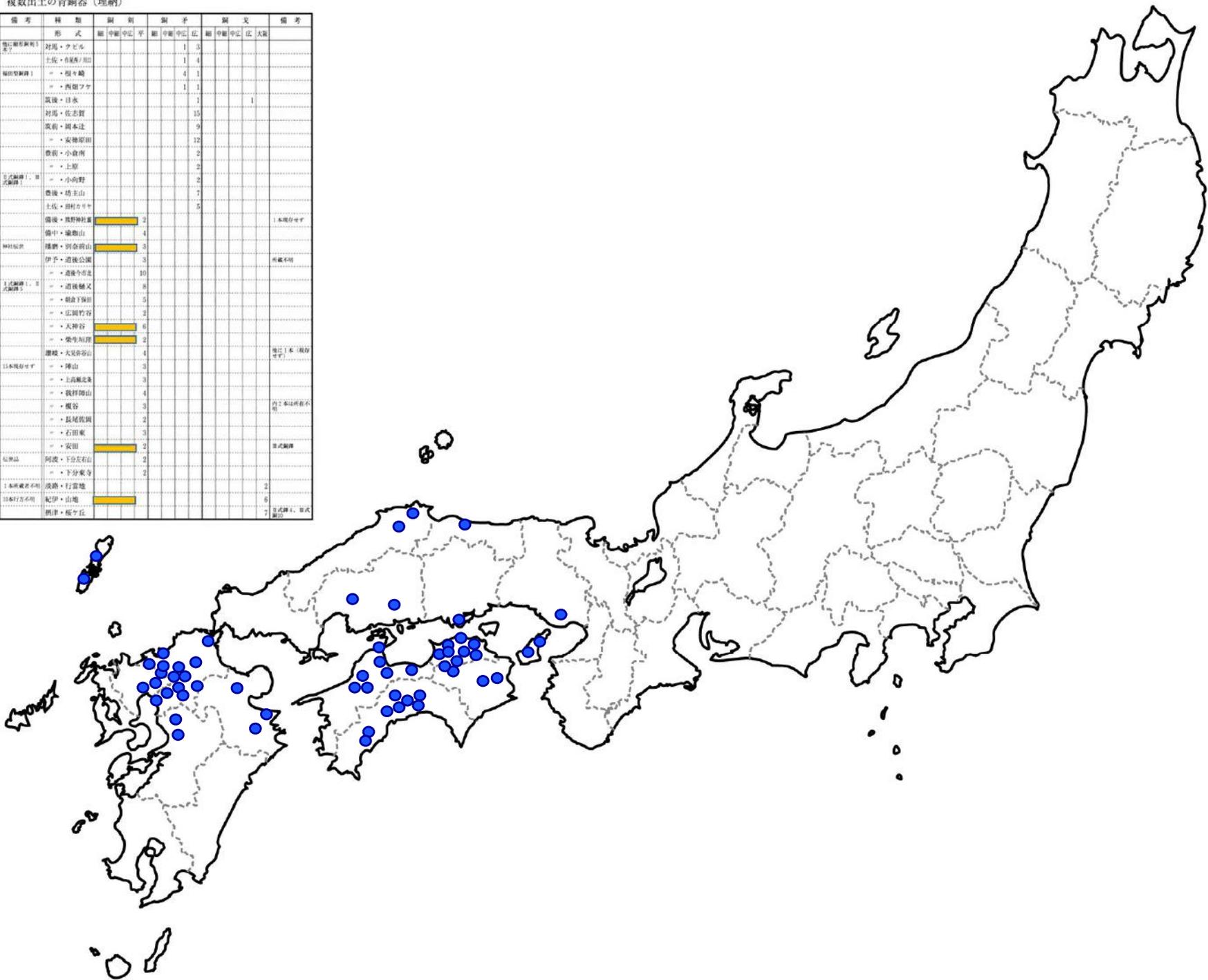
- 出雲族の勢力範囲が上記の図から判る。各時代毎に範囲が拡大し、敗北し、祭器を消失した。
- 九州に関しては、天孫族との境界が不明。埋納物の量が多い。

武器型青銅器を埋葬した地域(一箇所に複数個) 出雲族

第2表 複数出土の青銅器(埋納)

種類	別支					備考	種類	別支					備考
	形	式	細	中	大			形	式	細	中	大	
伊予・大野西邊	2					1	伊予・タカノ				1	3	
讃岐・藤ノ谷	3						土佐・高瀬/川口				1	4	
安芸・福田	1					1	福田型銅器1				4	1	
備後・大崎山	2			1			伊予・西郷ツケ				1	1	
筑前・下山門						3	筑後・伊予				1		1
伊予・西小田						23	好馬・佐志賀					15	
肥後・高木西津道						2	筑前・岡本庄					9	
肥後・今古園						4	伊予・安徳原田					12	
豊後・浜	4						豊前・小倉南				2		
出雲・荒神谷	358						伊予・上原				2		
伊予・志谷集	6						伊予・小倉野				2		
伯耆・イズ子遺	4						豊後・坊主山				7		
土佐・新在渡分	3						土佐・田村カサキ				5		
淡路・古津路	13						備後・熊野神社裏				2		1本現存せず
讃岐・瓦谷	5	2	1				備中・諭徳山				4		
筑前・住吉						6	備前・別倉前山				3		
伊予・小倉						1 26	伊予・道後公園						所蔵不明
伊予・原町						37 457	伊予・道後今宿北				10		
出雲・荒神谷						2 14	伊予・道後輪又				8		
対馬・大瀬						11	伊予・鶴田下藤田				5		
筑前・小倉西方						9	伊予・広園竹谷				2		
伊予・岩戸						3	伊予・天神谷				6		
筑後・女山大草						2	伊予・徳生知理				2		
伊予・つるかひ						3	讃岐・大見谷山				4		現1本(現存せず)
伊予・藤田天神道						18	伊予・陣山				3		
肥前・日蓮原						4	伊予・上高瀬北条				3		
伊予・映見谷						12	伊予・我拝降山				4		
豊後・且尾谷辺						7	伊予・楓谷						内2本は所在不明
伊予・高々尾						5	伊予・長尾佐興				2		
伊予・新所敷谷乙						2	伊予・石田東				3		
讃岐・下ノ山						2	伊予・安田				2		正式埋葬
土佐・小村神社						2	阿波・下分左右山				2		
伊予・方福寺内						2	伊予・下分東寺						
伊予・三野池						2	淡路・行雲地						2
伊予・丹野山						11	肥伊・山地						6
筑後・乙陽東畑						2	備前・坂ヶ丘						7

出雲族の勢力範囲

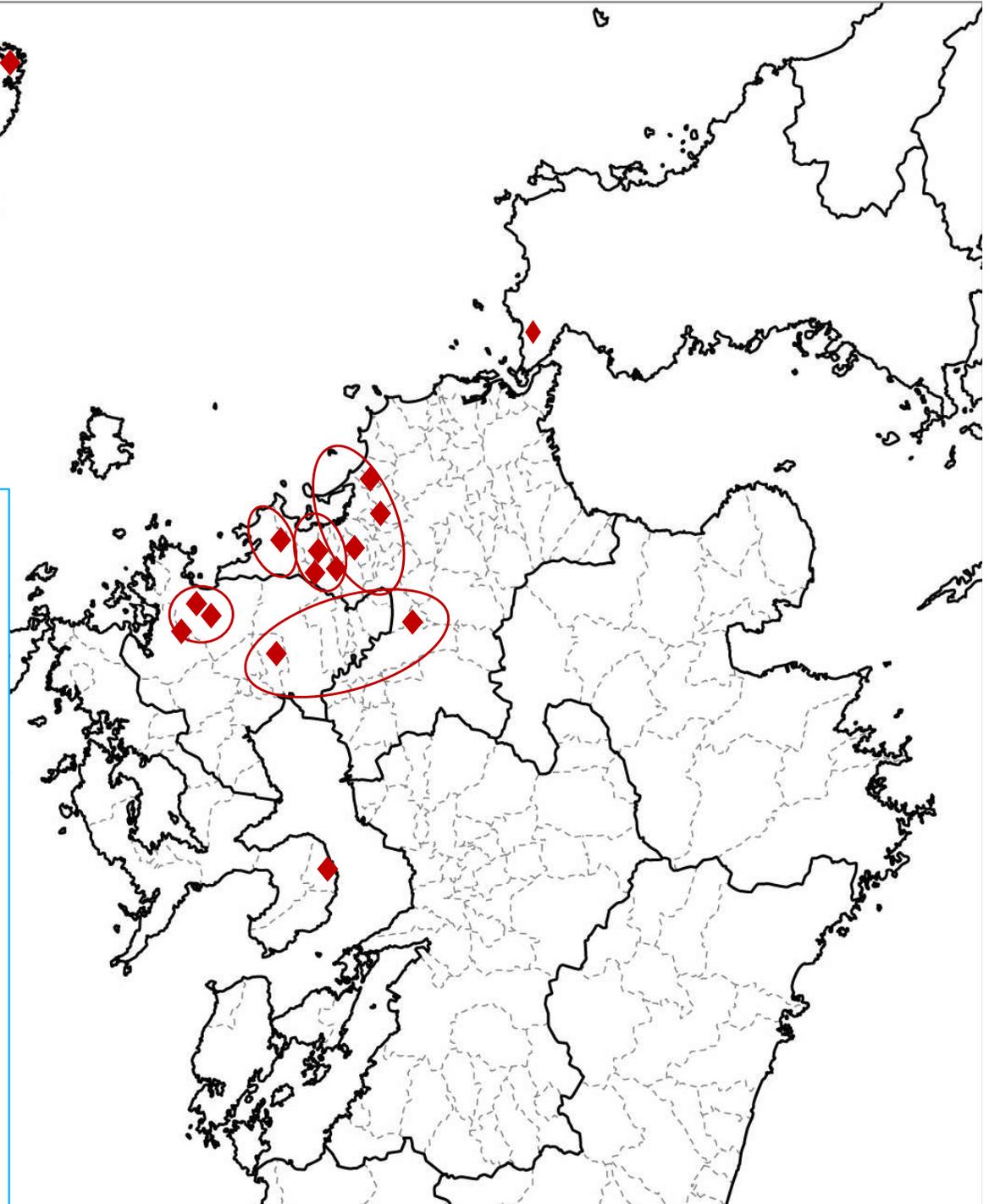


青銅器を副葬した地域→天孫族

- 天孫族の支配地域
- 前期・中期の細型・中型の青銅器を副葬
 - (前期・中期の天孫族の支配地域)

第1表 複数出土の青銅器（墳墓）

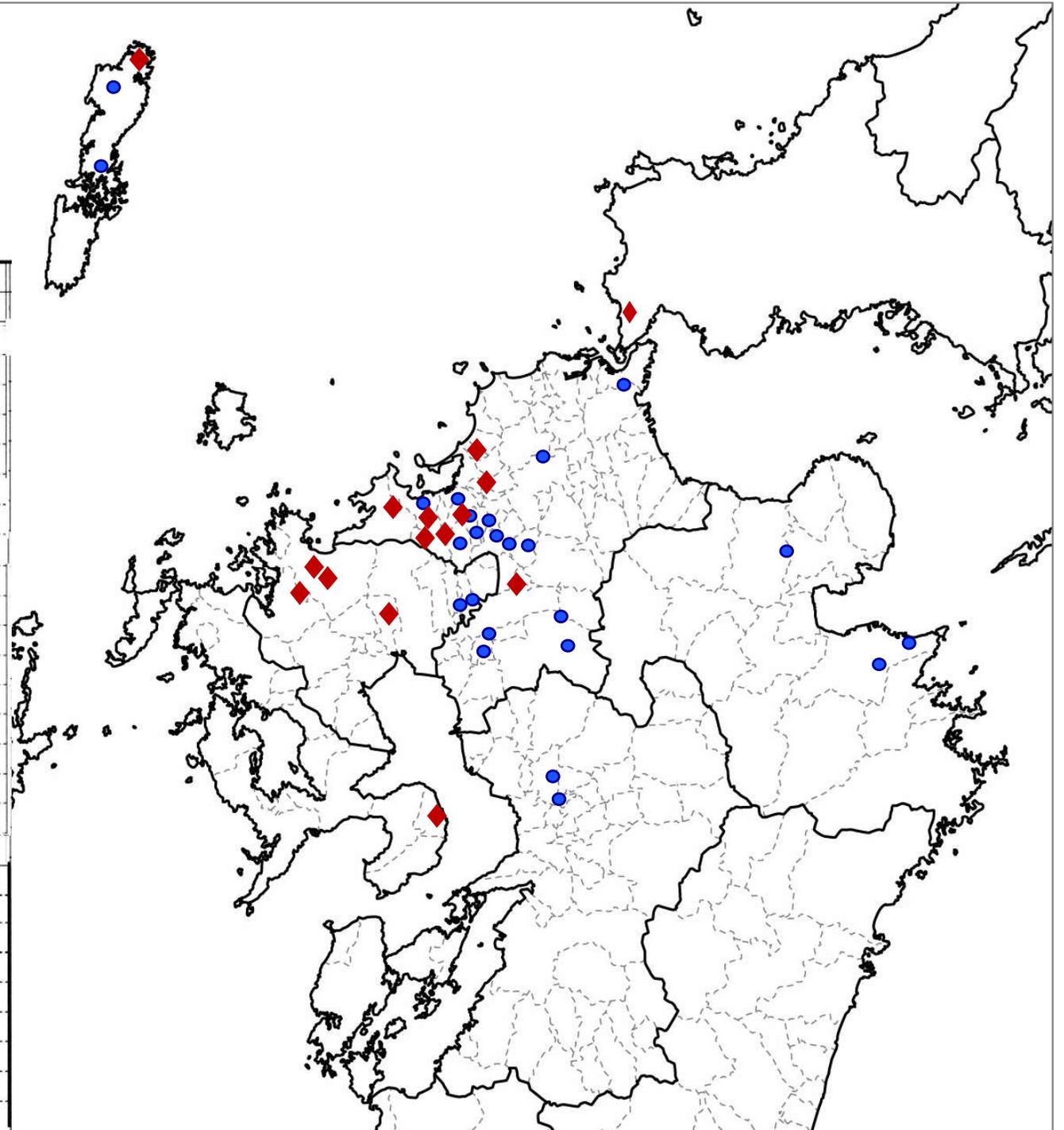
種類 形式	銅 剣				銅 矛				銅 戈					備考
	細	中細	中広	平	細	中細	中広	広	細	中細	中広	広	大阪	
筑前・吉武高木3号	2				1				1					多鈕鏡, 勾玉, 管玉他
〃・吉武大石45号	1				1									カメ棺
〃・吉武大石1号	1								1					木棺
〃・久原Ⅳ-1号	1				1									土廣墓, 管玉
〃・鹿部	1								1					合口カメ棺
肥前・宇木汲田	1				3									カメ棺
〃・高志神社	2													石鏡
長門・梶栗浜	2													箱式石棺, 多鈕鏡
筑前・三雲南小路		1			2					1				前漢鏡, 璧, 勾玉他
〃・須玖岡本D		1			1	4								前漢鏡, 璧, 勾玉他
肥前・庚申山					1					1				カメ棺
〃・久里小学校2号						1				1				カメ棺, 管玉
筑後・大板井										2				合口カメ棺
肥後・景華園						2								カメ棺の外, 勾玉, 管玉
対馬・塔ノ首								2						石棺, 銅劍, 管玉, 小玉



武器型青銅器を埋葬した地域と副葬した地域

第2表 複数出土の青銅器（埋納）

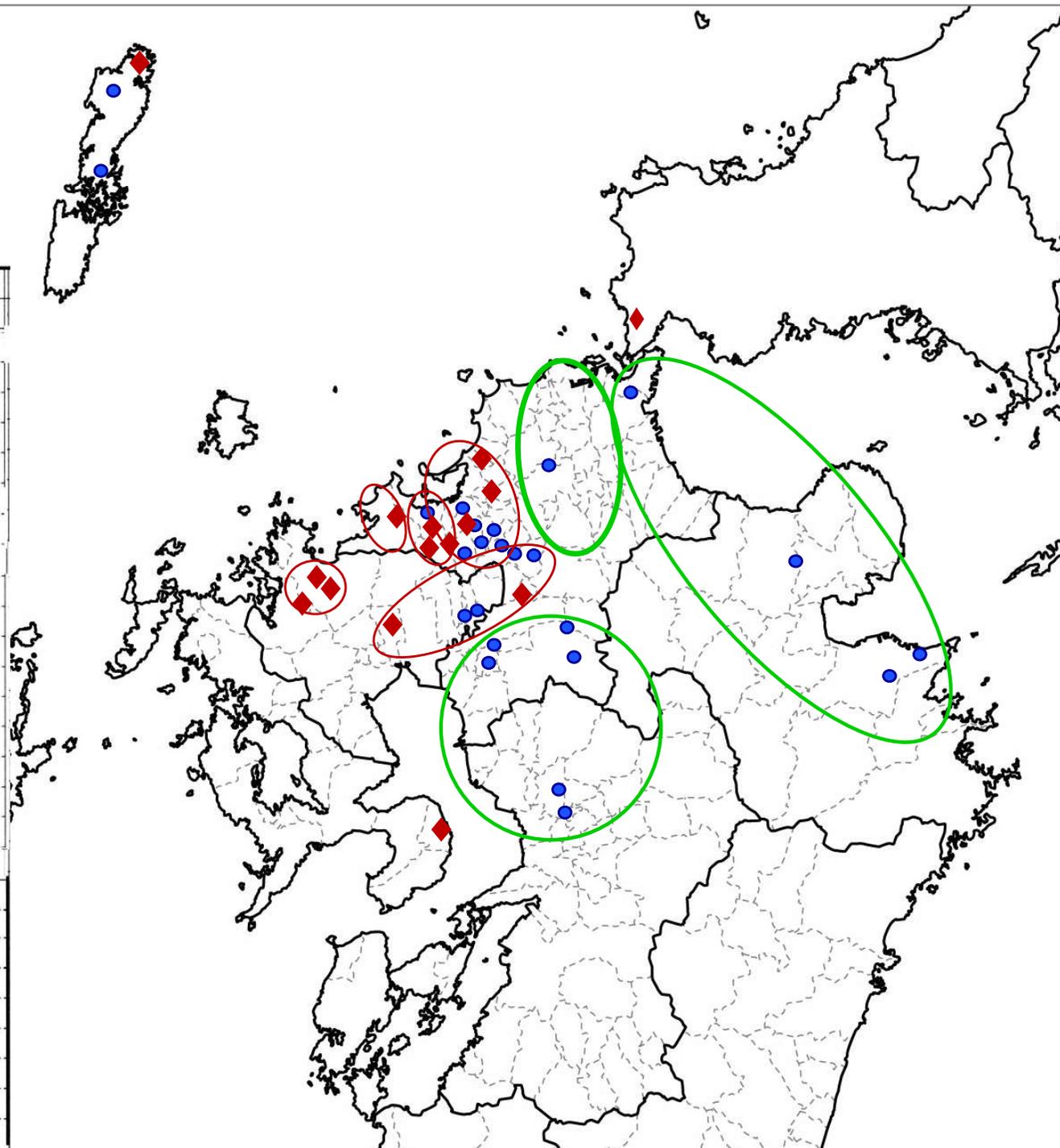
種類	銅 剣				銅 矛				銅 戈					備考	
	形 式	細	中細	中広	平	細	中細	中広	広	細	中細	中広	広		大坂
筑前・下山門										3					
〃・隈・西小田										23					
肥後・真木西津留										2					
肥後・今古閑							4								
豊後・浜		4													
筑前・住吉							3	2		6					神社伝世
〃・小倉										1	26				
〃・原町										3?	45?				
筑前・小倉西方								9							
〃・岩戸								3							
筑後・女山大草								2							
〃・つるかけ								3							
〃・藤田天神浦								18							15本現存せず
肥前・目達原								4							
〃・検見谷								12							
豊後・且尾谷迫								7							
〃・京ヶ尾								5							
筑後・乙隈東畑										2					
対馬・クビル							1	3							
筑後・日永								1					1		
対馬・佐志賀								15							
筑前・岡本辻								9							
〃・安徳原田								12							
豊前・小倉南								2							
〃・上原								2							
〃・小向野								2							
豊後・坊主山								7							



武器型青銅器を埋葬した地域と副葬した地域

第2表 複数出土の青銅器（埋納）

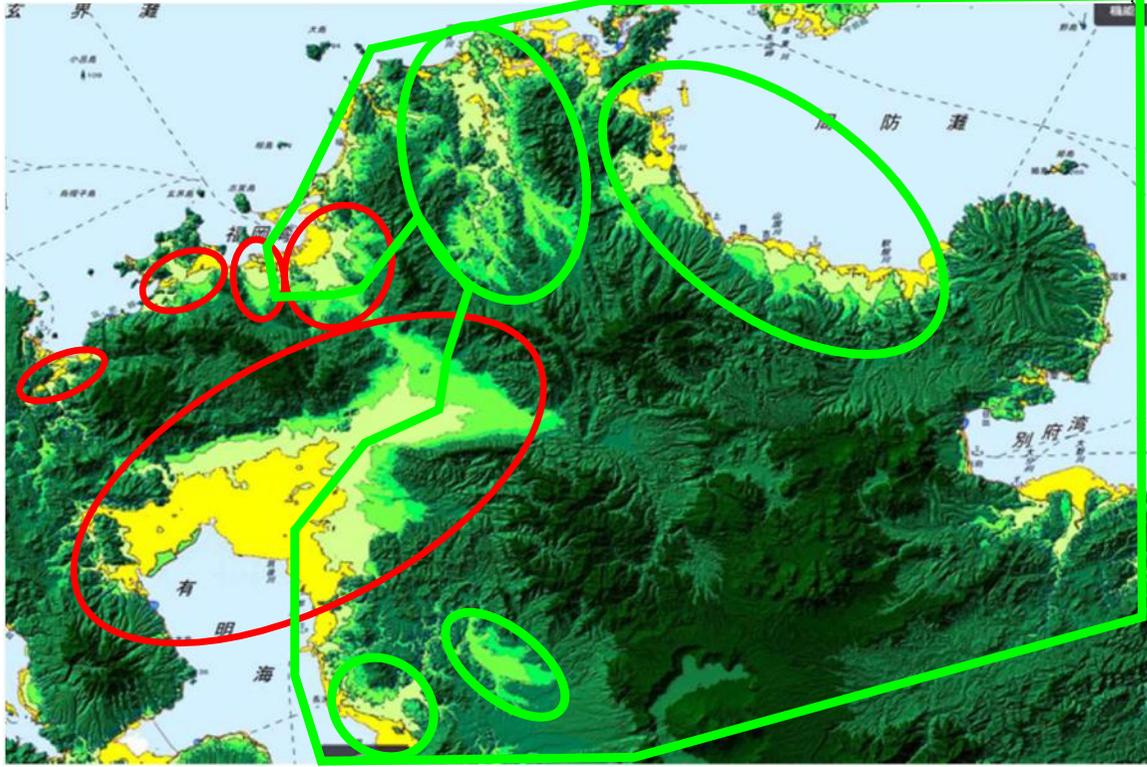
種類 形式	銅 剣				銅 矛				銅 戈					備考
	細	中細	中広	平	細	中細	中広	広	細	中細	中広	広	大阪	
筑前・下山門									3					
〃・隈・西小田									23					
肥後・真木西津留									2					
肥後・今古閑						4								
豊後・浜	4													
筑前・住吉						3	2		6					神社伝世
〃・小倉									1	26				
〃・原町									3?	45?				
筑前・小倉西方							9							
〃・岩戸							3							
筑後・女山大草							2							
〃・つるかけ							3							
〃・藤田天神浦							18							15本現存せず
肥前・目達原							4							
〃・検見谷							12							
豊後・且尾谷迫							7							
〃・京ヶ尾							5							
筑後・乙隈東畑									2					
対馬・クビル							1	3						
筑後・日永							1					1		
対馬・佐志賀								15						
筑前・岡本辻							9							
〃・安徳原田							12							
豊前・小倉南							2							
〃・上原							2							
〃・小向野							2							
豊後・坊主山							7							



時代	唐津	糸島前原	早良	福岡平野	筑紫平野	遠賀川立岩
弥生早期	水田稲作 支石墓	水田稲作 支石墓	水田稲作 支石墓	水田稲作	水田無し	水田無し
	夜臼式	夜臼式	夜臼式	夜臼式		
弥生	初期に棺専用のカメを開発	道跡数の増加無し 壘墓に副葬品皆無	板付式土器 環濠集落	遺跡数 急激な増加 壘墓	壘墓出土 有柄式磨製石剣 出土	下流域 水田 立屋敷 木屋瀬田遺跡
	支石墓に 複数の壘墓		集落の拡大 拠点集落 発生			石包丁生産
	宇木汲田 青銅器を副葬 有力者墓 後期には、 有力者の墓 が消滅	木棺墓王墓	壘墓から 銅剣・銅戈	鉄器出土	スダシ 戦争遺跡	
後期	桜馬場に王墓 王墓は出ないが その後も桜馬場が 有力集団	三雲南小路 王墓 井原鐘溝 王墓	榑渡遺跡 (王墓ではない) 支配層の墳墓	須玖岡本 王墓	鉄器普及	夫婦岩壘墓 立岩・堀田 王墓
	壘墓墓 存続 平原王墓 その後 王墓無し	中期集落は 継承するが 遺構・遺物は 減少	壘墓の 激減 激動の 時代	住宅跡の 覆土中から 多量の鉄器 墳墓から鏡・青銅 器・鉄器	後漢鏡副葬の墓 多数 王墓無し	

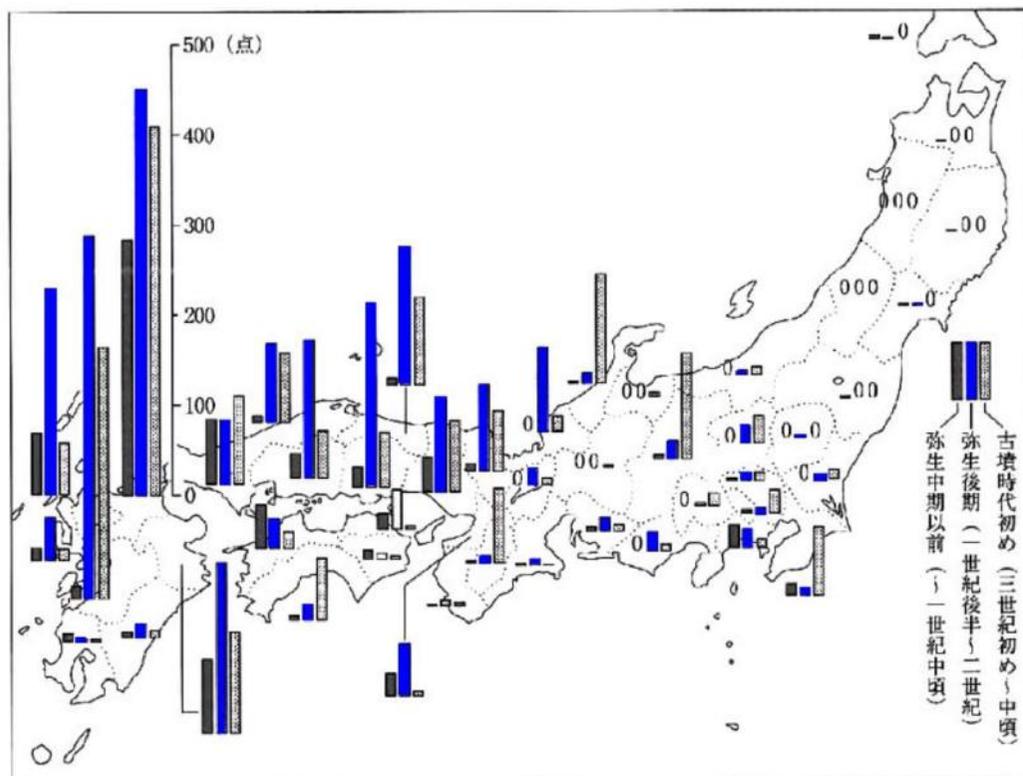
天孫族と出雲族 九州の勢力争い

- 最も出雲勢力が拡大して時期
 - 関門海峡から遠賀川流域
 - 大分県
 - 遠賀川流域の南側
(秋月・朝倉・日田・うきは・田主丸・久留米・八女・山門など)
 - 熊本県
- この地域が、出雲族の領域となったと推定。



- 天孫族と出雲族の領域分布が判明
- 出土青銅器・鉄器の所有者の推測
 - 佐賀県: 天孫族
 - 福岡県・時期と場所により、
 - 天孫族
 - 出雲族
 - 大分県: 出雲族
 - 熊本県: 出雲族

鉄器の出土 分布図



第 11 図 県別鉄器出土量 (寺沢 2009)

- 寺沢薫著「王権誕生」に記されるグラフは大変有名で、改変され、多くの人引用する。

- 一般的には、『北九州 vs 畿内』畿内説の否定用に使われる。

- この図表を、別の観点から見て欲しい！

『天孫族 vs 出雲族』

- 佐賀と、福岡の半分を領有した天孫族
- 熊本、大分と福岡県の半分、更に、中国・四国・畿内・北陸・東海・関東などを領有した出雲族
- 天孫族の本拠地の所有する鉄製品よりも、北九州を含む各地の出雲領の所有する鉄製品の方が、多いように見える。

鉄の器具・武器

- 鉄の武器は、天孫族と出雲族が入り乱れて戦った北九州に多い。
- 全国レベルで見ると、出雲族が進出した丹後・北陸・関東と瀬戸内沿岸に多い。
- 天孫族と出雲族：鉄製品の所有量は互角か、出雲がやや多い。
- 右図は「研究史からみた弥生時代の鉄器文化」野島永著 より、彩色丸地

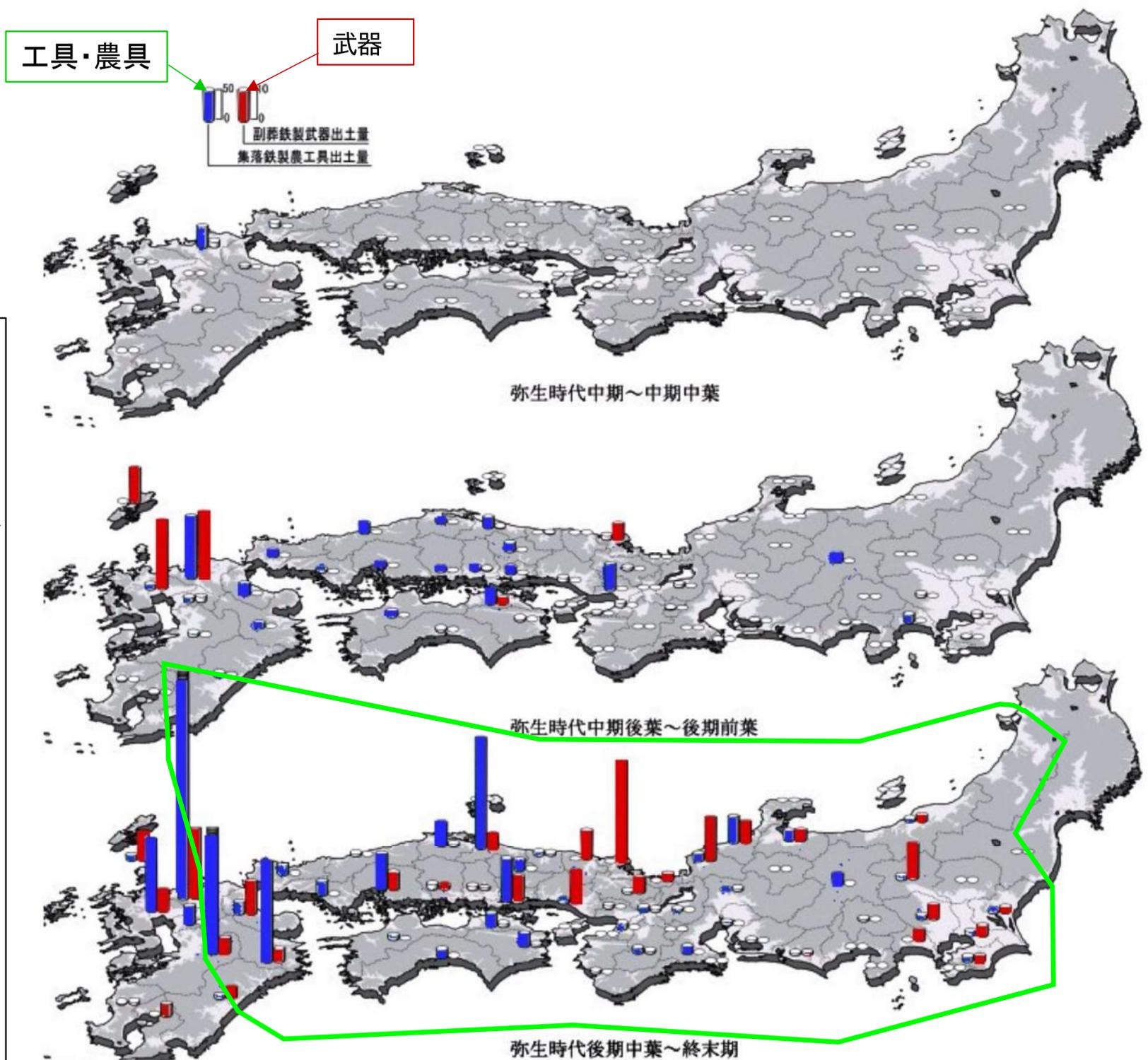


図 5.5 弥生時代の鉄器出土量

出雲族の鉄の使用

- 鉄製品の内、武器の占める割合は、10%ほど。残りの大多数が農具と工具。
 - 出雲族の中で、鉄の出土量の多い、山陰地方の遺跡の例。

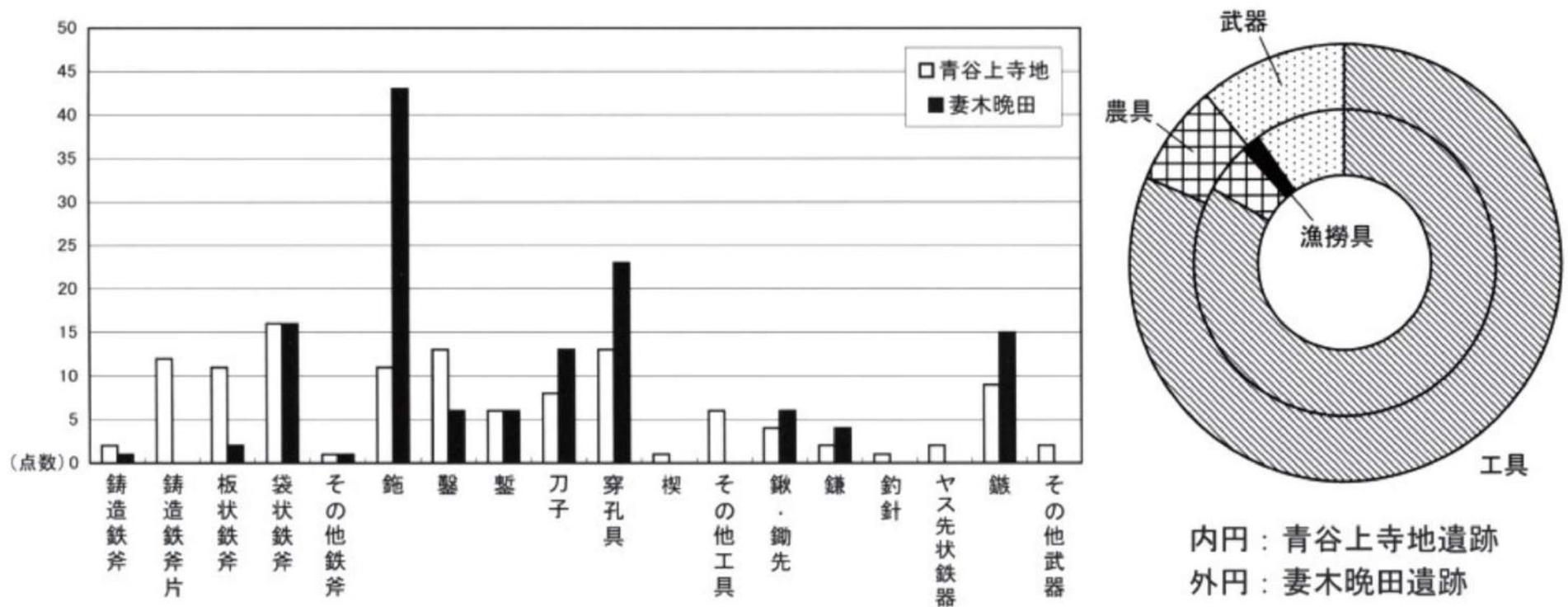


図4 鳥取県青谷上寺地遺跡(内円)と妻木晩田遺跡(外円)出土鉄器の器種構成 [水村編 2011:120,123]

「研究史からみた弥生時代の鉄器文化」……野島 永著 より

高地性集落

- 高地性集落は、一時的に構築されたもの、「十数年に渡り」使用されたもの、「数百年単位」で使用されたものが有る。
 - 「数百年単位」：瀬戸内海の航路を見渡せる場所などに構築されたものは長く使われ、航路の安全確保などにも使われ、戦時には、砦の役割を果たしたと推定
 - 「十数年に渡り」：長期戦争(抗争)状態に有り、住民避難と戦時の城塞の役を果たしたもの
 - 「一時的」：将に戦争で攻められるときに一時的に構築
- 弥生時代後期から古墳時代初期又は、第二次高地性集落は、出雲の国譲りと神武東征に関わる地域に構築
 - 寺沢薫氏の図は、愛知・静岡西部に多くの高地性集落を示している。
- 弥生時代中期後半から後期初頭の高地性集落は、出雲一族が勢力を全国へ拡大する時代に構築したものと推定する。

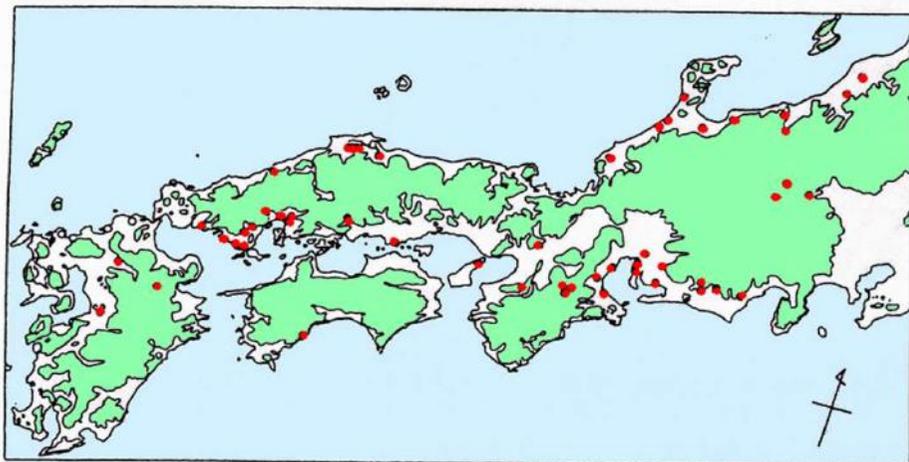
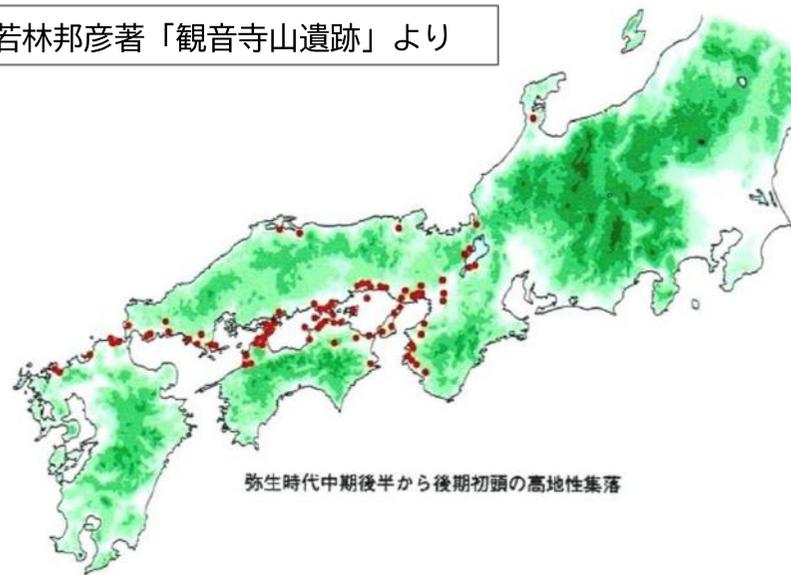


図49 「倭国乱」の頃の典型的な第二次高地性集落(寺沢薫『王権誕生』)

若林邦彦著「観音寺山遺跡」より



弥生時代中期後半から後期初頭の高地性集落



弥生時代後期から古墳時代初頭の高地性集落

図13 ● 高地性集落の分布の変化
弥生中期と後期では、高地性集落の分布は異なる。
後者はより広く分布している。

出雲の国譲りの伝説と遺跡

出雲大社境内遺跡と出雲大社本殿の復元

神戸大学建築史研究室



出雲大社本殿復元図 透視図

Copyright © 足立・黒田・中江研究室



加茂岩倉遺跡銅鐸39個



荒神谷遺跡



青谷上寺地遺跡



諏訪大社

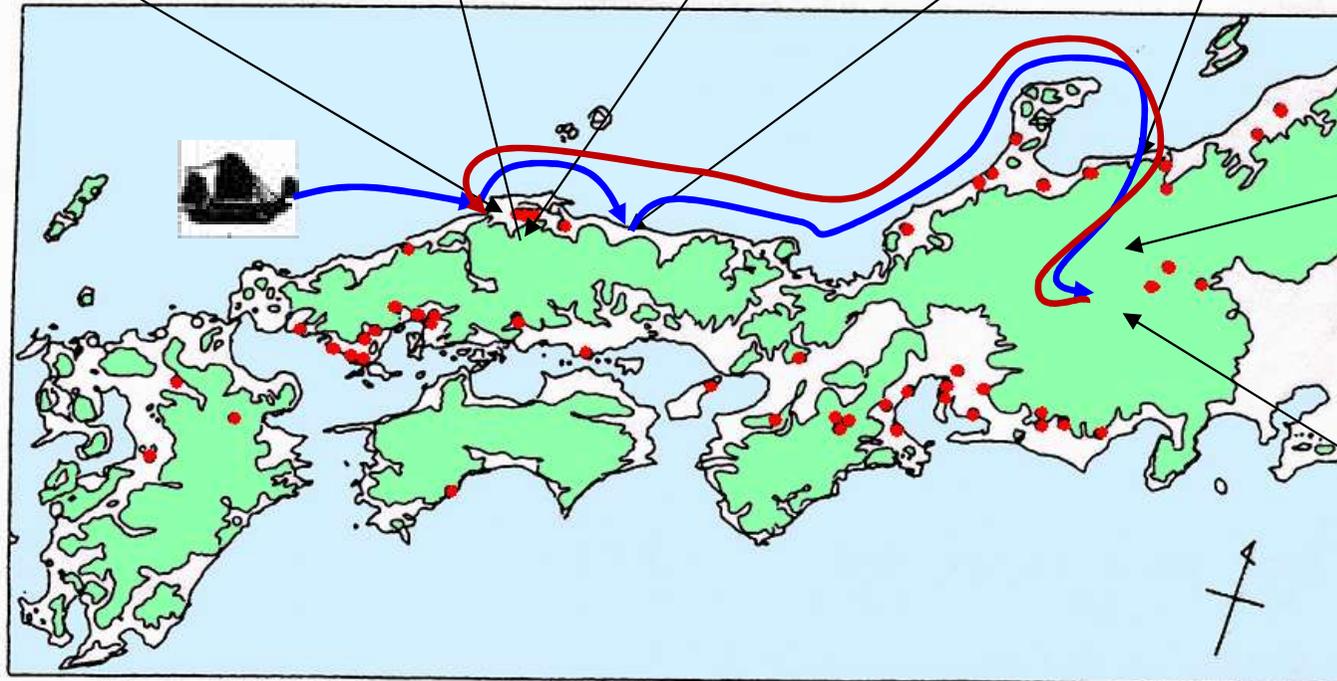
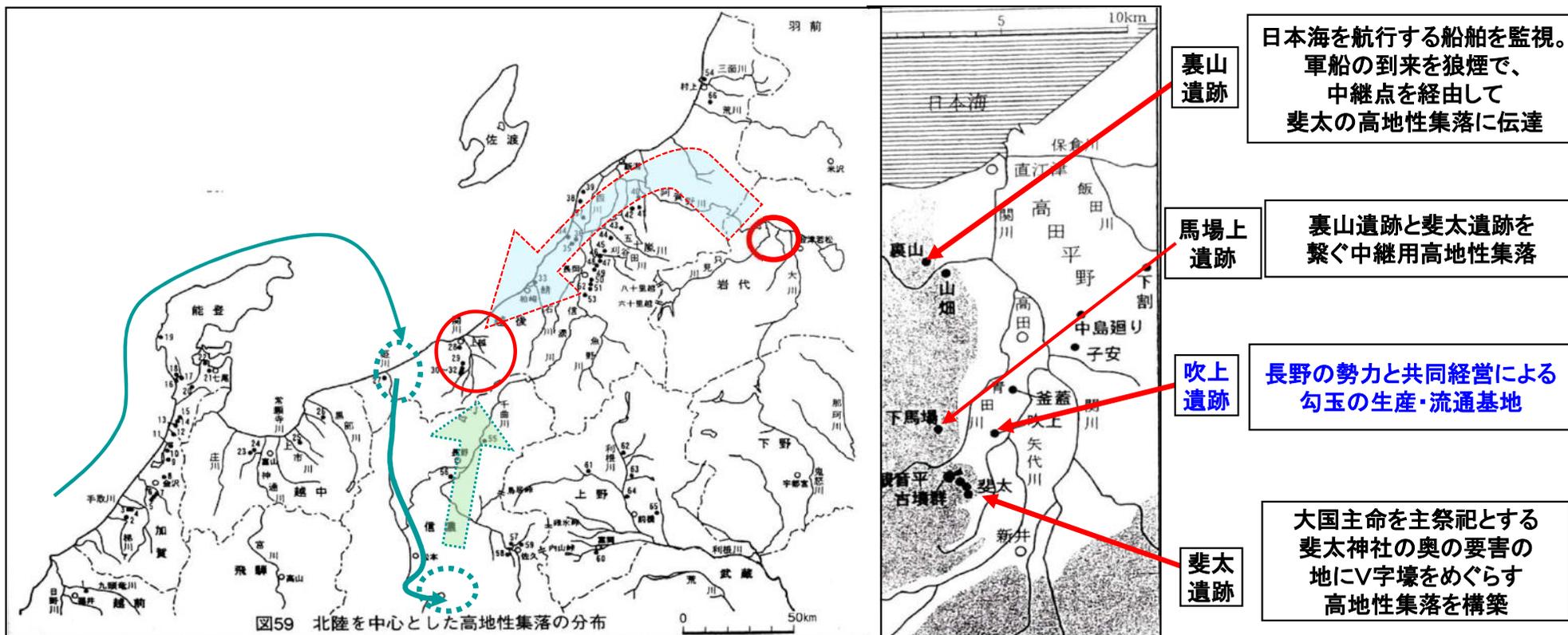


図49 「倭国乱」の頃の典型的な第二次高地性集落(寺沢薫「王権誕生」)

吹上遺跡を含む高地性集落斐太地域では (甘粕 健著「倭国大乱と日本海」第4章越後・会津の情勢より)



裏山遺跡
日本海を航行する船舶を監視。軍船の到来を狼煙で、中継点を経由して斐太の高地性集落に伝達

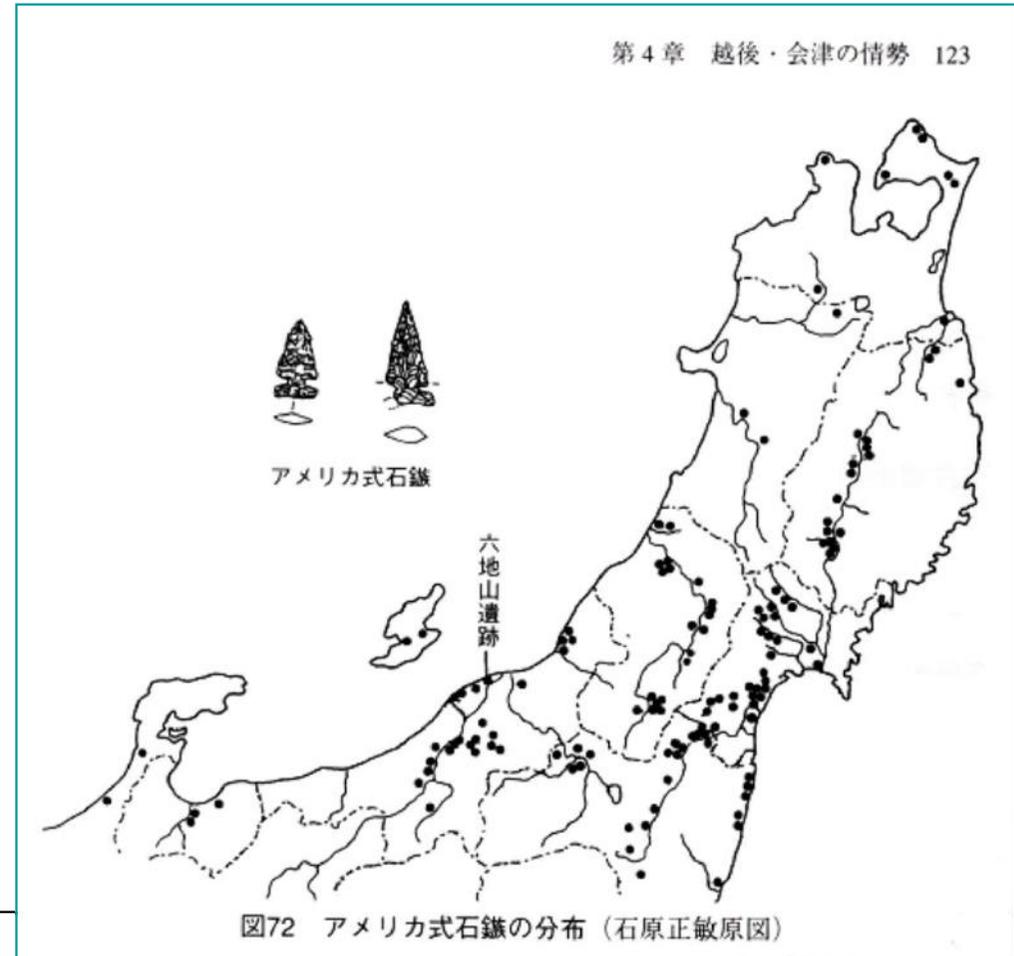
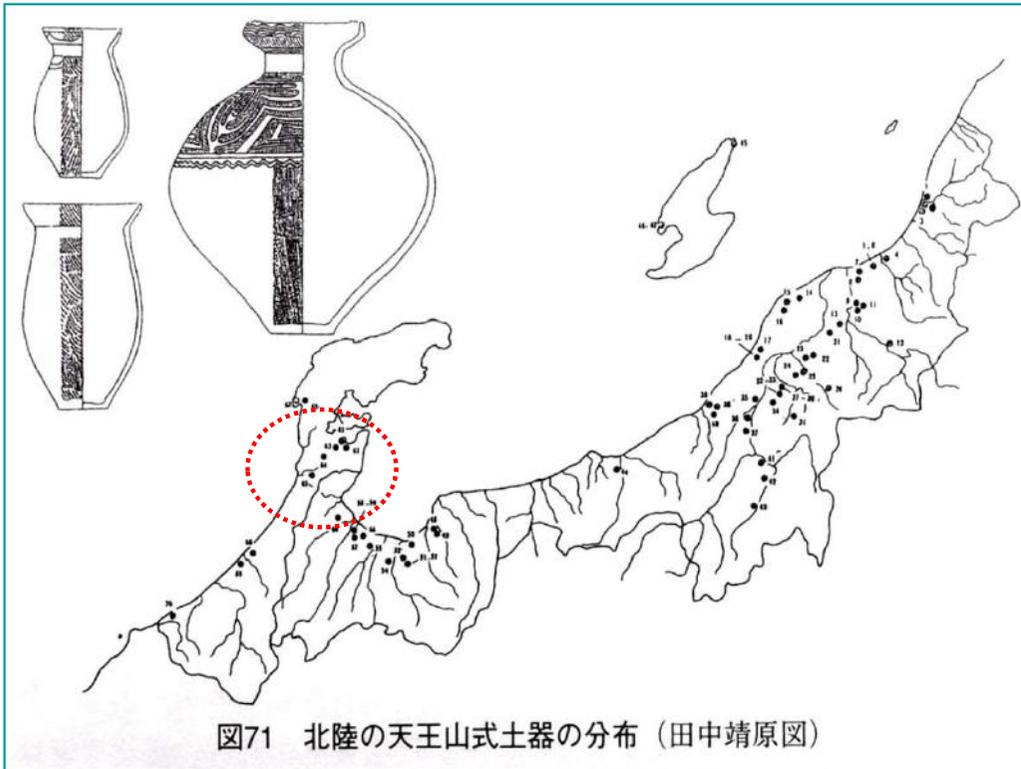
馬場上遺跡
裏山遺跡と斐太遺跡を繋ぐ中継用高地性集落

吹上遺跡
長野の勢力と共同経営による勾玉の生産・流通基地

斐太遺跡
大国主命を主祭祀とする斐太神社の奥の要害の地にV字壕をめぐらす高地性集落を構築

- 斐太神社付近の集落(吹上遺跡)で、長野人を招来、翡翠原石の産地:糸魚川から移入し、勾玉生産を開始した。
 - 天孫族軍の出雲への襲来と建御名方の敗戦の報が伝わる。
- 斐太神社の裏山に高地性集落(延長900mの環濠含む)を築造、海岸線を見る高地性集落から中継一ヶ所を経て、襲来情報入手の段取りを備える。築造と守備兵は、会津から援軍あり。
 - 建御名方軍は、母の住む糸魚川から上陸し、塩の道を通り、安曇野を経て、諏訪に入った。
 - 建御名方は、高天原軍に追いつめられ、諏訪から動かない条件で降伏。
- 長野から来た者(技術者)は、急に斐太・吹上から離れ、勾玉生産は終了。
- この一連の高地性集落は、出雲族の建御名方神を支援するために、急遽築造されたもので、北陸・能登・富山から越後平野まで連なる。この高地性集落の築造と警備に携ったのは、会津の部隊。鍬や土器から判明した。
- 従って、東北の会津には、出雲方の有力な部族が居たことになる。(氷川神社が複数ある)

高地性集落に東北系(天王山式)土器と鏃

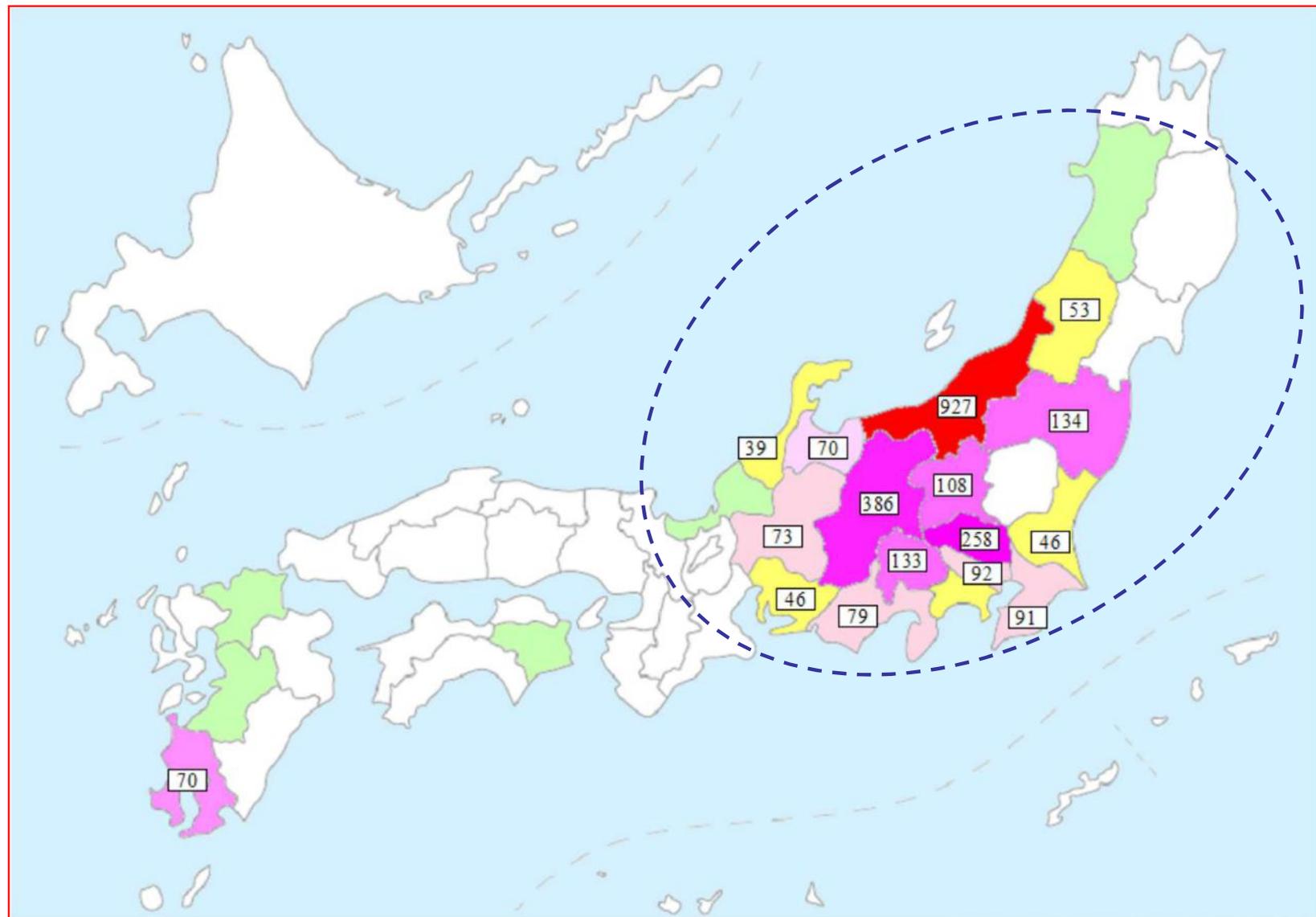


— 甘粕 健著「越後・会津の情勢」(倭国大乱と日本海)より

- 越後平野で北陸系と共存した東北系の天王山式土器は、さらに東部北陸の中心地域能登半島と富山湾沿岸の分布を広げています。(中略)東北の弥生時代の所産である石鏃の基部にえぐりを入れて逆T字形にしたアメリカ式石鏃の分布からもうかがえます(図72)。この二つの分布図を見ると、東北系の人々が越後平野から海路によってダイレクトに富山平野や能登半島と往復していることがうかがえます。
 - 東北系の土器は(中略)能登中枢部の高地性集落杉谷チャノバタケ遺跡の調査からまとまって出土した(中略)橋本澄夫さんは東北系の集団が応援部隊として加わった可能性を指摘しています。
 - 上記の記述から、切迫した建御名方神の逃避行を支援するために会津の部隊が動いたことは、会津が出雲系の有力な支配地であったことが判ります。
- ✓ その後、彼らが北陸の進んだ土器作りを学び、故郷に持ち帰ったことは、容易に想像が付きまます。古墳時代直前の北陸：小松式土器の流入は、支配体制の変更ではなく、新技術の持ち帰りを見るとその後の安定した会津の発展が理解し易い。

都道府県	諏訪神社	氷川神社	氷川+ 諏訪
北海道	2	1	3
青森県	8	-	8
岩手県	14	-	14
宮城県	18	-	18
秋田県	24	-	24
山形県	53	-	53
福島県	131	3	134
茨城県	44	2	46
栃木県	18	2	20
群馬県	108	-	108
埼玉県	96	162	258
千葉県	90	1	91
東京都	33	59	92
神奈川県	56	2	58
新潟県	927	-	927
富山県	70	-	70
石川県	39	-	39
福井県	16	14	30
山梨県	131	2	133
長野県	386	-	386
岐阜県	73	-	73
静岡県	79	-	79
愛知県	46	-	46
三重県	7	-	7
滋賀県	7	-	7
京都府	5	-	5
大阪府	4	-	4
兵庫県	20	-	20
奈良県	1	-	1
和歌山県	7	-	7
鳥取県	7	-	7
島根県	15	2	17
岡山県	19	-	19
広島県	9	-	9
山口県	3	-	3
徳島県	25	-	25
香川県	4	-	4
愛媛県	7	-	7
高知県	7	-	7
福岡県	24	-	24
佐賀県	10	-	10
長崎県	6	1	7
熊本県	31	-	31
大分県	9	-	9
宮崎県	15	-	15
鹿児島県	70	-	70
沖縄県	0	-	0
全国	2774	251	3025

諏訪・氷川両神社の分布



- 九州の諏訪神社は戦国時代以降のもので今回は、検討から除外
- 鹿島・香取地域は、天孫族の神社が並び天孫族が出雲国譲り後に、侵攻したもの。

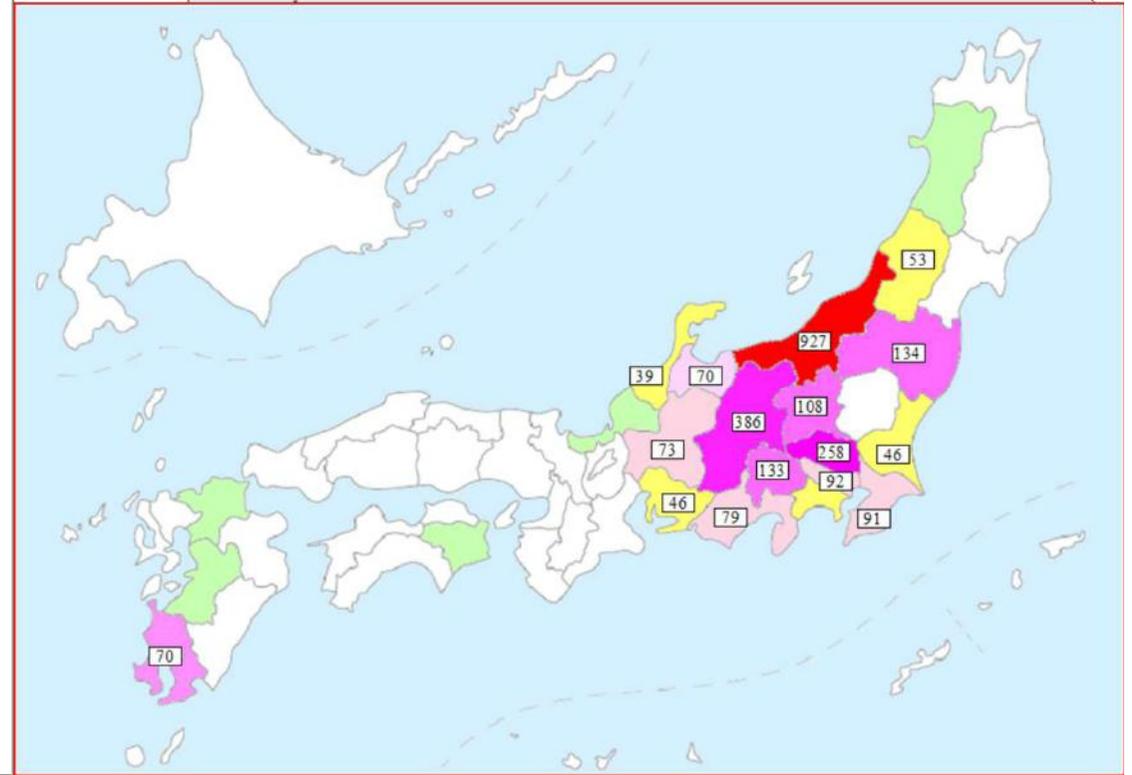
建御名方の統治・支配領域

空白の栃木県は、味耜高彥根神を祭る神社多数で出雲系の地域

出雲族の勢力範囲

青銅器埋納と神社の祭神の分布図から

- ・ 青銅器埋納の分布図と神社の祭神の分布図は、その両方で、出雲族の支配地を表している。
- ・ 青銅の武器祭器と銅鐸の分布は、支配地の拡大状況とその結果を示し、更に、氷川神社等・諏訪神社の分布は、その支配地域の拡大を示している。
 - ・ 氷川・諏訪の両神社のすっぽりと抜けた栃木県は、なんと、味耜高彥根神を祭神とする神社のある地域。
 - ・ 味耜高彥根神の行動範囲は、東北から、岐阜の藍見の喪山の神社に祭られる。
 - ・ その後に本拠地(母親の故郷は宗像)に戻り、大乱で戦い、死亡したと考える。
 - ・ 子孫は残っていない。
- ・ 出雲族の支配地を、東北まで広げると、拡大のし過ぎとの批判が出そうだが、
 - ・ 高地性集落の分布・北陸の天王山式土器の分布・アメリカ式石鏃の分布などの遺跡・遺物で確認できる。



翡翠(ヒスイ)と勾玉の加工技術

- ・ ヒスイ原石は、日本海岸の糸魚川市で産出。
 - ・ 日本の複数の地域でも産出するが、装飾品としての価値のあるヒスイ原石は糸魚川産のみ。
- ・ 古代中国でも硬玉と云われ珍重されたが、その産地も糸魚川。
 - ・ 昭和時代に入るまで、糸魚川産であることが忘れ去られ、その供給地は、ミャンマーとか、朝鮮半島と云われたが、誤りだった。 現在、世界へのヒスイ供給は、主にミャンマー。
- ・ ヒスイの硬度は、モース硬度: 6.5 - 7 極めて加工が難しい。
 - ・ 日本では、**縄文時代から**ヒスイに穴を開け、飾りものとして使われ、日本各地から出土する。
 - ・ 加工方法は、ボール盤のように、棒状のものを、垂直に下ろしながら、回転させる。ヒスイとの接触面には、砥石を含む液体を流し、研磨することで穴を開ける。
 - ・ 加工が長時間に渡り、その間、垂直性と回転を保つことは現在の工作機械の精度レベルが要求される。
- ・ 管玉も、石の丸棒を作り、2mmの直系の面に1mmの穴を丸棒の長さ分垂直に加工する。
 - ・ この加工技術は、ヒスイ穴明け加工技術と同じもの。
 - ・ 現在の考古学では 技術器具は不明。

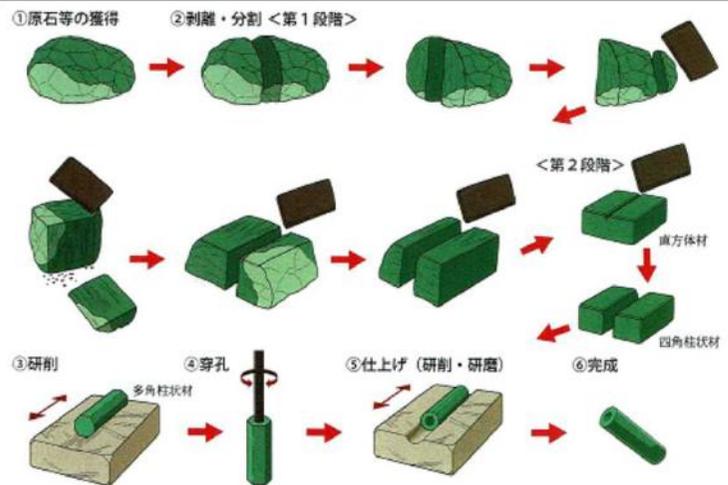


図7 青谷上寺地遺跡の管玉づくり(模式図)



茅野市尖石縄文考古館 展示品

ヒスイ勾玉・管玉の生産・流通

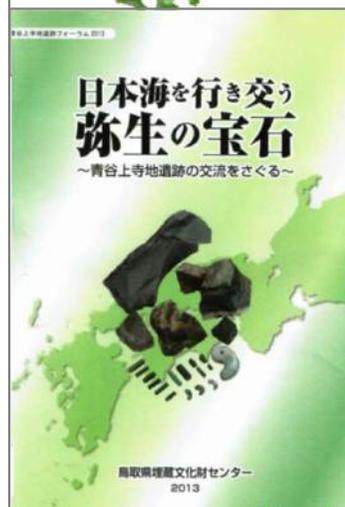
- 2013年鳥取県埋蔵文化センター「日本海を行き交う弥生の宝石」～青谷上寺地遺跡の交流を探る～の資料を基本に記す。
- ヒスイ原石の産地は、一カ所で糸魚川。
 - 奴奈川姫を手に入れ、大国主命は、加工工場を近隣の上越市、石川県に開き、生産を拡大したものと見られる。
- 管玉の原石は、各地にあり、日本海側各地に管玉の加工工場を開き、生産を高めた。
- 勾玉・管玉を集め、青谷上寺地などで装飾品として仕上げ、最終消費地である北九州へ送る壮大な交易ルートが構築されていたことが判る。

消費地の動向 (熊本大学文学部 木下尚子著「九州弥生人の勾玉・管玉と北陸」～ヒスイ素材の流通をさぐる～より)

北部九州の4遺跡の管玉と勾玉の消費状況からわかることをまとめると、以下ようになる。

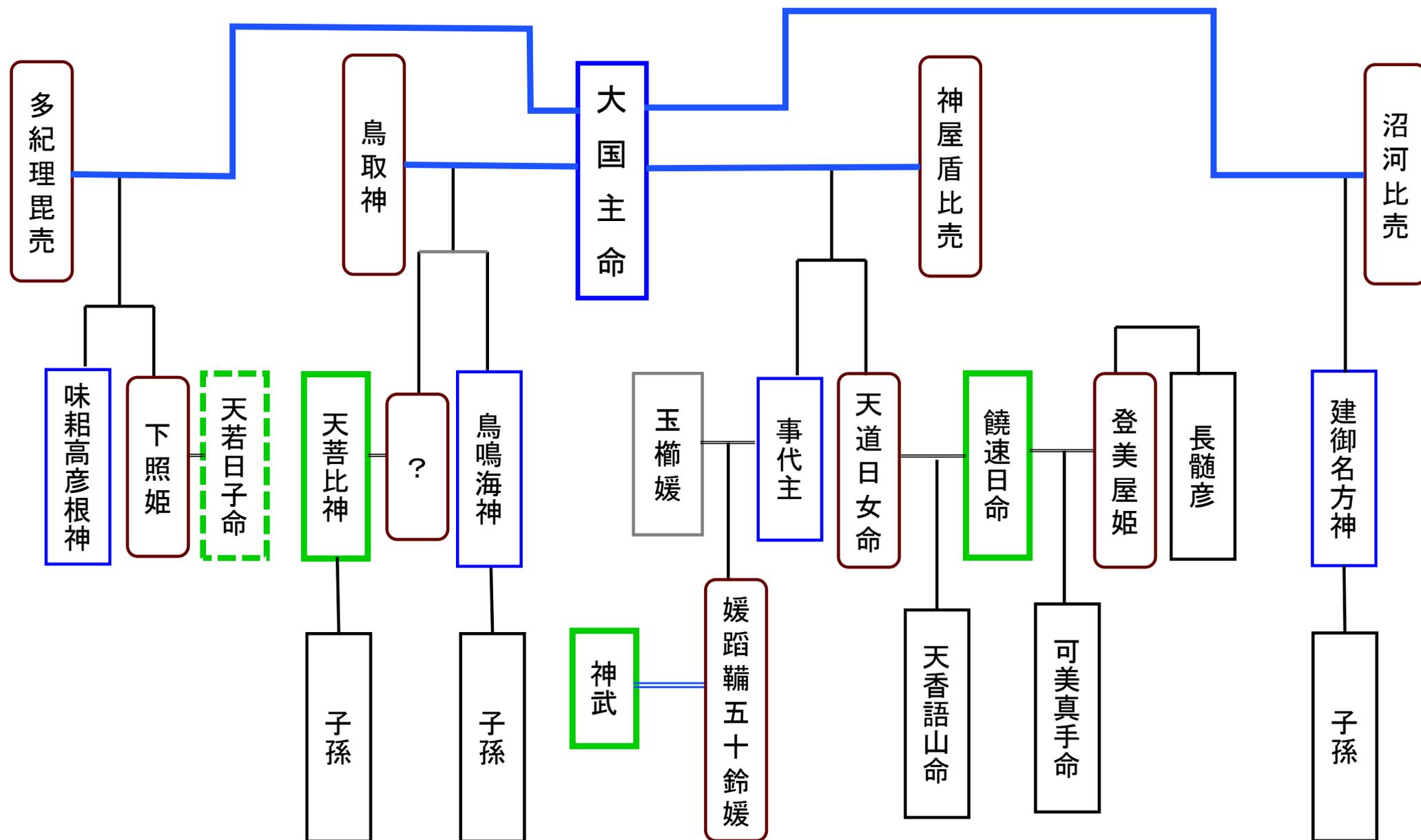
- 管玉とヒスイ勾玉の使用は、弥生時代前期末～中期初頭に、青銅製品使用と軌を同じくして福岡の有力者層間で始まり、やや遅れて唐津と宗像でも使用が始まった。
- 北陸産石材を使った管玉は、弥生中期前葉に北部九州に登場した。
- 管玉の加工地は大半が鳥取西部以西だが、弥生中期前葉には北陸・近畿北部で加工された管玉が宗像地域に入ってきている。

管玉とヒスイ勾玉を欲したのは、北部九州の権力者層であった。



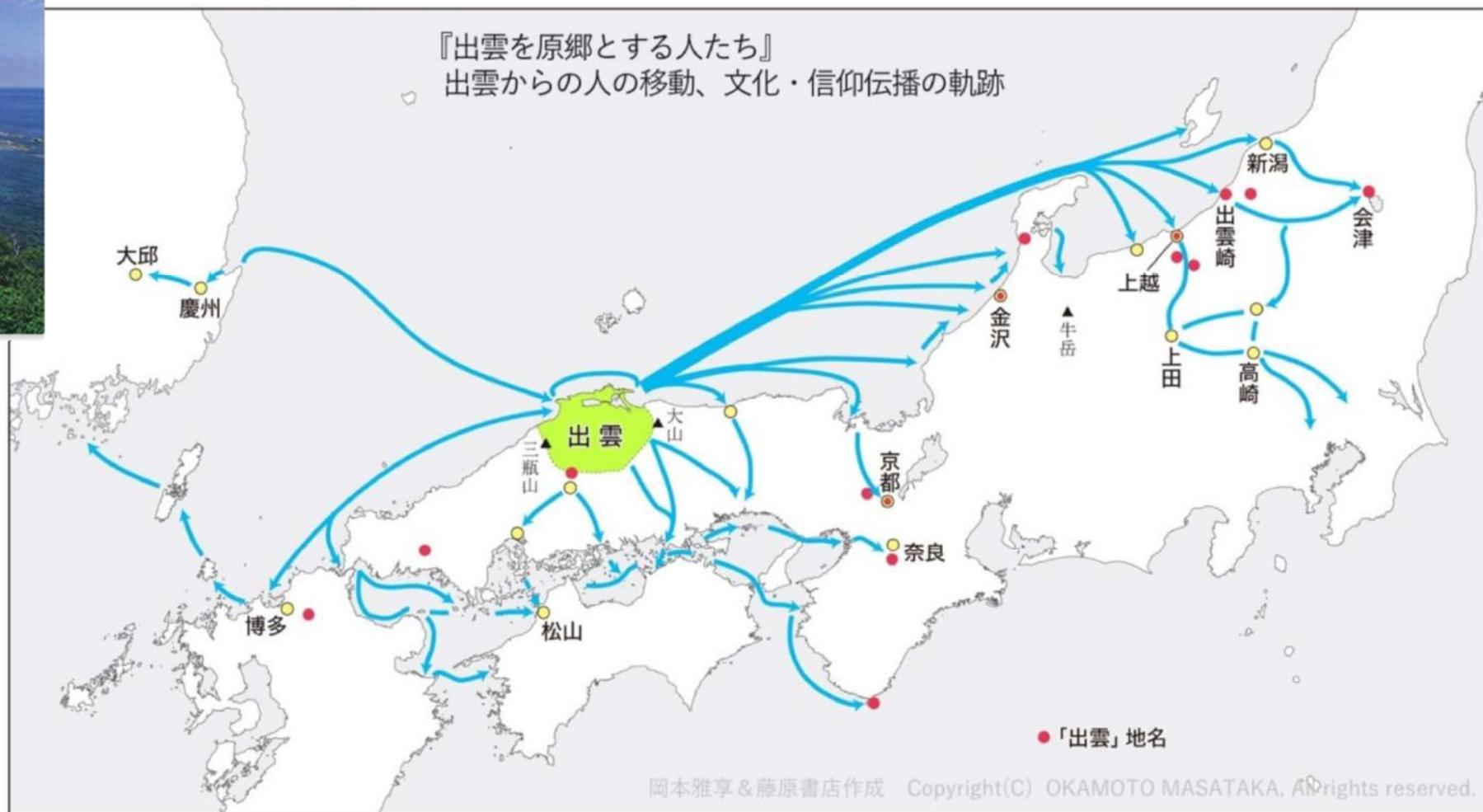
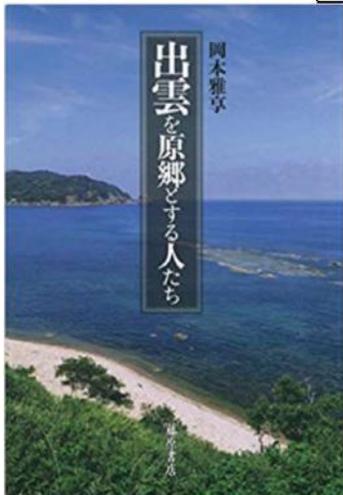
出雲一族の主要役達：大国主命と息子／婿たち

丸地推定：古事記・日本書紀・海部氏系図などより



出雲族の勢力範囲

- 銅鐸及び青銅製武器の埋納と副葬、生産地の分布から、
 - 全国レベルでの、出雲族の勢力範囲が推察できた。
- 戦傷遺跡と埋納の関係から、
 - 九州での、天孫族と出雲族の勢力範囲が、推測できた。
- 北九州では、戦乱が続いたことが、判明
 - 弥生の中頃には、勝者・敗者が入り乱れる戦乱があったと推定される。
 - 弥生の終期には、天孫族が勝者で、出雲族が敗者となる大きな戦乱が推定される。
- 出雲の国譲りでは、戦争が行われた
 - 高地性集落・戦傷遺跡が、建御名方神の敗退の戦いを示す。
- 出雲の勢力範囲の産業
 - 水田稲作など農業・一次産業に加えて、勾玉・管玉などの装飾品の産業が起き、日本海を通じた流通経路が明らかになった。
- 出雲の勢力範囲の拡大
 - 各地には、出雲族を祭神とする神社が存在する。
 - 出雲族が支配地域を広げて行く過程で、出雲族を祭神とする神社が広がったものと推測する。
- 出雲族の勢力範囲を見ると、九州を含む、日本全国に拡大している。一方、天孫族の支配地は九州の限定された範囲に留まり、その差は大きかったように見える。
- 古事記・日本書紀に出雲族の記述が多いのは、出雲族の実態を反映しているように見える。
 - 出雲族の正しい認識が、日本の古代史解明には必須と思われる。



- ・ 【佐野】子どもの頃、家が宍道湖のほとり、当たり前のようにメノウ拾いをしていたけれど、隣の駅が古代に勾玉を作っていた玉造(温泉)で、良質なメノウを産出した花仙山があったからだと知り、出雲がヒスイの産地、糸魚川と繋がっていたことも、体感として分かってきた。松江には古志原という地名もあるので、さらに実感できた。出雲にはスセリヒメ、越にはヌナカワヒメ、筑紫にはタギリヒメと、それぞれオオクニヌシの妻がいる。そうして出雲と筑紫、越との広がりも理解できた。
- ・ 【岡本】出雲の美保神社に沖縄のサバニーがある。出雲から越前海岸に着いたというソリコ舟もそうだが、小さな割り舟でも、かなりの遠距離を航海していた。
- ・ 【三浦】美保神社に諸手(もろた)舟神事があるが、紀州熊野の御船祭にも諸手(もろと)舟が登場する。出雲と熊野の関係は大きい。